

守山市都市計画マスタープラン策定に向けた まちづくりアンケート結果（速報）について

目 次

調査概要	1
I 全市集計.....	2
（１）地域のまちづくりの満足度・重要度（全市集計）	2
（２）地域の暮らしの心配事（全市集計）	5
（３）都市計画マスタープランの認知度（全市集計）	6
（４）まちづくりの進捗状況（全市集計）	7
（５）優先したいまちづくりの方向（全市集計）	9
（６）まちづくり活動の参加意向（全市集計）	9
（７）属性（全市集計）	10
（８）自由意見.....	11
II 学区別集計～現行計画の地域別構想の区分で集計～	12
（１）地域のまちづくりの満足度・重要度（学区別集計）	13
（２）地域の暮らしの心配事（学区別集計）	22
（３）都市計画マスタープランの認知度（学区別集計）	24
（４）まちづくりの進捗状況（学区別集計）	25
（５）優先したいまちづくりの方向（学区別集計）	30
（６）まちづくり活動の参加意向（学区別集計）	30
（７）属性（学区別集計）	31
III 3地域別集計～次期計画の地域区分案で集計～	32
（１）地域のまちづくりの満足度・重要度（3地域別集計）	33
（２）地域の暮らしの心配事（3地域別集計）	40
（３）都市計画マスタープランの認知度（3地域別集計）	41
（４）まちづくりの進捗状況（3地域別集計）	42
（５）優先したいまちづくりの方向（3地域別集計）	44
（６）まちづくり活動の参加意向（3地域別集計）	44
（７）属性（3地域別集計）	45

IV	年齢別集計.....	46
	(1) 地域のまちづくりの満足度・重要度（年齢別集計）	46
	(2) 地域の暮らしの心配事（年齢別集計）	51
	(3) 都市計画マスタープランの認知度（年齢別集計）	52
	(4) まちづくりの進捗状況（年齢数別集計）	53
	(5) 優先したいまちづくりの方向（年齢別集計）	55
	(6) まちづくり活動の参加意向（年齢別集計）	55
	(7) 属性（年齢別集計）	56
V	中学生以下の子どもの有無別集計.....	57
	(1) 地域のまちづくりの満足度・重要度（子どもの有無別集計）	57
	(2) 地域の暮らしの心配事（子どもの有無別集計）	62
	(3) 都市計画マスタープランの認知度（子どもの有無別集計）	63
	(4) まちづくりの進捗状況（子どもの有無別集計）	64
	(5) 優先したいまちづくりの方向（子どもの有無別集計）	66
	(6) まちづくり活動の参加意向（子どもの有無別集計）	66
	(7) 属性（子どもの有無別集計）	67
VI	居住年数別集計.....	68
	(1) 地域のまちづくりの満足度・重要度（居住年数別集計）	68
	(2) 地域の暮らしの心配事（居住年数別集計）	73
	(3) 都市計画マスタープランの認知度（居住年数別集計）	74
	(4) まちづくりの進捗状況（居住年数別集計）	75
	(5) 優先したいまちづくりの方向（居住年数別集計）	77
	(6) まちづくり活動の参加意向（居住年数別集計）	77
	(7) 属性（居住年数別集計）	78

調査概要

(1) 調査の目的

次期都市計画マスタープラン策定にあたり、「お住まいの地域」に関する問を中心とした市民アンケート調査を実施し、地域別構想へ反映する。

(2) 調査方法等

対 象	令和7年8月末現在で守山市にお住まいの18歳以上の方2,000人を住民基本台帳から無作為に抽出
調査期間	令和7年11月8日(土)～11月30日(日)
調査方法	調査票を郵送発送および回収(無記名) 回収は、WEB回答も準備し、WEB回答の重複を避けるために、返信用封筒にランダムなIDを印字し、WEB回答時には入力を必須とした。
回 収 数	754件(郵送:459件/WEB:295件) 有効回答754件(回収率:37.7%)
調査項目	(1)地域のまちづくりの満足度・重要度 (2)地域の暮らしの心配事 (3)都市計画マスタープランの認知度 (4)まちづくりの進捗状況 (5)優先したいまちづくりの方向 (6)まちづくり活動の参加意向

分析にあたって、市民がお住まいの地域に対してどのように感じているかを全市で集計し、さらに現行計画の学区を用いて地域別に進めてきたまちづくりの検証を行うために7学区別の集計と、次期計画で進める予定の市街地の状況など地域特性を考慮した3つの地域別での集計を行った。

また、年齢、子どもの有無、居住年による違いを把握する集計を行った。

注意：学区別・地域別集計は母数が小さくなっており、集計結果の割合には一定の標本誤差が含まれる。

結果の割合が50%程度の場合、95%信頼区間では、有効回答数(n)が20～30程度ではおおむね±18～22%程度、30～50程度では±14～18%程度、50～100程度の場合おおむね±10～14%程度、100～150程度の場合±8～9%程度、200件台では±6%程度、500件以上では±4%未満の誤差が含まれる。したがって、回答数の少ない集計については、数値の厳密な比較ではなく、傾向把握を主眼として解釈する必要がある。

：構成比は、四捨五入により合計が100%にならない場合がある。

回答無の場合は、構成比の0%を表示せず、四捨五入により0%のものは表示している。

I 全市集計

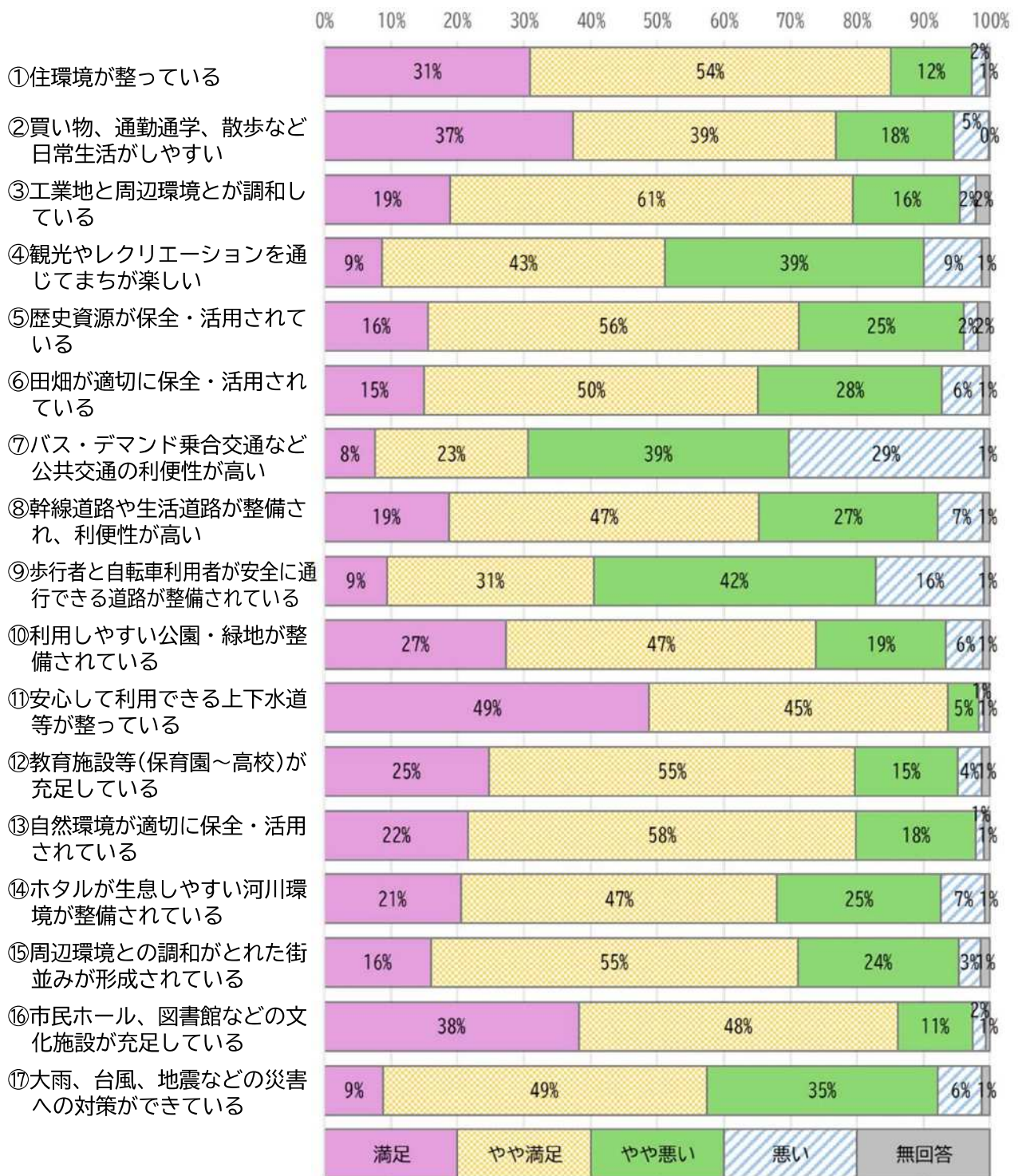
(1) 地域のまちづくりの満足度・重要度（全市集計）

問1 あなたのお住まいの地域およびその周辺のまちづくりについて、現在の満足度と今後の重要度を4段階で評価してください。

【地域のまちづくりの満足度】

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」と「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備」は、特に不満に感じる市民が多い。

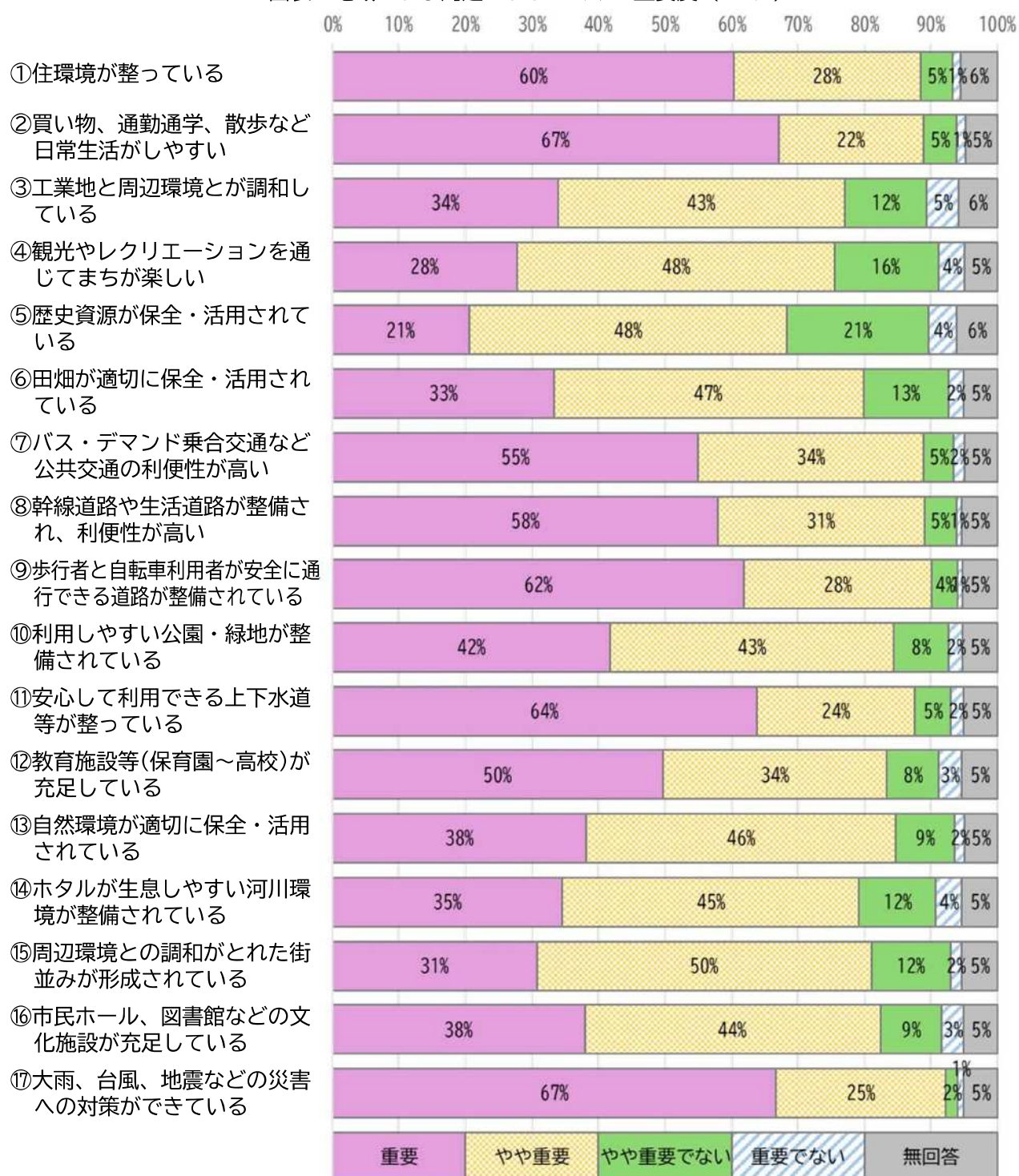
図表 地域および周辺のまちづくりの満足度（n=754）



【地域のまちづくりの重要度】

いずれも「重要ではない」とする割合は低く、災害への対策や安心して利用できる上下水道等が「重要」の割合が大きい。

図表 地域および周辺のまちづくりの重要度 (n=754)

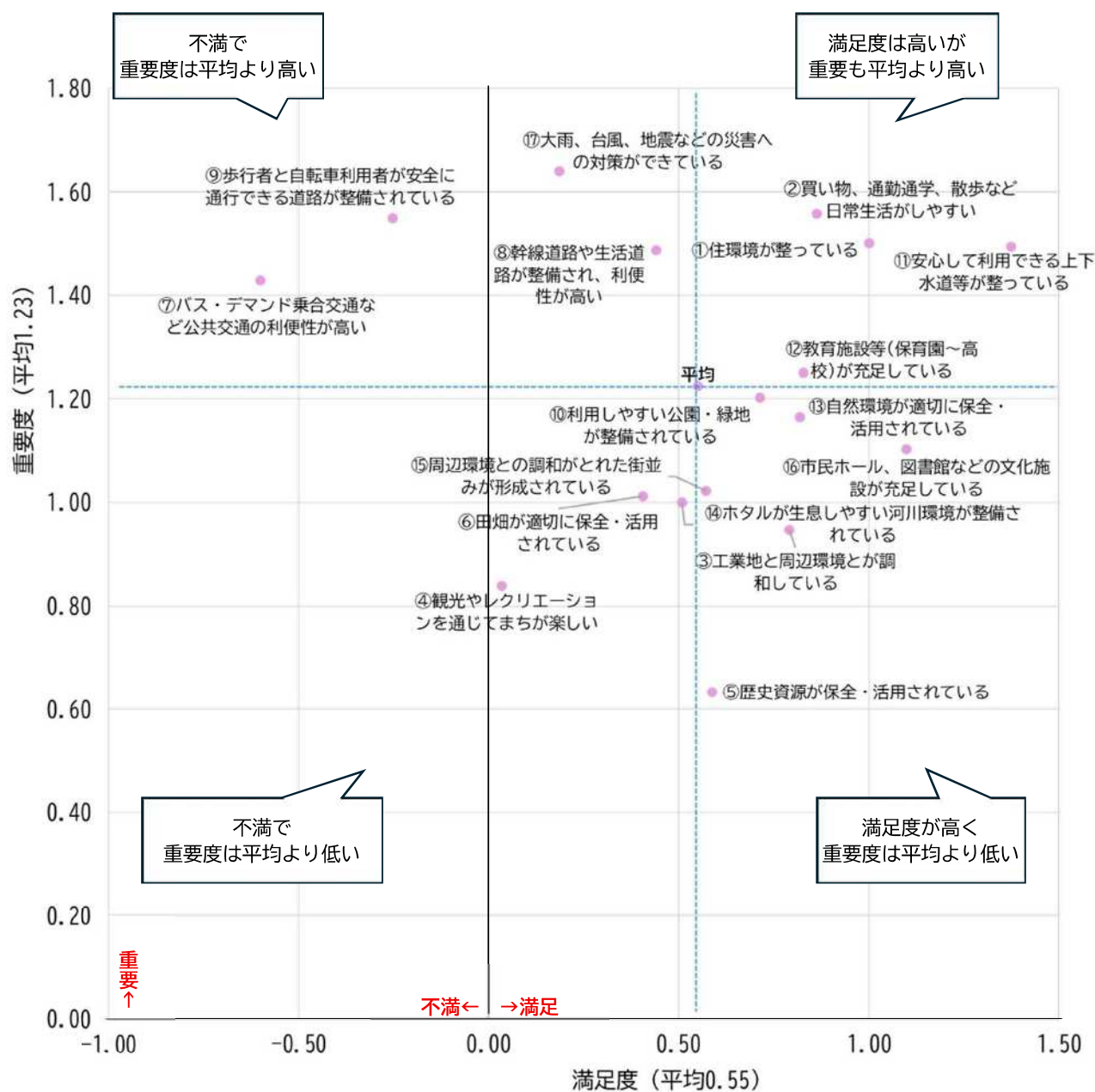


【満足度・重要度加重平均】

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」と「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備」は、不満が多く、重要度が高いことから、特に優先した取組が望まれる。

「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」、「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」は、満足度が平均以下で重要度も高いことから、優先度が比較的高いと言える。

図表 地域および周辺のまちづくりの満足度・重要度 加重平均散布図



※加重平均の方法

良い(2) やや良い(1) やや悪い(-1) 悪い(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

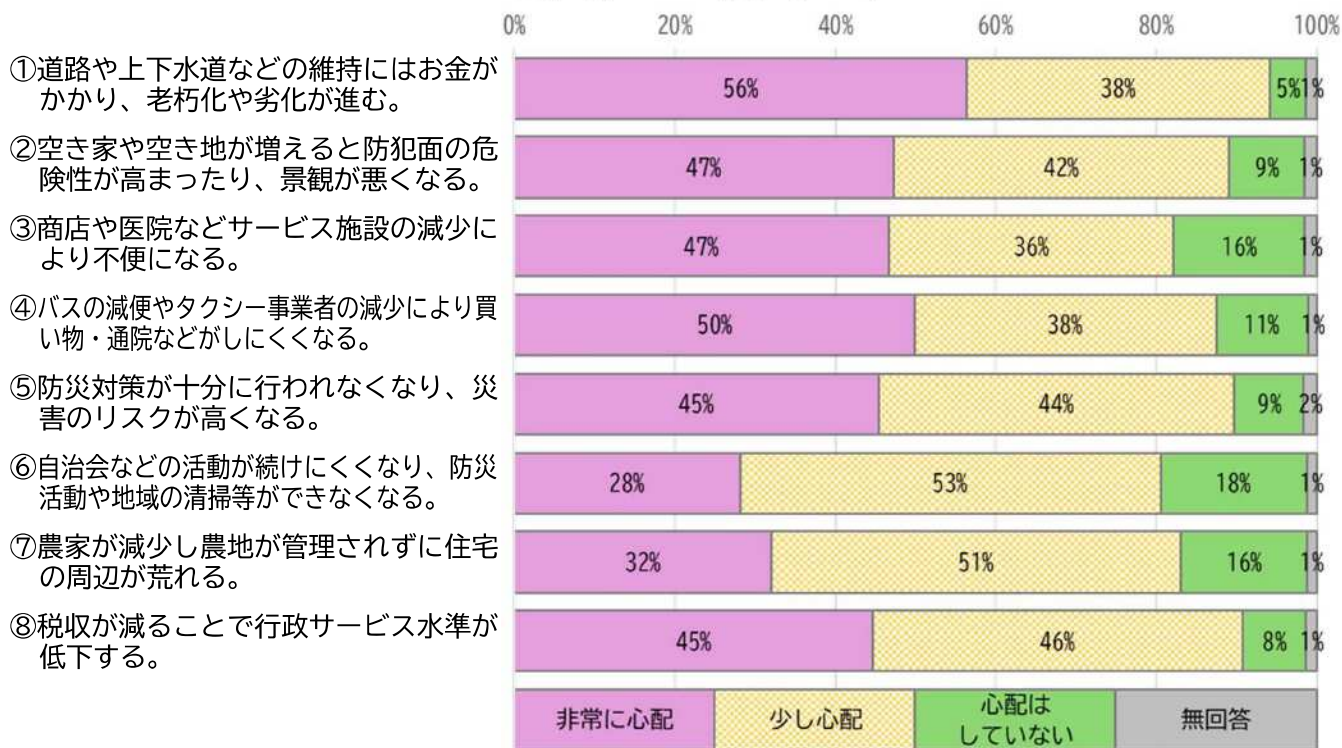
重要(2) やや重要(1) やや重要でない(-1) 重要でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

(2) 地域の暮らしの心配事（全市集計）

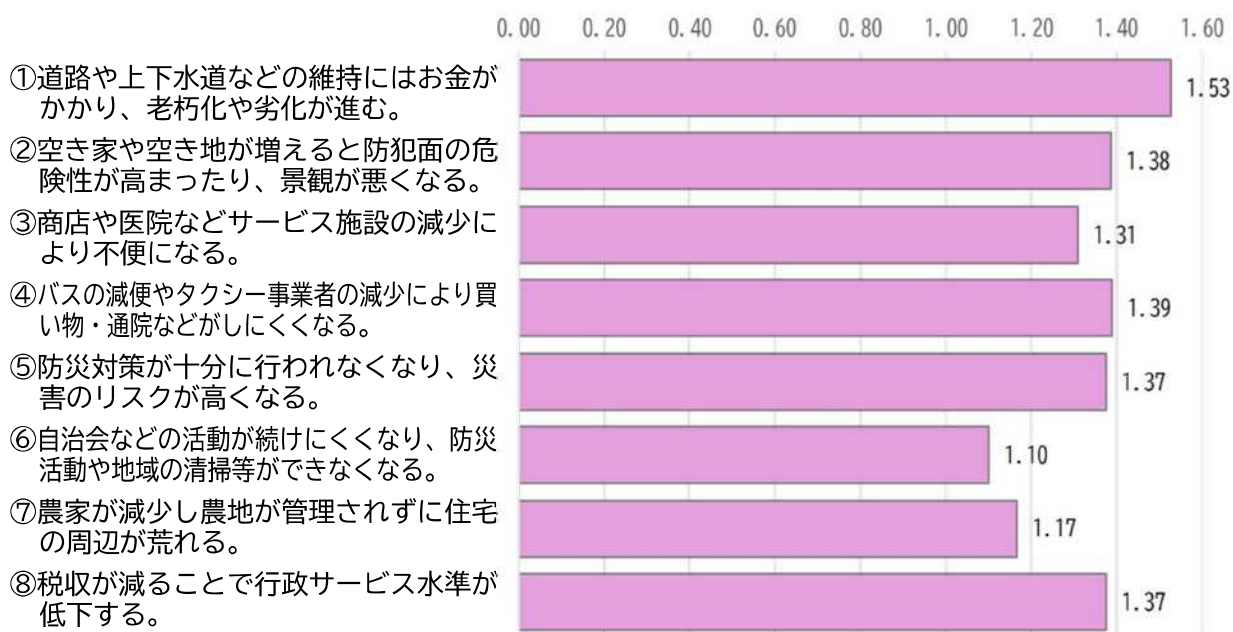
問2 今後は少子高齢化と人口減少などにより、従来と同じ水準で各種インフラや地域活動を維持していくことが難しくなるため、あなたのお住まいの地域およびその周辺の暮らしにおいても心配が増えることが予測されます。あなたは、それぞれどの程度心配していますか。

「道路や上下水道などの維持にはお金がかかり、老朽化や劣化が進む。」と「税収が減ることで行政サービス水準が低下する。」を心配する市民が多い。

図表 地域の暮らしの心配事（n=754）



図表 地域の暮らしの心配事 加重平均



※加重平均の方法：非常に心配(2)、少し心配(1)、心配はしていない(0)で加重 無回答を除く回答者の平均

その他の個別の心配事は、18%があげている。

図表 暮らしの心配事（その他）（n=754）

⑨その他の心配ごとが
あればご記入ください。

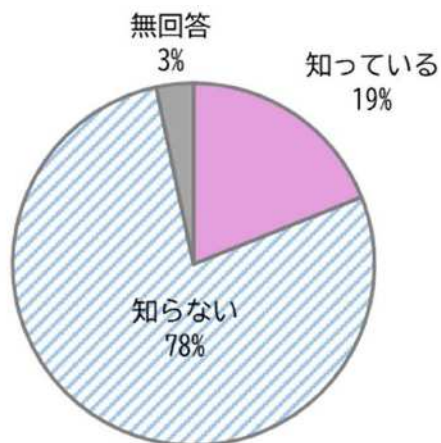


（３）都市計画マスタープランの認知度（全市集計）

問３-１ あなたは、守山市都市計画マスタープランの目標に基づきまちづくりが進められていることを知っていますか。

都市計画マスタープランの認知度は、19%に留まる。

図表 都市計画マスタープランの認知度（n=754）

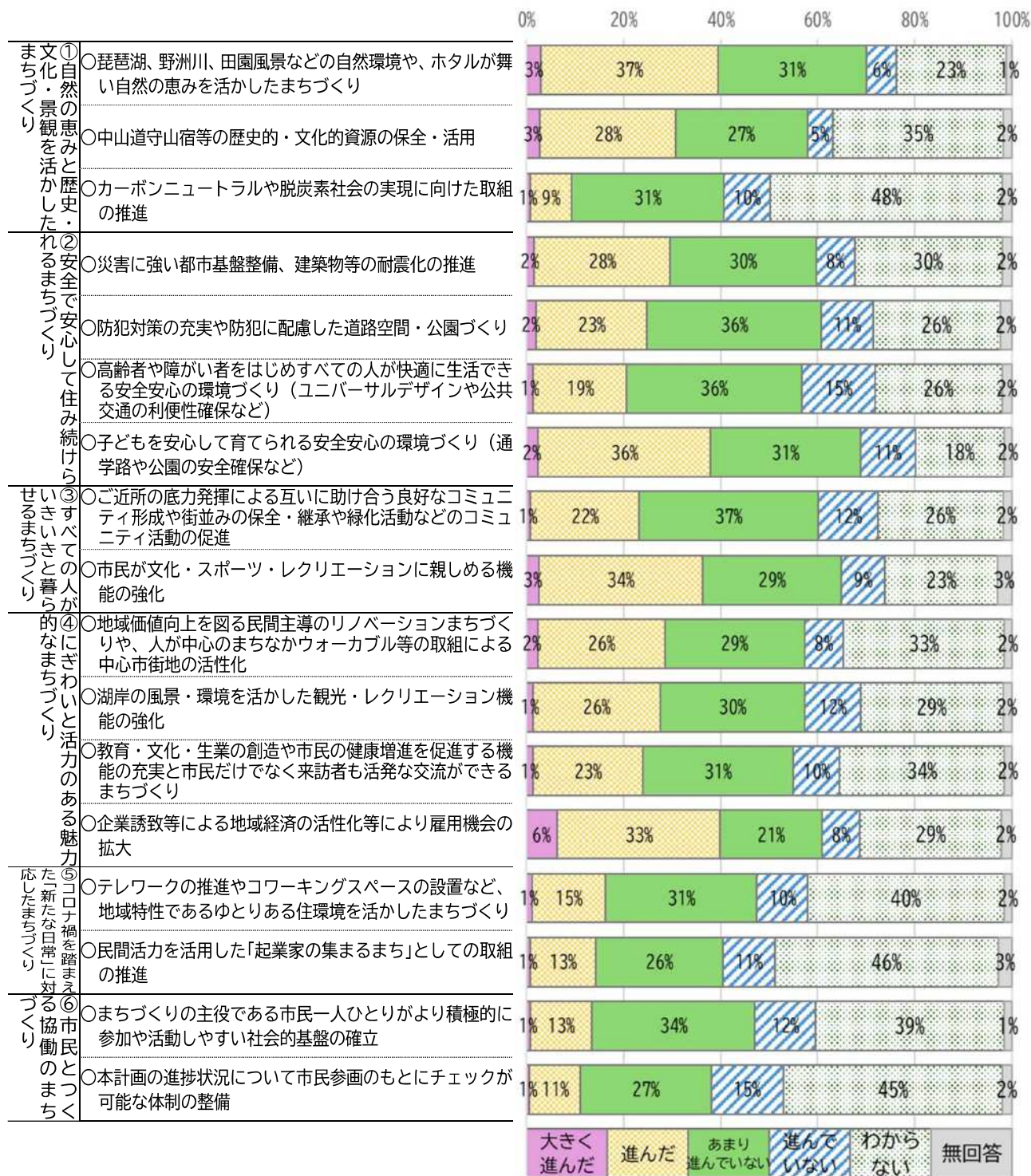


(4) まちづくりの進捗状況（全市集計）

問3-2 守山市が進めてきたまちづくりの進み具合について伺います。守山市都市計画マスタープランでは、以下の①～⑥のまちづくりの目標に向かって取り組んできましたが、あなたはこの10年で、市全体でそれぞれの程度進んだと思いますか。

個々の方向性について「琵琶湖、野洲川、田園風景などの自然環境や、ホタルが舞い自然の恵みを活かしたまちづくり」と「企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大」は、4割が進んだと評価している。「わからない」が5割近く見られる項目もある。

図表 まちづくりの進捗状況（n=754）



評価をした回答者のみで加重平均で集計すると、概ね「進んだ」寄りの評価であり、「企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大」が最も「進んだ」と評価されている。

一方、「本計画の進捗状況について市民参画のもとにチェックが可能な体制の整備」は、「進んでいない」寄りの評価となっており、6つの目標別での集計でも「市民とつくる協働のまちづくり」が「進んでいない」寄りで評価されている。※

図表 まちづくりの進捗状況（加重平均）



※加重平均の方法

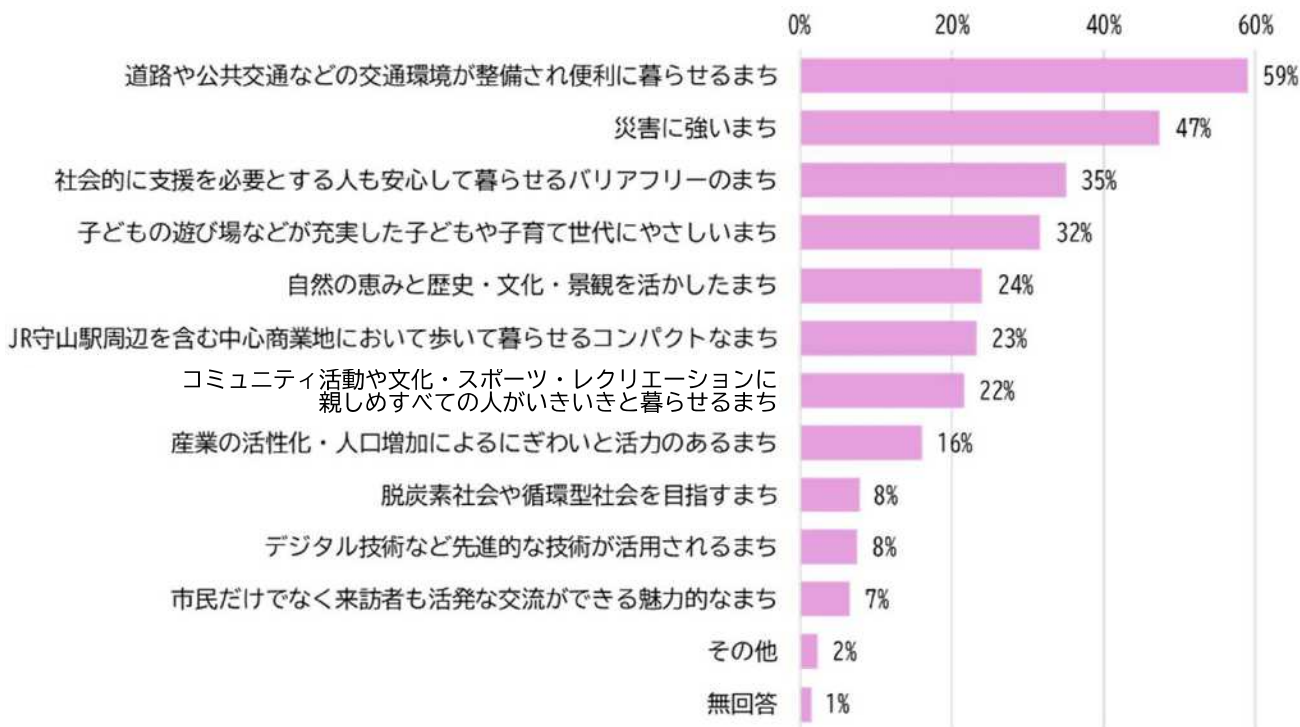
大きく進んだ（3）、進んだ（2）、あまり進んでいない（1）、進んでいない（0）で加重
「わからない」と「無回答」は除く回答者の平均

(5) 優先したいまちづくりの方向（全市集計）

問4 今後優先したい守山市のまちづくりの方向について伺います。あなたが優先したいと思うものの3つまで○をつけてください。

「交通環境が整備され便利に暮らせるまち」は最も多く、6割を占める。

図表 優先したいまちづくりの方向（n=754）

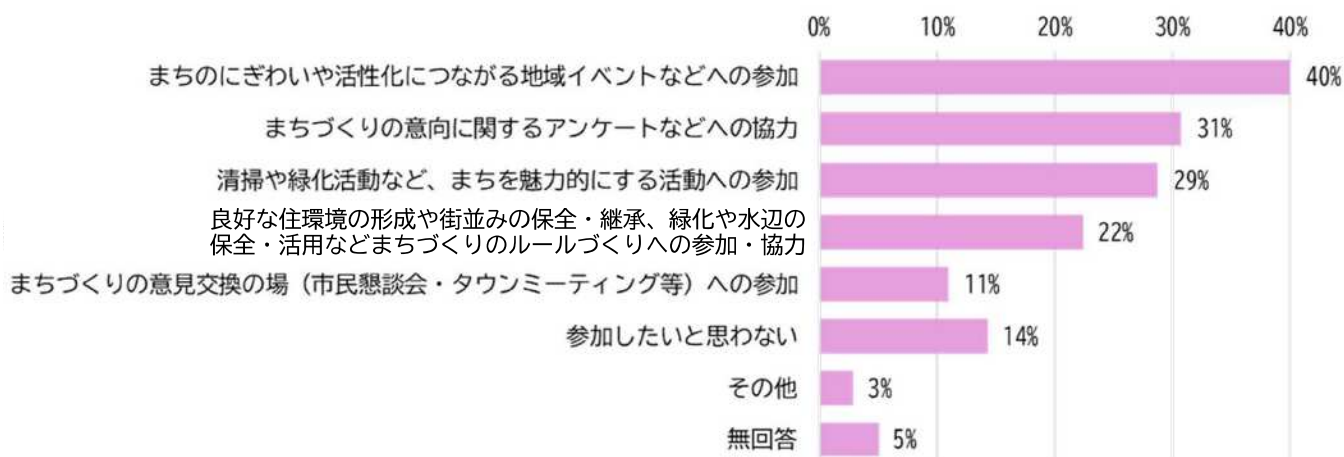


(6) まちづくり活動の参加意向（全市集計）

問5 あなたは、どのようなまちづくりの活動に参加したいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「地域イベントなどへの参加」は、40%が意向を示しており、「参加したいと思わない」は、14%に留まる。

図表 まちづくり活動の参加意向（n=754）



(7) 属性（全市集計）

問7 最後に、あなたのことについてお伺いします。調査の分析のために必要ですのでご協力をお願いします。

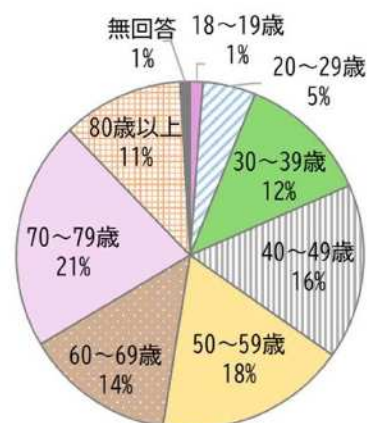
①年齢（n=754）

20歳代以下が6%と少なく、70～79歳は21%で、他の年代よりも多い。

30歳代以上は各15%前後みられ、概ね本市の人口構成に近い。

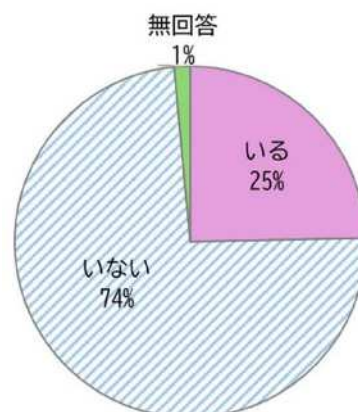
【参考令和7年8月末守山市人口構成比】

18～19歳	3%	50～59歳	18%
20～29歳	13%	60～69歳	12%
30～39歳	14%	70～79歳	13%
40～49歳	18%	80歳以上	9%



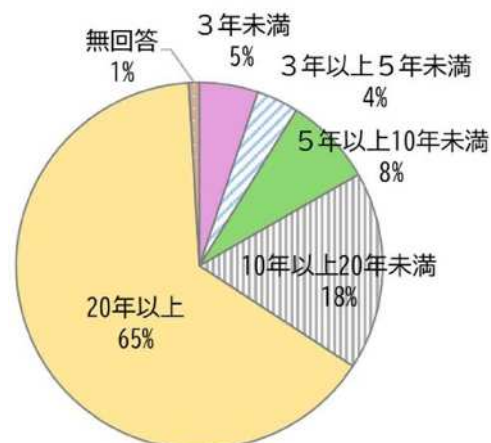
②中学生以下の子どもの有無（n=754）

「中学生以下の子どもがいる」は、25%見られる。



③居住年数（n=754）

20年以上が65%を占め、10年未満は17%に留まる。



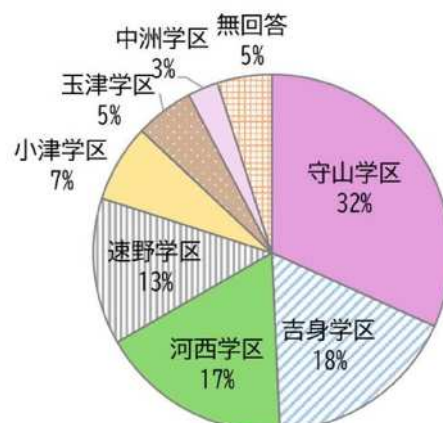
④居住地域（n=754）

守山学区が32%を占め、小津学区、玉津学区、中洲学区は5%前後に留まる。

概ね本市の人口構成に近い。

【参考令和7年8月末守山市人口構成比】

守山学区	32%	小津学区	7%
吉身学区	21%	玉津学区	5%
河西学区	17%	中洲学区	3%
速野学区	14%		



(8) 自由意見

守山市のまちづくり（都市計画）についてご意見などありましたらご自由にお書きください。

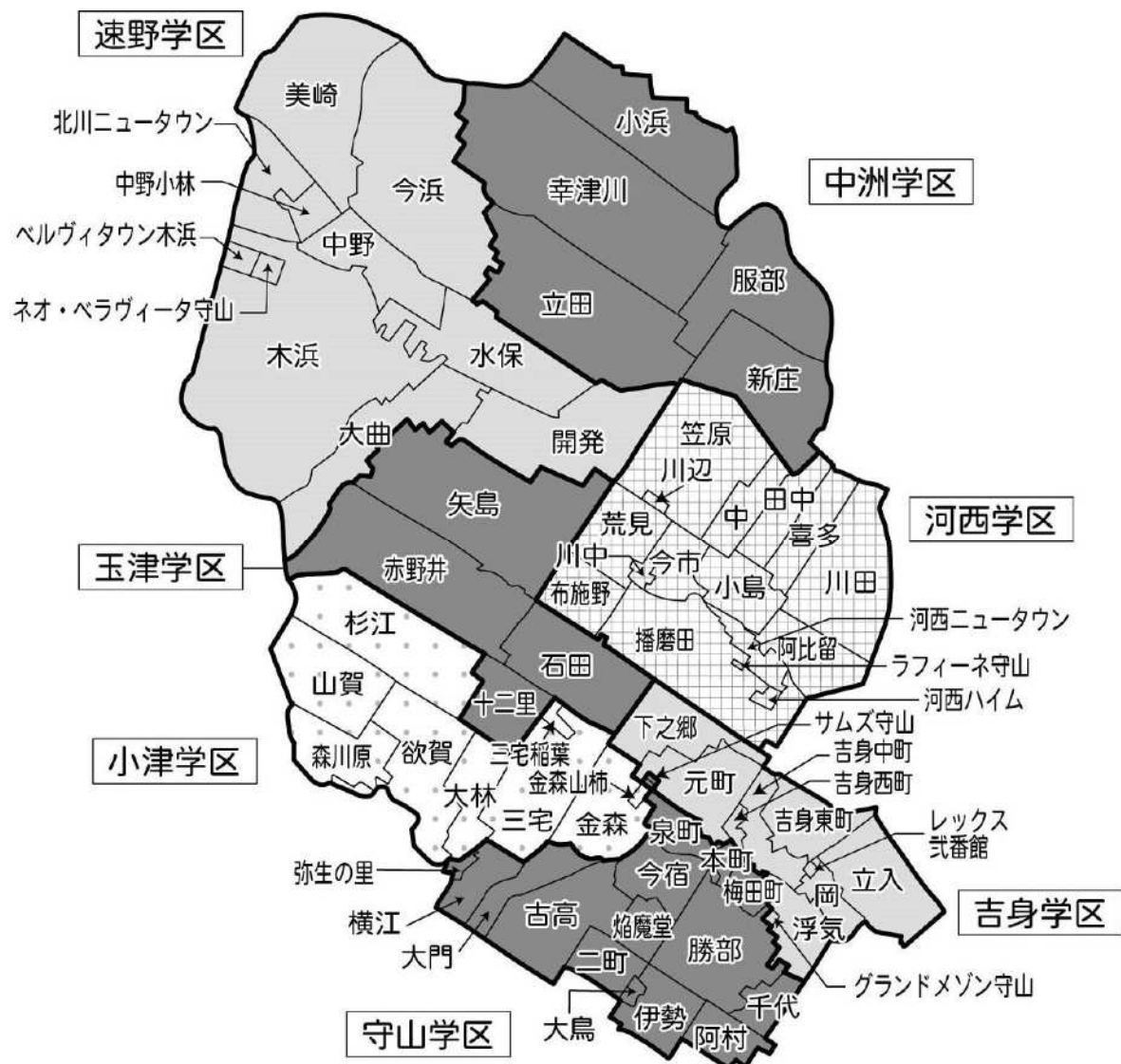
「道路」についての意見が 40 件で最も多く、次いで、「まちづくり全体」と「公共交通」が 27 件、「駅周辺」についての意見が 22 件となっている。

図表 自由意見カテゴリー一覧

カテゴリー	件数
道路	40
まちづくり全体	27
公共交通	27
駅周辺	22
まちのイメージ	12
安心・安全	11
高齢者	11
子育て・教育	9
商業施設	9
公共施設	7
自然	7
学校・教育	6
暮らしやすさ	6
コミュニティ	5
住みやすさ	5
防災	5
健康・福祉	4
その他	39
計	252

II 学区別集計～現行計画の地域別構想の区分で集計～

図表 7つの学区で地域を区分



(1) 地域のまちづくりの満足度・重要度（学区別集計）

【満足度比較（学区別）】

地区別で満足と不満の格差が最も大きいのが「買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい」で、駅から遠くなるにつれて大きい傾向がある。「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」はどの地区でも評価が低くなっている。

図表 地域のまちづくりの満足度の学区別の比較

	守山学区 (n=239)	吉身学区 (n=132)	河西学区 (n=131)	小津学区 (n=53)	玉津学区 (n=40)	中洲学区 (n=21)	速野学区 (n=100)
①住環境が整っている	1.22	1.27	1.01	0.77	0.83	-0.05	0.51
②買い物、通勤通学、散歩 など日常生活がしやすい	1.21	1.29	0.89	0.70	0.20	-1.00	0.10
③工業地と周辺環境とが調 和している	0.88	0.80	0.86	0.90	0.58	0.33	0.78
④観光やレクリエーション を通じてまちが楽しい	0.11	0.19	0.05	0.04	-0.05	-0.43	-0.04
⑤歴史資源が保全・活用さ れている	0.73	0.60	0.54	0.62	0.90	0.67	0.26
⑥田畑が適切に保全・活用 されている	0.39	0.46	0.54	0.40	0.18	0.29	0.24
⑦バス・デマンド乗合交通など 公共交通の利便性が高い	-0.58	-0.29	-0.61	-0.81	-0.88	-1.48	-0.73
⑧幹線道路や生活道路が整 備され、利便性が高い	0.56	0.53	0.26	0.64	0.38	-0.29	0.29
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通 行できる道路が整備されている	-0.27	-0.11	-0.26	-0.15	-0.28	-0.38	-0.45
⑩利用しやすい公園・緑地 が整備されている	0.81	0.88	0.51	0.68	0.68	0.10	0.75
⑪安心して利用できる上下 水道等が整っている	1.43	1.45	1.27	1.36	1.45	1.05	1.38
⑫教育施設等(保育園～高 校)が充足している	0.87	1.11	0.93	0.64	0.88	0.19	0.48
⑬自然環境が適切に保全・ 活用されている	0.79	0.80	0.87	0.89	0.88	0.67	0.88
⑭ホテルが生息しやすい河 川環境が整備されている	0.59	0.70	0.55	0.58	0.78	-0.19	-0.06
⑮周辺環境との調和がとれた 街並みが形成されている	0.62	0.62	0.49	0.62	0.67	0.33	0.48
⑯市民ホール、図書館などの 文化施設が充足している	1.15	1.29	1.11	1.17	1.20	0.48	0.83
⑰大雨、台風、地震などの災害 への対策ができています	0.23	0.34	0.18	0.19	0.18	-0.19	-0.08

※加重平均：良い(2) やや良い(1) やや悪い(-1) 悪い(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

【重要度比較（学区別）】

重要度には大きな違いは見られない。

図表 地域のまちづくりの重要度の学区別比較

	守山学区 (n=239)	吉身学区 (n=132)	河西学区 (n=131)	小津学区 (n=53)	玉津学区 (n=40)	中洲学区 (n=21)	速野学区 (n=100)
①住環境が整っている	1.63	1.55	1.33	1.50	1.56	1.29	1.40
②買い物、通勤通学、散歩 など日常生活がしやすい	1.66	1.74	1.33	1.69	1.36	1.43	1.43
③工業地と周辺環境とが調 和している	1.08	1.07	0.90	0.98	1.23	0.57	0.47
④観光やレクリエーション を通じてまちが楽しい	0.84	0.90	0.75	0.67	1.15	0.76	0.86
⑤歴史資源が保全・活用さ れている	0.68	0.70	0.61	0.82	0.77	0.33	0.53
⑥田畑が適切に保全・活用 されている	0.94	0.97	0.94	1.37	1.51	0.86	1.11
⑦バス・デマンド乗合交通など 公共交通の利便性が高い	1.37	1.34	1.52	1.58	1.54	1.33	1.49
⑧幹線道路や生活道路が整 備され、利便性が高い	1.54	1.41	1.42	1.44	1.66	1.24	1.43
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通 行できる道路が整備されている	1.62	1.63	1.52	1.50	1.67	1.24	1.48
⑩利用しやすい公園・緑地 が整備されている	1.27	1.27	1.02	1.13	1.49	1.00	1.07
⑪安心して利用できる上下 水道等が整っている	1.64	1.53	1.26	1.60	1.64	1.38	1.41
⑫教育施設等(保育園～高 校)が充足している	1.37	1.36	1.04	1.18	1.38	1.14	1.08
⑬自然環境が適切に保全・ 活用されている	1.23	1.20	1.20	1.20	1.46	0.95	1.00
⑭ホテルが生息しやすい河 川環境が整備されている	1.04	1.07	0.89	0.96	1.37	0.95	0.80
⑮周辺環境との調和がとれ た街並みが形成されてい	1.02	1.02	0.98	1.10	1.27	1.10	0.90
⑯市民ホール、図書館など の文化施設が充足してい	1.18	1.09	1.05	1.17	1.41	0.76	1.00
⑰大雨、台風、地震などの災害 への対策ができています	1.70	1.62	1.60	1.65	1.67	1.67	1.57

※加重平均：

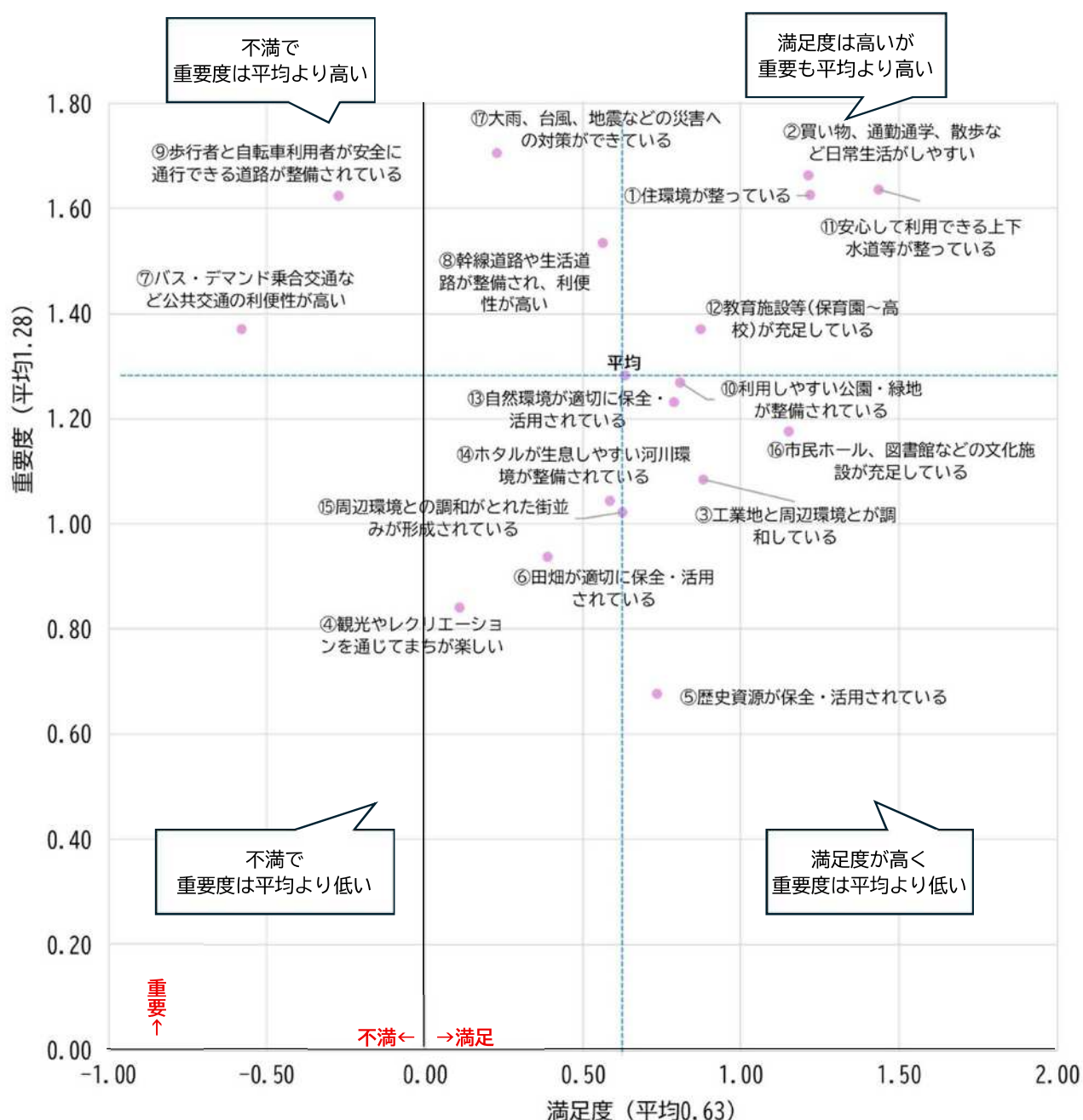
重要(2) やや重要(1) やや重要でない(-1) 重要でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

①守山学区満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

また、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」、「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」は満足度が平均以下で重要度も高いことから、守山学区のまちづくりにおいて優先度が比較的高いと言える。

図表 守山学区地域のまちづくりの満足度・重要度 加重平均散布図 (n=239)

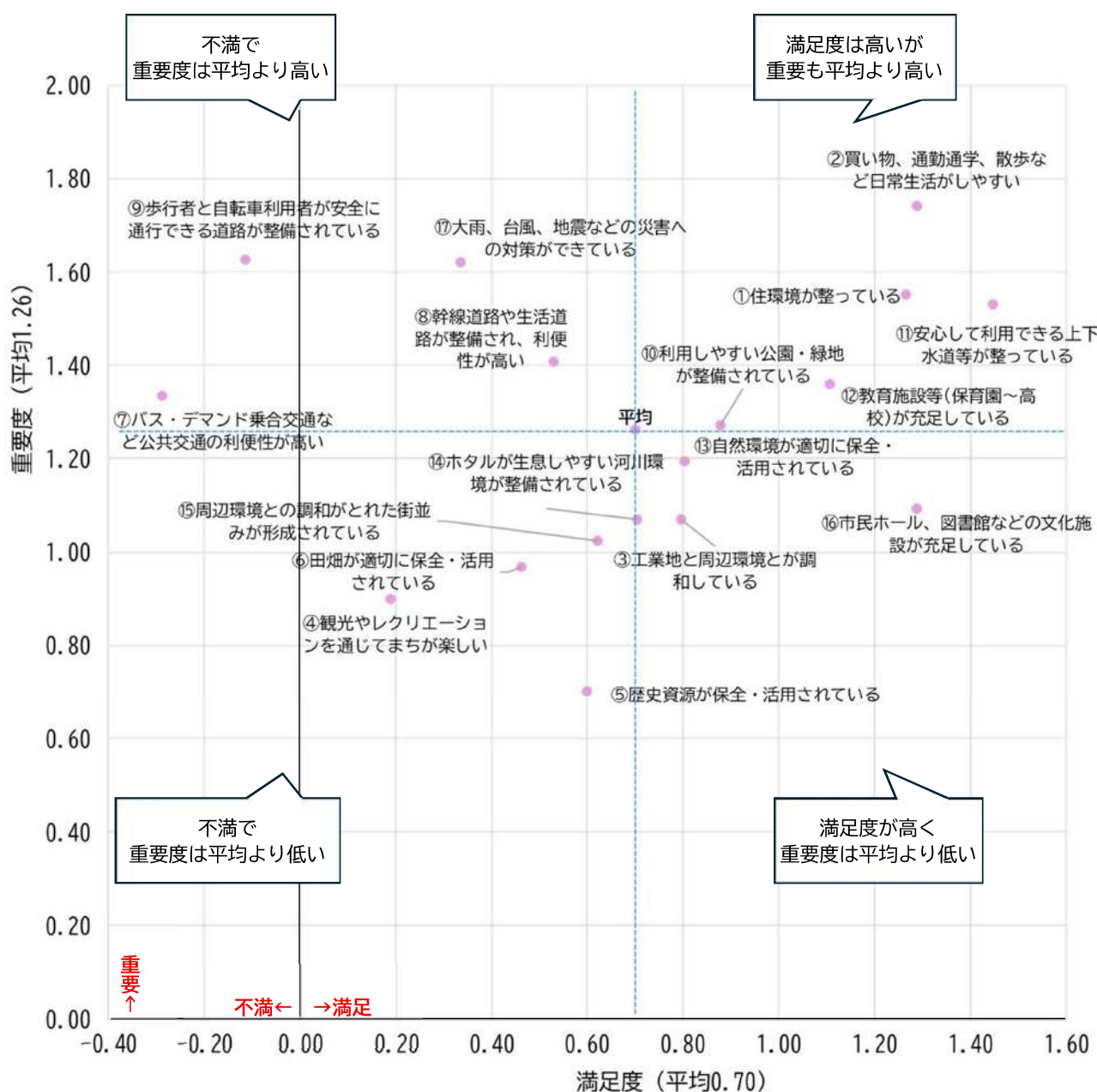


②吉身学区満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

また、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」、「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」は満足度が平均以下で重要度も高いことから、吉身学区のまちづくりにおいて優先度が比較的高いと言える。

図表 吉身学区地域のまちづくりの満足度・重要度 加重平均散布図 (n=132)

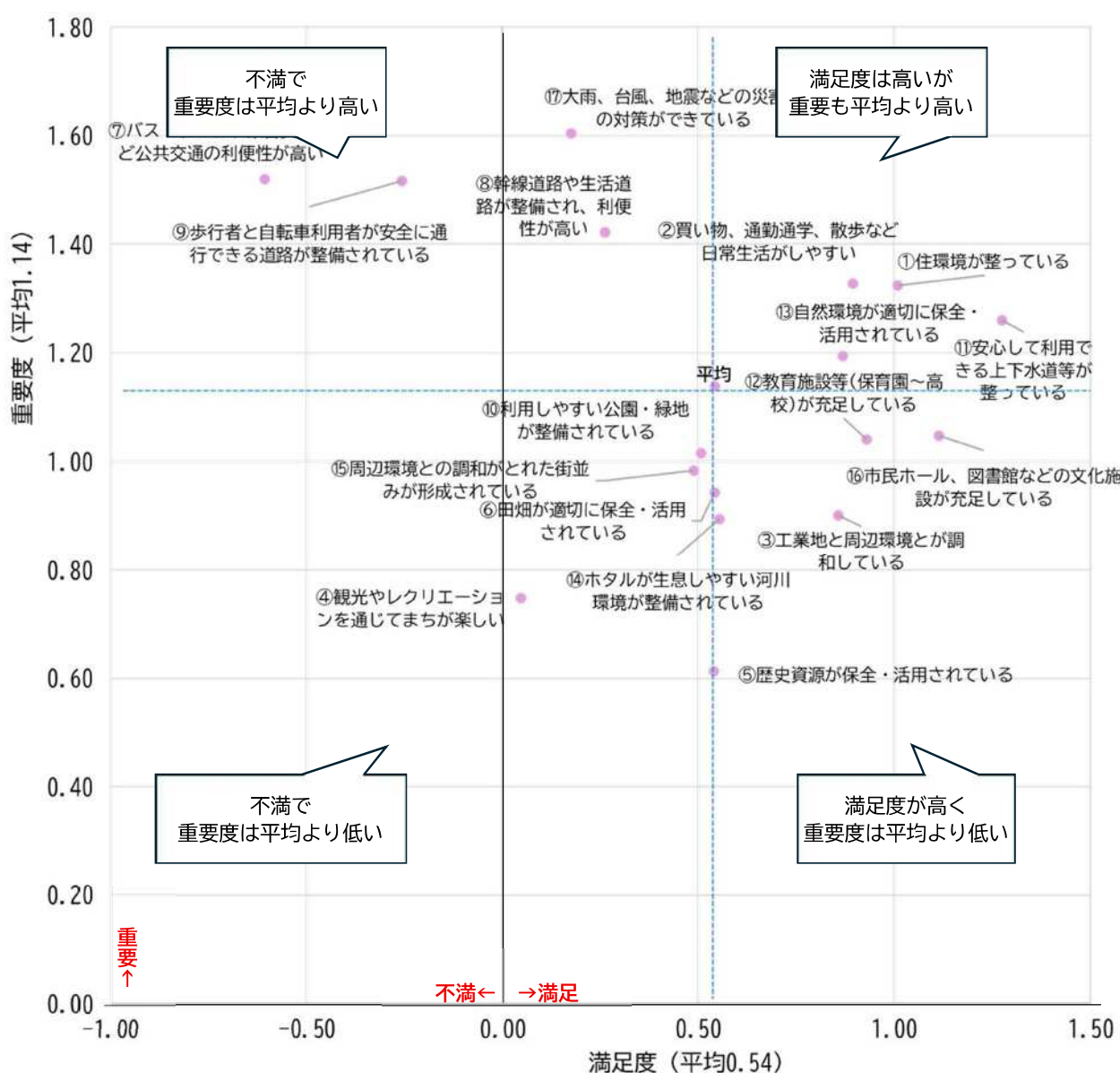


③河西学区満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

また、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」、「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」は満足度が平均以下で重要度も高いことから、河西学区のまちづくりにおいて優先度が比較的高いと言える。

図表 河西学区地域のまちづくりの満足度・重要度 加重平均散布図 (n=131)

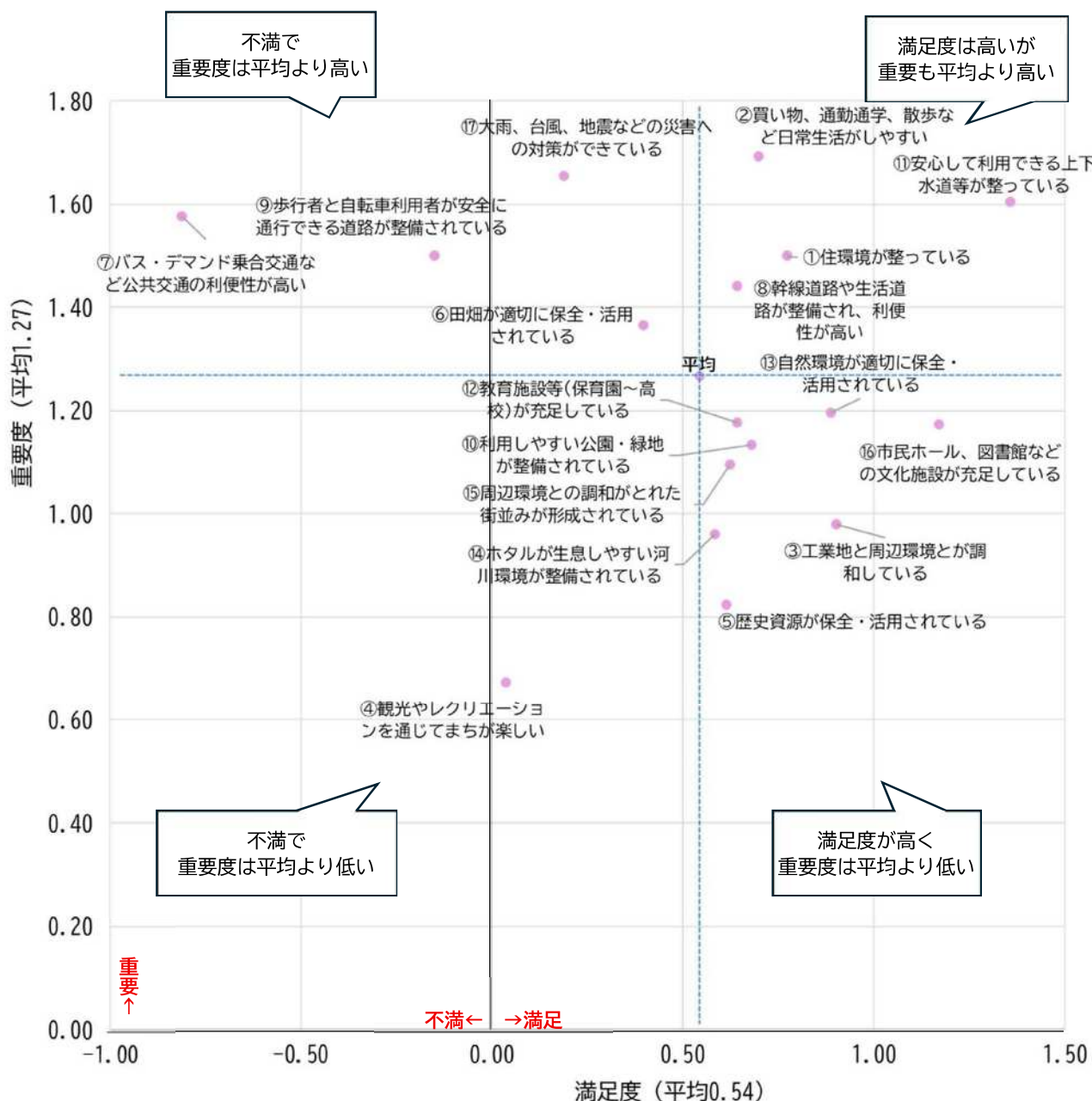


④小津学区満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

また、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」、「田畑が適切に保全・活用されている」は満足度が平均以下で重要度も高いことから、小津学区のまちづくりにおいて優先度が比較的高いと言える。

図表 小津学区地域のまちづくりの満足度・重要度 加重平均散布図 (n=53)

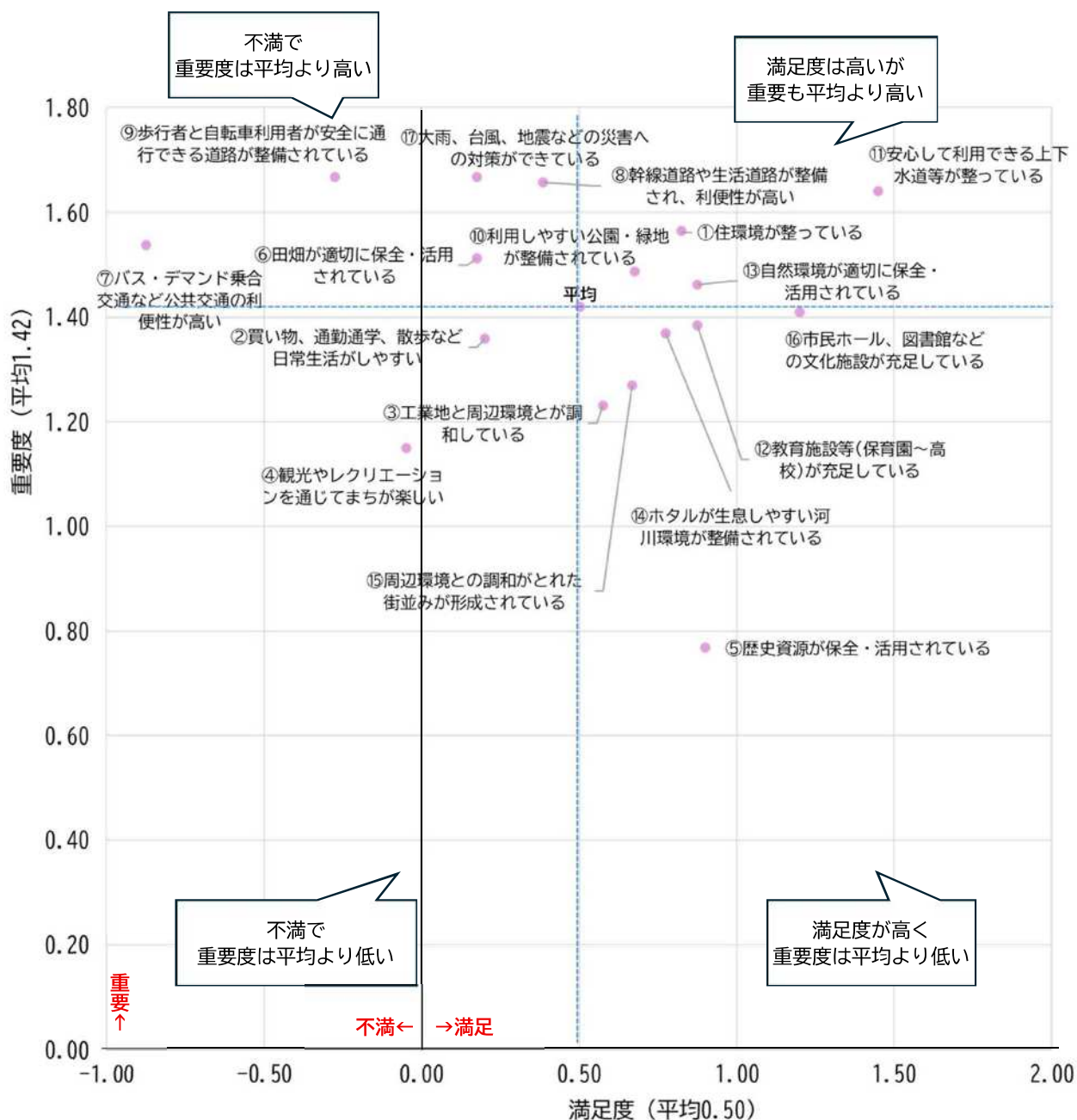


⑤玉津学区満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

また、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」、「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」、「田畑が適切に保全・活用されている」は満足度が平均以下で重要度も高いことから、玉津学区のまちづくりにおいて優先度が比較的高いと言える。

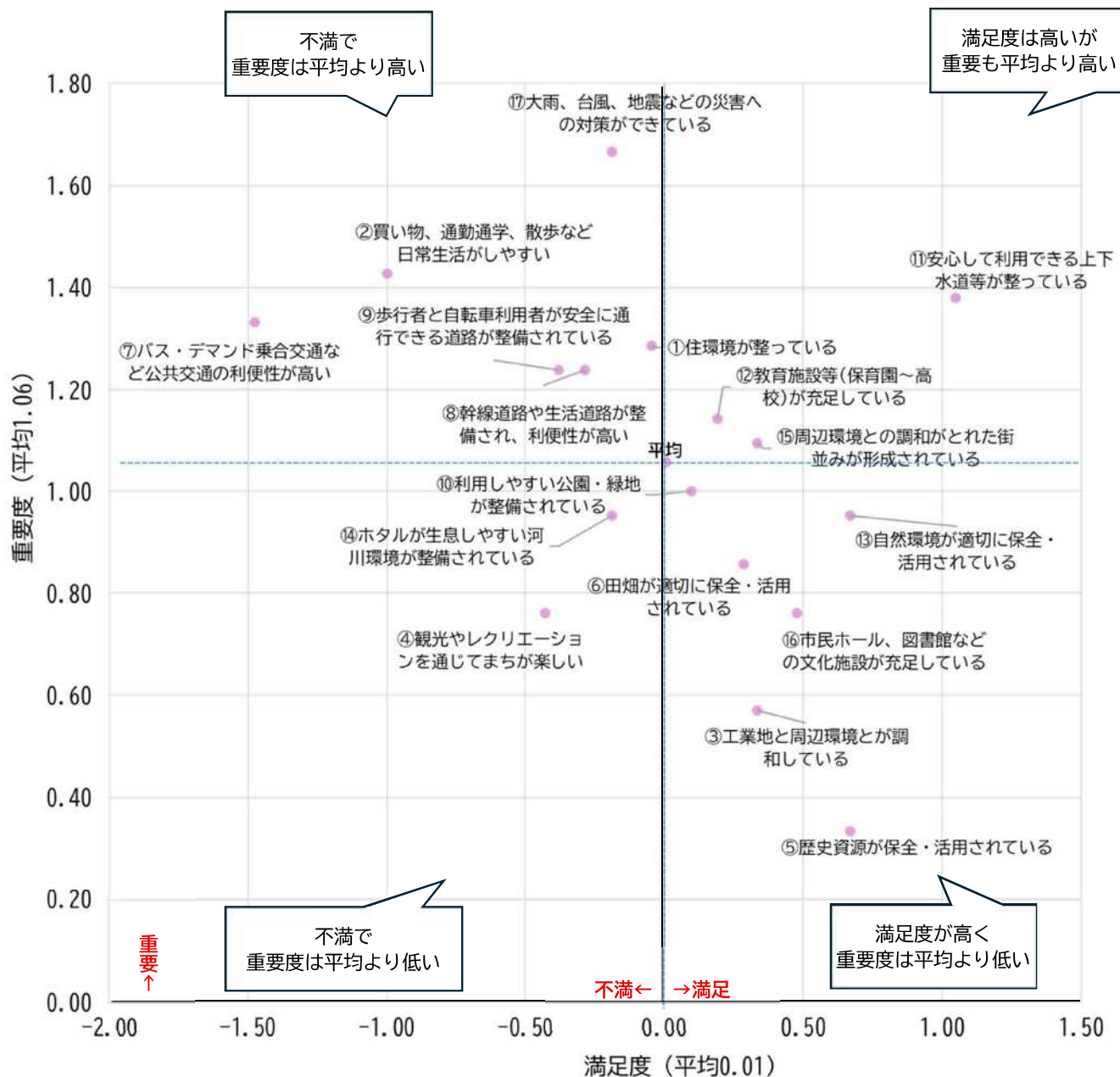
図表 玉津学区地域のまちづくりの満足度・重要度 加重平均散布図 (n=40)



⑥中洲学区満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」、「住環境が整っている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

図表 中洲学区地域のまちづくりの満足度・重要度 加重平均散布図 (n=21)

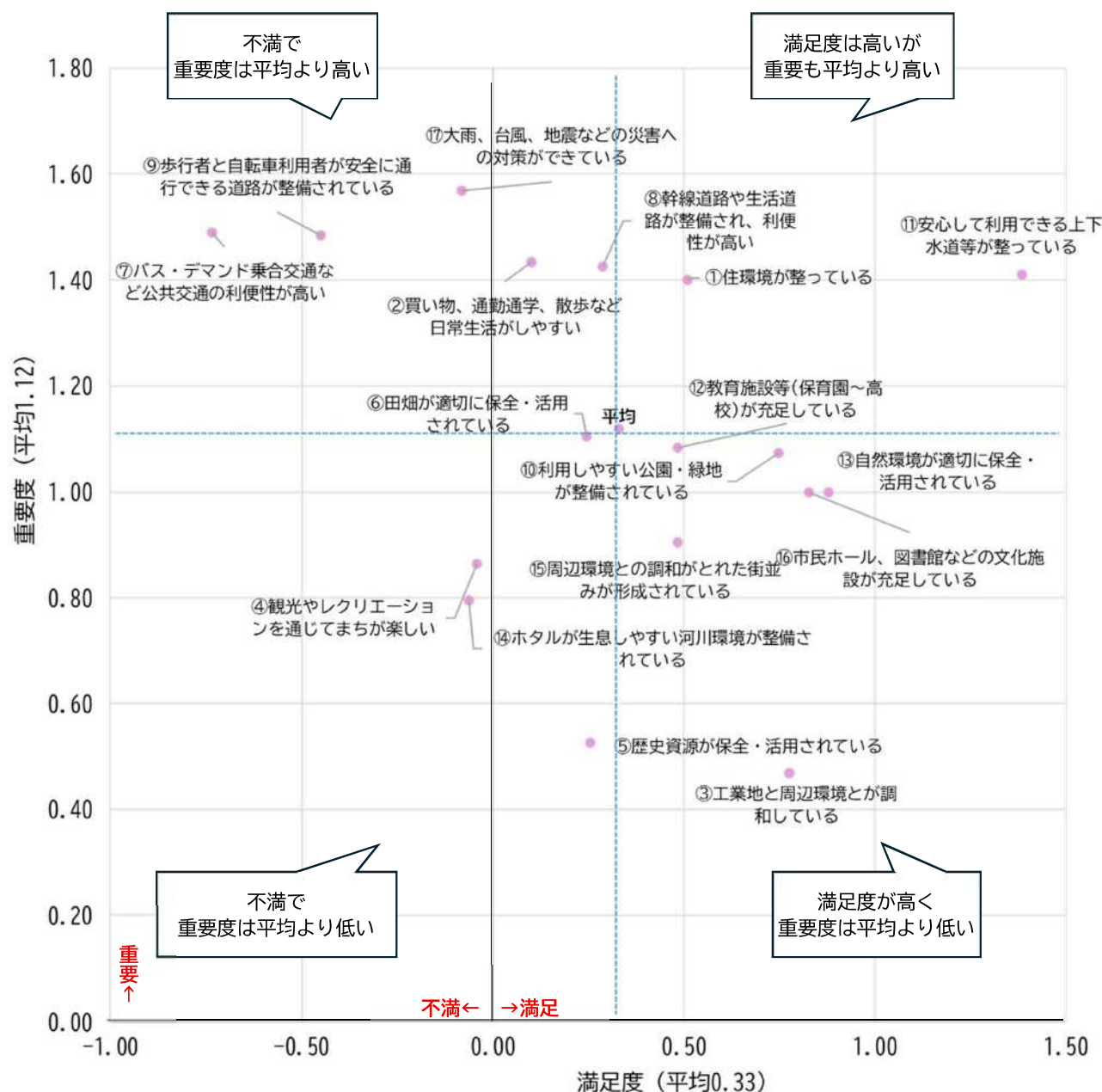


⑦速野学区満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

また、「買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい」、「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」は満足度が平均以下で重要度も高いことから、速野学区のまちづくりにおいて優先度が比較的高いと言える。

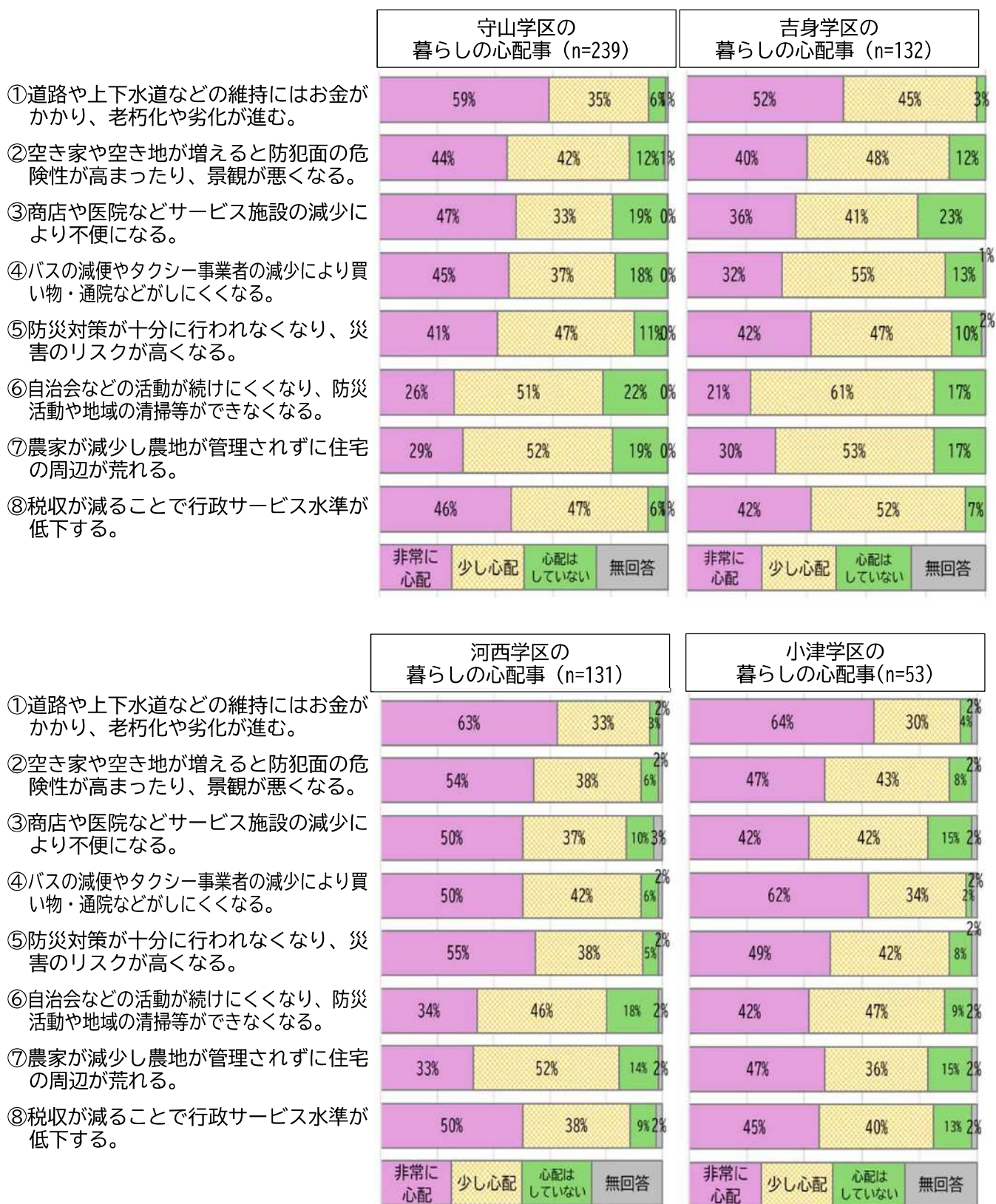
図表 速野学区地域のまちづくりの満足度・重要度 加重平均散布図 (n=100)

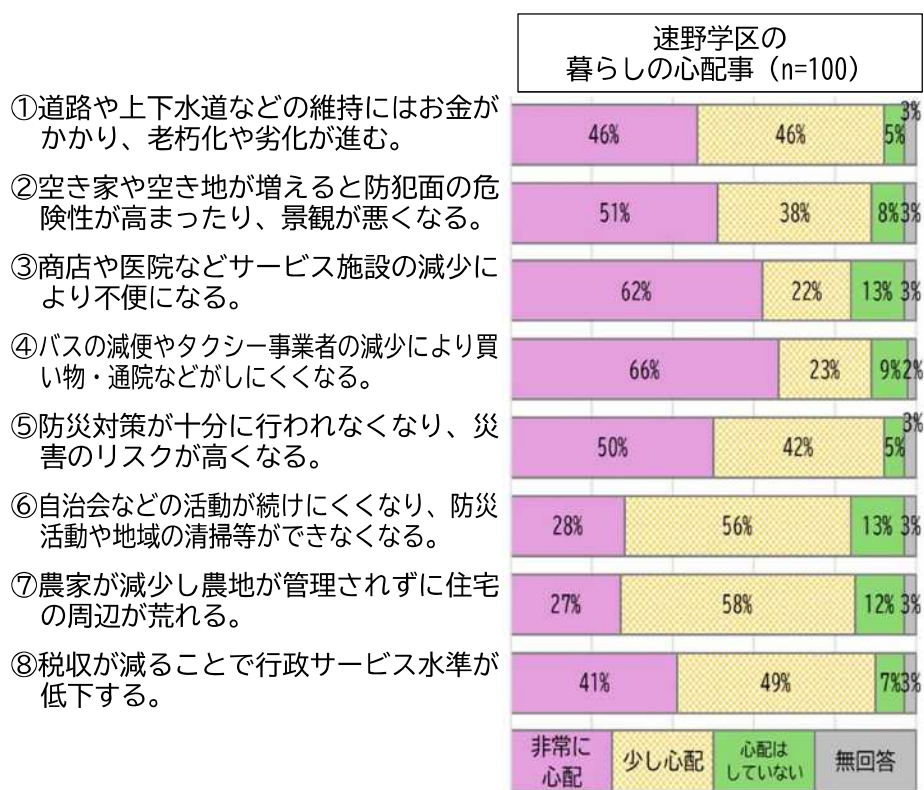
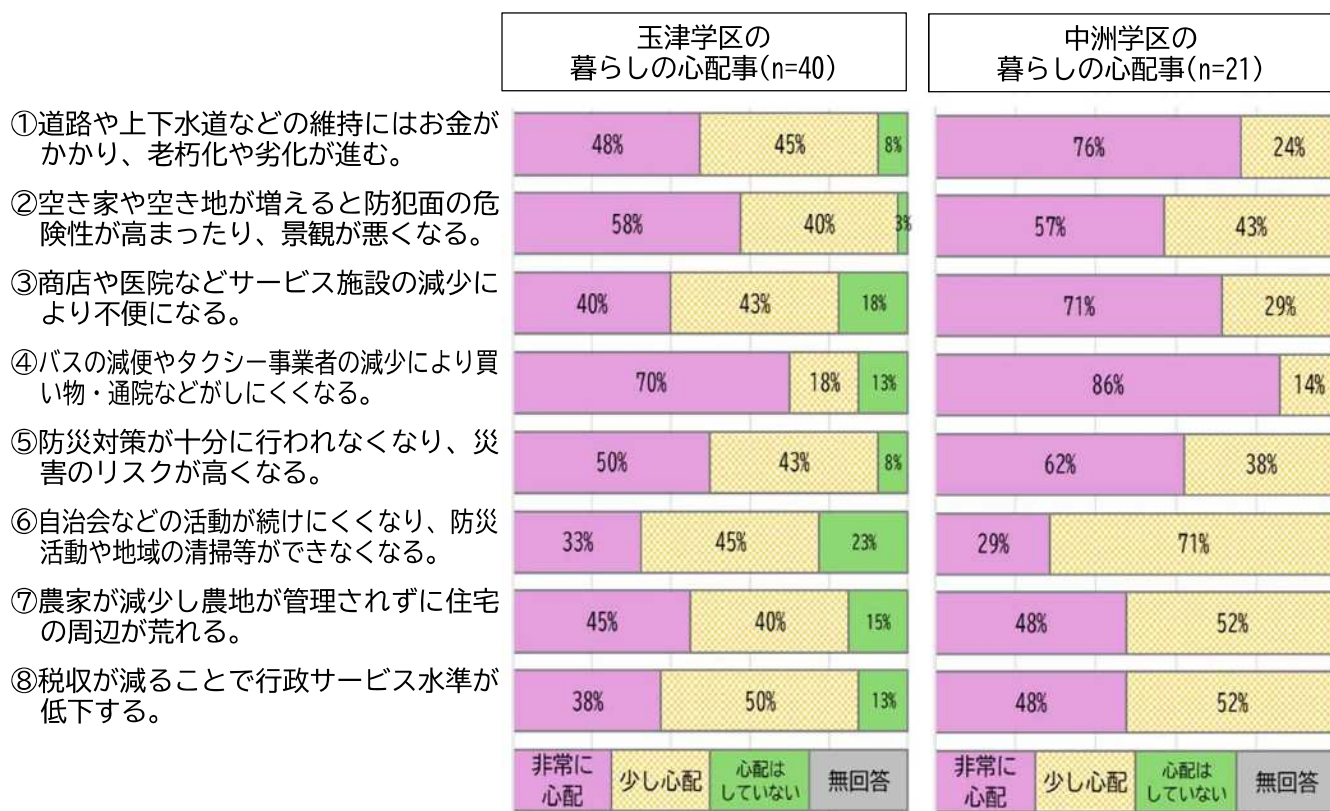


(2) 地域の暮らしの心配事（学区別集計）

「商店や医院などサービス施設の減少により不便になる」「バスの減便やタクシー事業者の減少により買い物・通院などがしにくくなる」は地域差が比較的大きく、中部から北部の学区で心配される傾向が見られる。

図表 各学区暮らしの心配事比較





図表 暮らしの心配事：加重平均による学区別比較

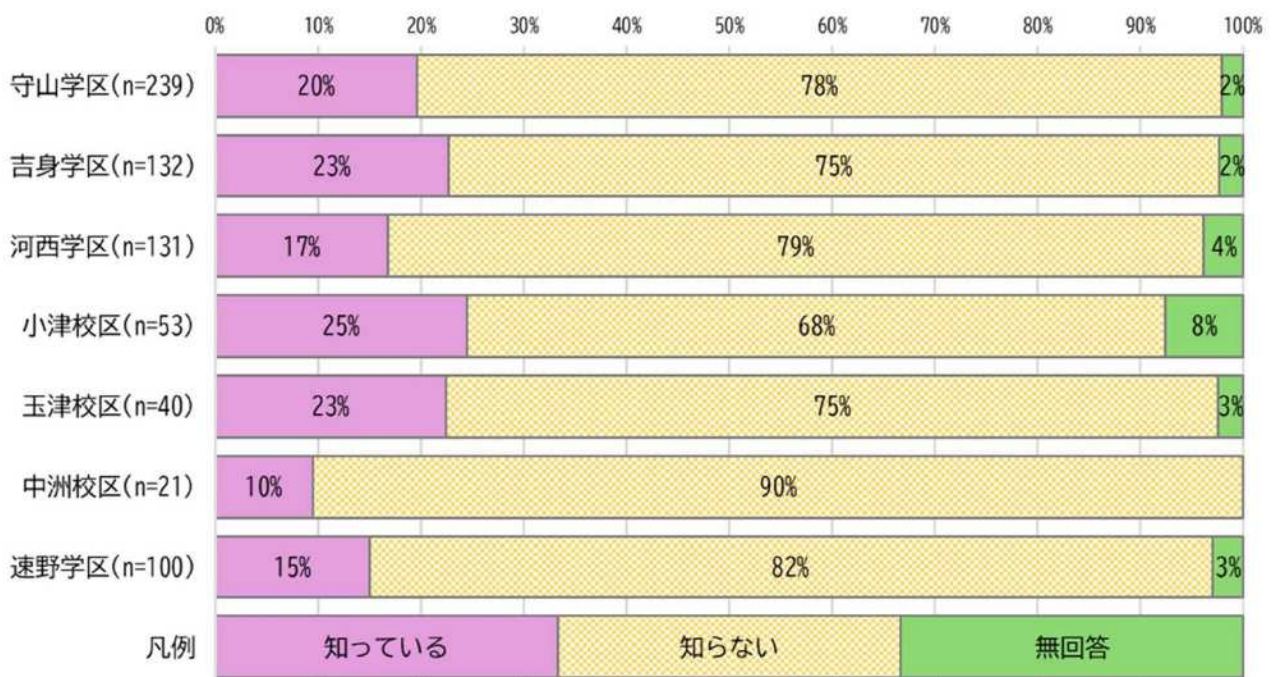
暮らしの心配事	守山学区 (n=239)	吉身学区 (n=132)	河西学区 (n=131)	小津学区 (n=53)	玉津学区 (n=40)	中洲学区 (n=21)	速野学区 (n=100)
①道路や上下水道などの維持にはお金がかかり、老朽化や劣化が進む。	1.53	1.49	1.60	1.62	1.40	1.76	1.42
②空き家や空き地が増えると防犯面の危険性が高まったり、景観が悪くなる。	1.33	1.28	1.49	1.40	1.55	1.57	1.44
③商店や医院などサービス施設の減少により不便になる。	1.29	1.14	1.42	1.27	1.23	1.71	1.51
④バスの減便やタクシー事業者の減少により買い物・通院などがしにくくなる。	1.27	1.19	1.45	1.62	1.58	1.86	1.58
⑤防災対策が十分に行われなくなり、災害のリスクが高くなる。	1.30	1.32	1.50	1.42	1.43	1.62	1.46
⑥自治会などの活動が続けにくくなり、防災活動や地域の清掃等ができなくなる。	1.04	1.04	1.16	1.33	1.10	1.29	1.15
⑦農家が減少し農地が管理されずに住宅の周辺が荒れる。	1.10	1.12	1.19	1.33	1.30	1.48	1.15
⑧税収が減ることで行政サービス水準が低下する。	1.40	1.35	1.42	1.33	1.25	1.48	1.35

※加重平均：非常に心配(2)、少し心配(1)、心配はしていない(0)で加重 無回答を除く回答者の平均

(3) 都市計画マスタープランの認知度（学区別集計）

いずれの学区でも2割程度の認知で留まっており、大きな差は見られない。

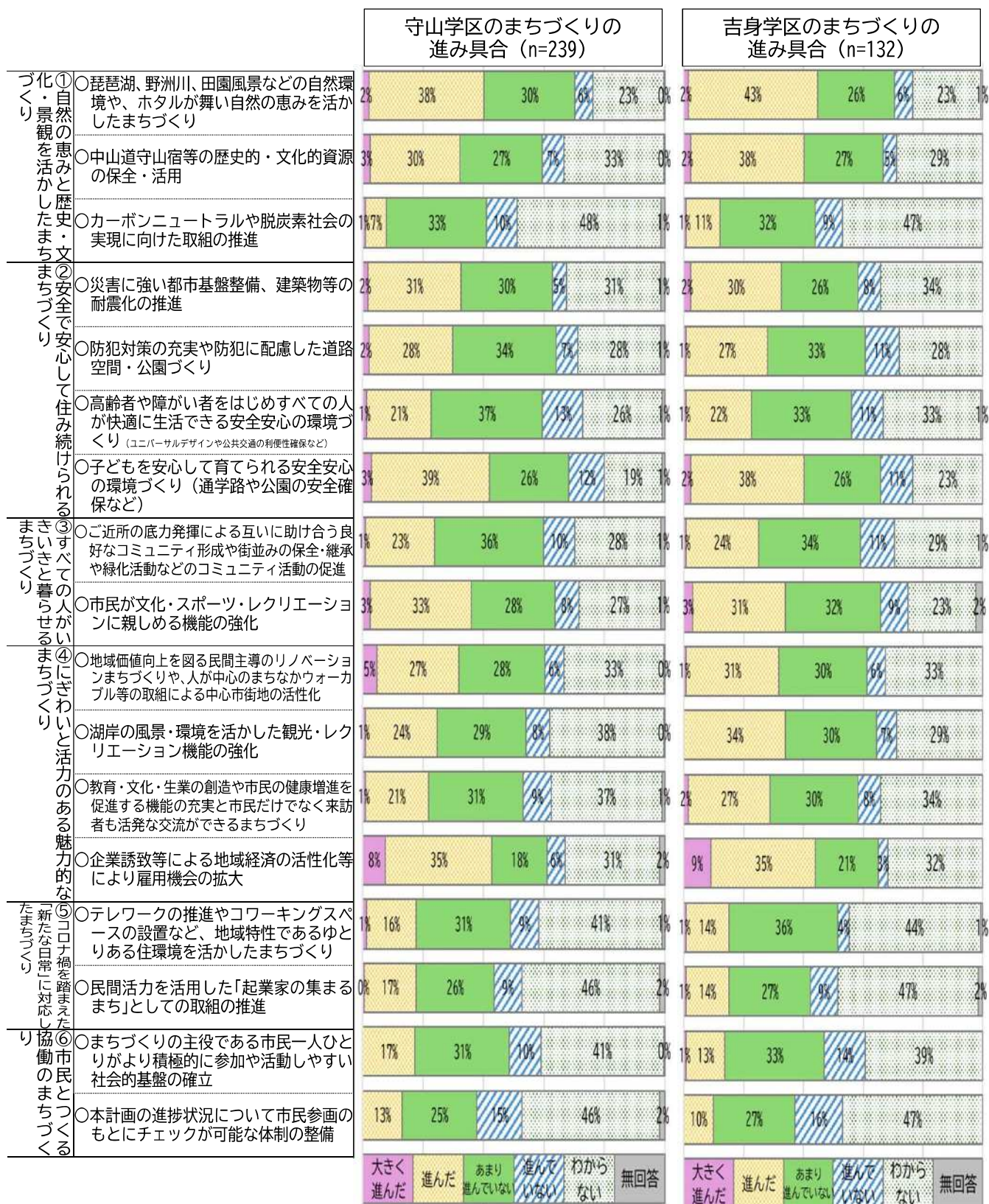
図表 都市計画マスタープラン認知度学区別比較



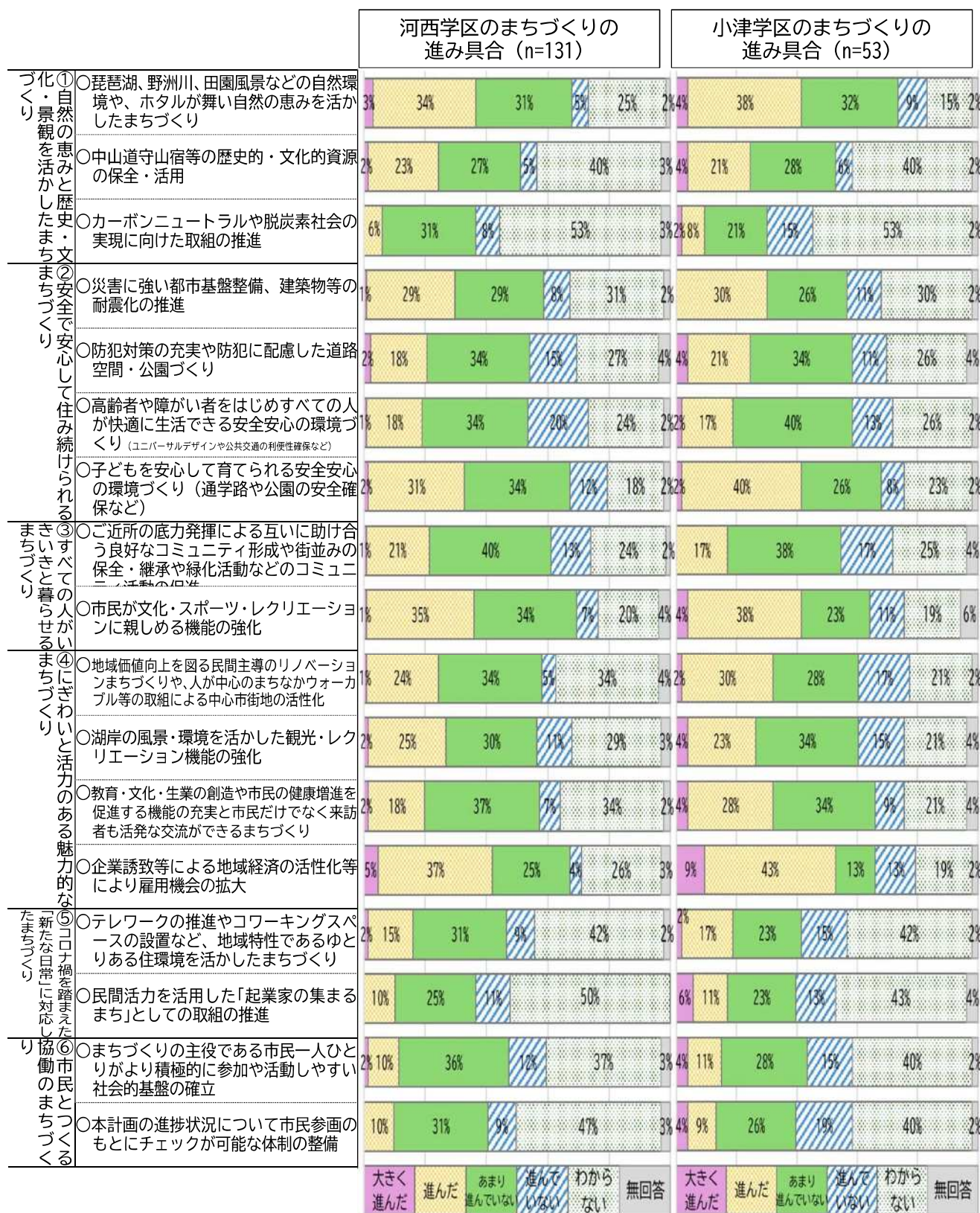
(4) まちづくりの進捗状況（学区別集計）

学区別で進捗状況に大きな違いは見られない。「わからない」という評価の情報がない市民の割合も同程度となっている。「企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大」については、中洲学区、速野学区でやや低い状況となっている。

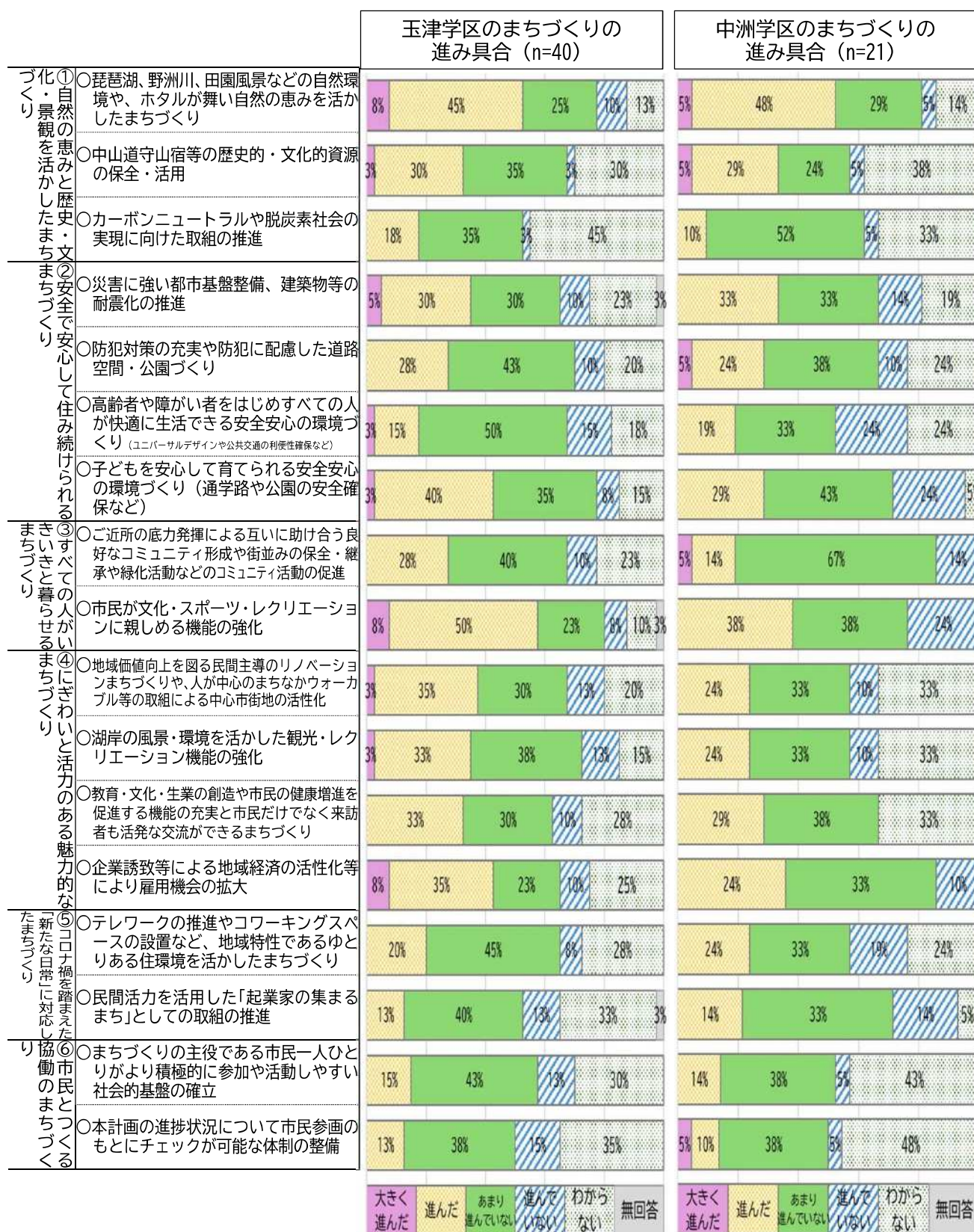
図表 まちづくりの進捗状況の学区別の比較



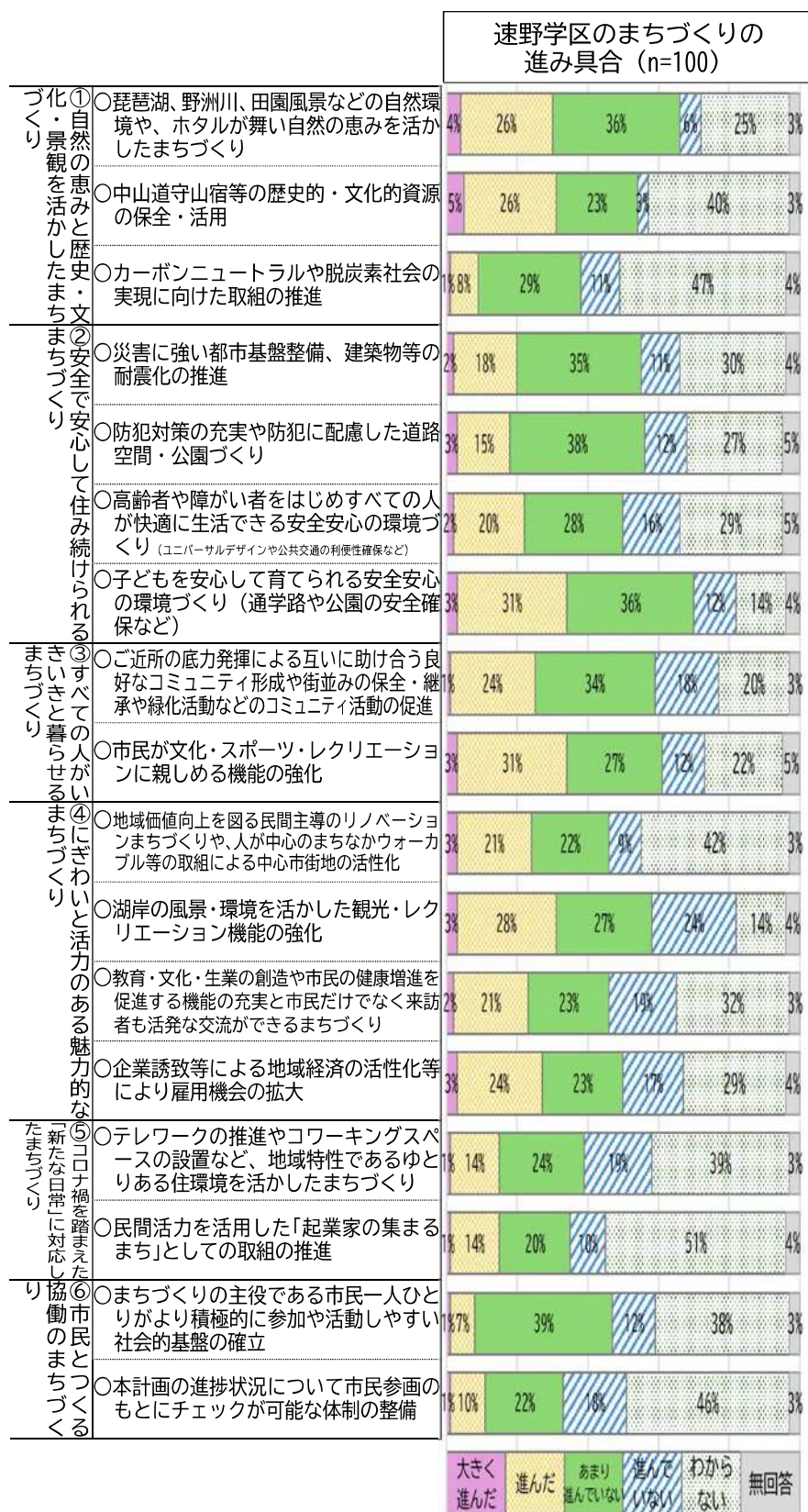
図表 まちづくりの進捗状況の学区別の比較



図表 まちづくりの進捗状況の学区別の比較



図表 まちづくりの進捗状況の学区別の比較



図表 まちづくりの進捗状況の加重平均での学区別の比較

まちづくりの進捗状況		守山学区 (n=239)	吉身学区 (n=132)	河西学区 (n=131)	小津学区 (n=53)	玉津学区 (n=40)	中洲学区 (n=21)	速野学区 (n=100)
①自然の恵みと歴史・文化を 活かしたまちづくり	○琵琶湖、野洲川、田園風景などの自然環境や、ホタルが舞い自然の恵みを活かしたまちづくり	1.48	1.52	1.47	1.43	1.57	1.61	1.39
	○中山道守山宿等の歴史的・文化的資源の保全・活用	1.42	1.53	1.36	1.39	1.46	1.54	1.58
	○カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現に向けた取組の推進	0.98	1.07	0.97	0.92	1.27	1.07	0.98
②安全で安心して住み続けられるまちづくり	○災害に強い都市基盤整備、建築物等の耐震化の推進	1.44	1.41	1.33	1.28	1.40	1.24	1.17
	○防犯対策の充実や防犯に配慮した道路空間・公園づくり	1.35	1.24	1.11	1.24	1.22	1.31	1.13
	○高齢者や障がい者をはじめすべての人が快適に生活できる安全安心の環境づくり（ユニバーサルデザインや公共交通の利便性確保など）	1.14	1.19	1.00	1.11	1.06	0.94	1.12
	○子どもを安心して育てられる安全安心の環境づくり（通学路や公園の安全確保など）	1.41	1.42	1.28	1.48	1.44	1.05	1.30
③すべての人がいきいきと暮らせるまちづくり	○ご近所の底力発揮による互いに助け合う良好なコミュニティ形成や街並みの保全・継承や緑化活動などのコミュニティ活動の促進	1.20	1.20	1.12	1.00	1.23	1.10	1.10
	○市民が文化・スポーツ・レクリエーションに親しめる機能の強化	1.43	1.37	1.39	1.45	1.66	1.14	1.34
④にぎわいと活力のある魅力的なまちづくり	○地域価値向上を図る民間主導のリノベーションまちづくりや、人が中心のまちなかウォークブル等の取組による中心市街地の活性化	1.45	1.39	1.33	1.22	1.34	1.21	1.33
	○湖岸の風景・環境を活かした観光・レクリエーション機能の強化	1.28	1.38	1.25	1.20	1.29	1.21	1.12
	○教育・文化・生業の創造や市民の健康増進を促進する機能の充実と市民だけでなく来訪者も活発な交流ができるまちづくり	1.21	1.34	1.23	1.35	1.31	1.43	1.09
	○企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大	1.66	1.73	1.60	1.62	1.53	0.81	1.19
⑤「新たな日常」に対応したまちづくり	○テレワークの推進やコワーキングスペースの設置など、地域特性であるゆとりある住環境を活かしたまちづくり	1.17	1.22	1.15	1.10	1.17	1.06	0.95
	○民間活力を活用した「起業家の集まるまち」としての取組の推進	1.17	1.13	0.91	1.18	1.00	0.65	1.13
⑥市民協働のまちづくり	○まちづくりの主役である市民一人ひとりがより積極的に参加や活動しやすい社会的基盤の確立	1.11	0.96	1.01	1.06	1.04	1.17	0.95
	○本計画の進捗状況について市民参画のもとにチェックが可能な体制の整備	0.96	0.89	1.02	0.97	0.96	1.36	0.80

※加重平均：

進んだ(3) やや進んだ (2) あまり進んでいない(1) 進んでいない(0) の加重を設定し、「わからない」と無回答を除く回答者の平均

(5) 優先したいまちづくりの方向（学区別集計）

問4 今後優先したい守山市のまちづくりの方向について伺います。あなたが優先したいと思うものの3つまで○をつけてください。

守山学区、吉身学区以外では、「道路や公共交通などの交通環境が整備され便利に暮らせるまち」が多い傾向が見られる。

図表 優先したいまちづくりの方向の学区別の比較

	守山学区 (n=239)	吉身学区 (n=132)	河西学区 (n=131)	小津学区 (n=53)	玉津学区 (n=40)	中洲学区 (n=21)	速野学区 (n=100)
自然の恵みと歴史・文化・景観を活かしたまち	23%	24%	23%	38%	30%	14%	23%
脱炭素社会や循環型社会を目指すまち	8%	8%	8%	4%	8%	5%	9%
災害に強いまち	43%	43%	59%	32%	48%	86%	52%
社会的に支援を必要とする人も安心して暮らせるバリアフリーのまち	37%	37%	34%	28%	38%	33%	38%
子どもの遊び場などが充実した子どもや子育て世代にやさしいまち	33%	32%	29%	34%	35%	38%	30%
コミュニティ活動や文化・スポーツ・レクリエーションに親しめすべての人がいきいきと暮らせるまち	21%	23%	19%	30%	25%	19%	18%
道路や公共交通などの交通環境が整備され便利に暮らせるまち	51%	49%	73%	58%	63%	76%	68%
JR 守山駅周辺を含む中心商業地において歩いて暮らせるコンパクトなまち	35%	31%	16%	19%	5%	—	5%
産業の活性化・人口増加によるにぎわいと活力のあるまち	16%	19%	15%	15%	15%	29%	15%
市民だけでなく来訪者も活発な交流ができる魅力的なまち	7%	7%	7%	4%	8%	—	9%
デジタル技術など先進的な技術が活用されるまち	4%	6%	8%	15%	15%	—	10%
その他	3%	2%	2%	2%	—	—	4%
無回答	1%	2%	—	—	—	—	2%

(6) まちづくり活動の参加意向（学区別集計）

問5 あなたは、どのようなまちづくりの活動に参加したいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

学区別で大きな違いは見られない。

図表 優先したいまちづくりの方向の学区別の比較

	守山学区 (n=239)	吉身学区 (n=132)	河西学区 (n=131)	小津学区 (n=53)	玉津学区 (n=40)	中洲学区 (n=21)	速野学区 (n=100)
まちづくりの意見交換の場（市民懇談会・タウンミーティング等）への参加	10%	14%	8%	9%	10%	10%	17%
良好な住環境の形成や街並みの保全・継承、緑化や水辺の保全・活用などまちづくりのルールづくりへの参加・協力	21%	23%	24%	23%	25%	33%	20%
まちのにぎわいや活性化につながる地域イベントなどへの参加	41%	41%	38%	40%	45%	48%	38%
清掃や緑化活動など、まちを魅力的にする活動への参加	29%	28%	31%	40%	18%	33%	30%
まちづくりの意向に関するアンケートなどへの協力	37%	27%	26%	36%	33%	33%	28%
参加したいと思わない	15%	11%	19%	4%	15%	10%	14%
その他	2%	2%	4%	6%	8%	5%	4%
無回答	3%	5%	4%	4%	3%	5%	6%

(7) 属性（学区別集計）

①年齢

概ね同様の構成となっている。

	守山学区 (n=239)	吉身学区 (n=132)	河西学区 (n=131)	小津学区 (n=53)	玉津学区 (n=40)	中洲学区 (n=21)	速野学区 (n=100)
18～19 歳	3%	1%	0%	—	—	—	—
20～29 歳	6%	5%	4%	6%	5%	0%	5%
30～39 歳	14%	11%	11%	17%	13%	19%	11%
40～49 歳	15%	18%	16%	15%	20%	19%	16%
50～59 歳	21%	19%	20%	11%	8%	24%	16%
60～69 歳	15%	18%	10%	13%	10%	10%	17%
70～79 歳	20%	22%	21%	19%	30%	14%	25%
80 歳以上	7%	6%	17%	19%	15%	14%	9%
無回答	0%	1%	—	—	—	—	1%

②中学生以下の子どもの有無

概ね同様の傾向となっている。

	守山学区 (n=239)	吉身学区 (n=132)	河西学区 (n=131)	小津学区 (n=53)	玉津学区 (n=40)	中洲学区 (n=21)	速野学区 (n=100)
いる	26%	26%	22%	28%	18%	33%	27%
いない	73%	73%	77%	72%	80%	67%	72%
無回答	1%	1%	1%	—	3%	—	1%

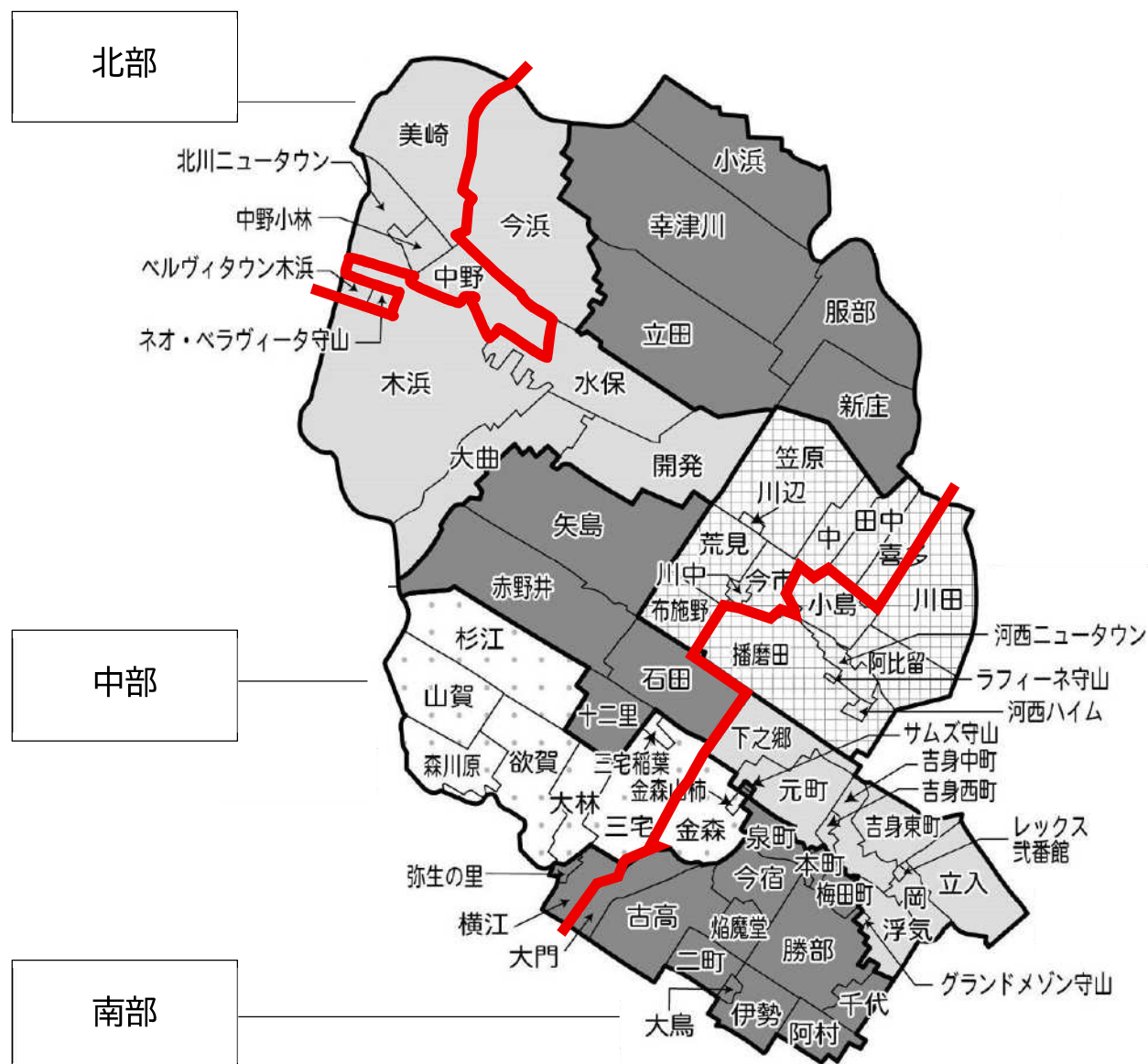
③居住年数

概ね同様の傾向となっている。

	守山学区 (n=239)	吉身学区 (n=132)	河西学区 (n=131)	小津学区 (n=53)	玉津学区 (n=40)	中洲学区 (n=21)	速野学区 (n=100)
3 年未満	7%	7%	5%	4%	5%	0%	3%
3 年以上 5 年未満	3%	5%	4%	6%	5%	5%	2%
5 年以上 10 年未満	10%	5%	11%	6%	3%	5%	9%
10 年以上 20 年未満	22%	21%	13%	15%	13%	19%	13%
20 年以上	58%	61%	68%	70%	75%	71%	72%
無回答	0%	1%	—	—	—	—	1%

Ⅲ 3 地域別集計～次期計画の地域区分案で集計～

地区特性を考慮して、北部、南部は市街化区域を、中部は市街化調整区域で区分



注) 上記の地域別区分図は、自治会単位を基本としているため、実際の地域別構想とは異なる。

(1) 地域のまちづくりの満足度・重要度（3地域別集計）

【満足度の比較】

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」を「悪い」とする回答者は、南部地域よりも中部地域と北部地域に多い。

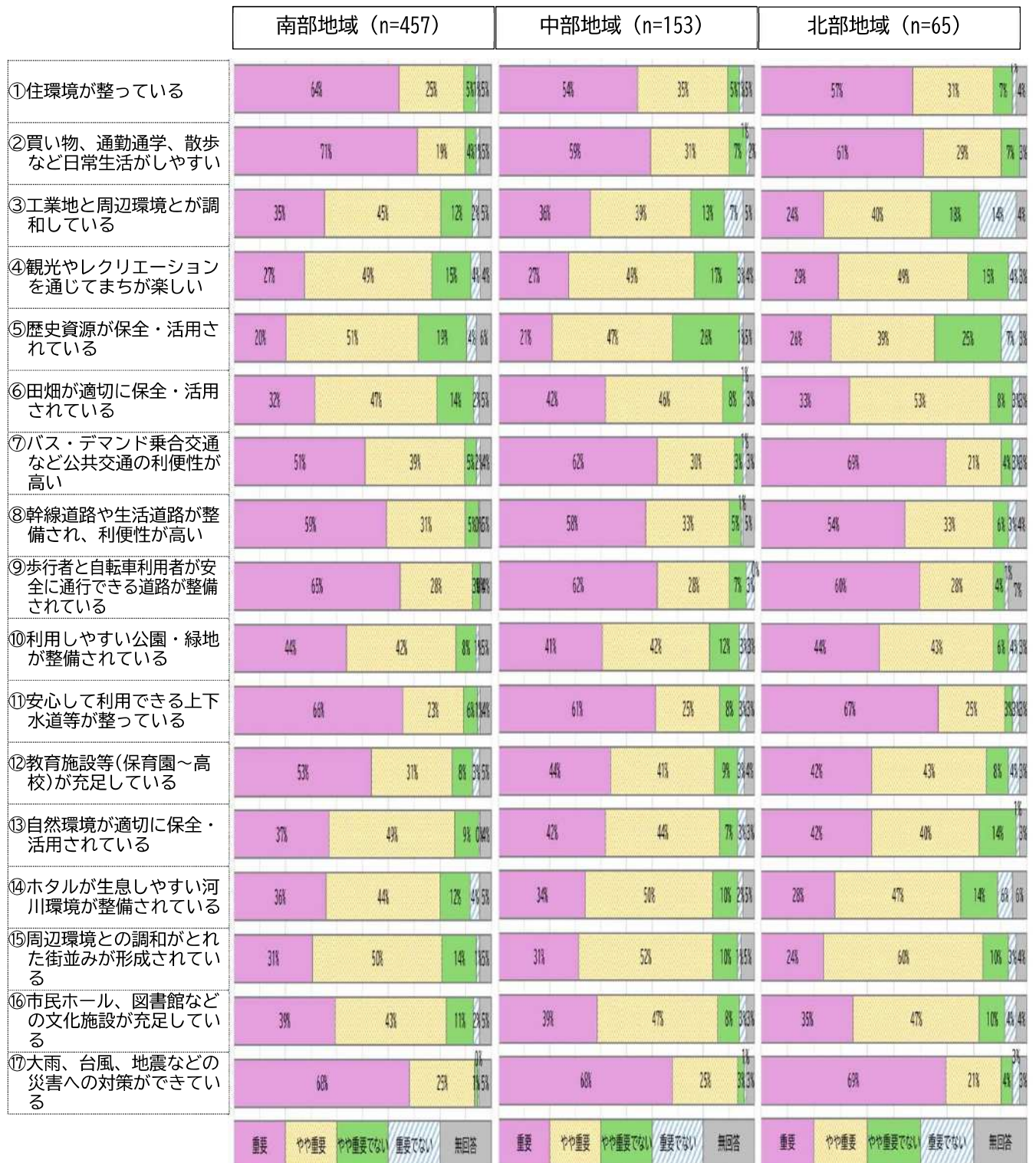
図表 地域のまちづくりの満足度の3地域別の比較



【重要度の比較】

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」は、中部地域と北部地域が南部地域よりも重要性が高い傾向が見られる。

図表 地域のまちづくりの重要度の3地域別の比較



【満足度 加重平均の比較】

「買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい」は、中部では不満寄りで南部との差が大きい。「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」は、南部でもマイナス評価であるが他の地域よりは少ない。「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、どの地域でも同程度の不満となっている。「ホテルが生息しやすい河川環境が整備されている」、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」は、北部では満足度は低くなっている。

図表 地域のまちづくりの満足度の加重平均の3地域別の比較

	南部地域 (n=457)		中部地域 (n=153)		北部地域 (n=65)	
①住環境が整っている		1.22		0.56		0.55
②買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい		1.25	-0.06			0.19
③工業地と周辺環境とが調和している		0.87		0.65		0.83
④観光やレクリエーションを通じてまちが楽しい		0.15	-0.08			0.10
⑤歴史資源が保全・活用されている		0.67		0.65		0.36
⑥田畑が適切に保全・活用されている		0.47		0.24		0.35
⑦バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い	-0.46		-0.97		-0.83	
⑧幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い		0.53		0.17		0.37
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている	-0.23		-0.31		-0.46	
⑩利用しやすい公園・緑地が整備されている		0.79		0.65		0.56
⑪安心して利用できる上下水道等が整っている		1.40		1.31		1.44
⑫教育施設等(保育園～高校)が充足している		0.96		0.69		0.43
⑬自然環境が適切に保全・活用されている		0.82		0.79		0.94
⑭ホテルが生息しやすい河川環境が整備されている		0.62		0.34	-0.01	
⑮周辺環境との調和がとれた街並みが形成されている		0.61		0.45		0.58
⑯市民ホール、図書館などの文化施設が充足している		1.18		0.94		0.85
⑰大雨、台風、地震などの災害への対策ができています		0.26		0.13	-0.10	
平 均		0.65		0.36		0.36

※加重平均：

満足(2) やや満足(1) やや満足でない(-1) 満足でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

【重要度 加重平均の比較】

「買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、どの地域でも高いが、南部地域は、他の地域より高い。

図表 地域のまちづくりの重要度の加重平均の3地域別の比較

	南部地域 (n=457)	中部地域 (n=153)	北部地域 (n=65)
①住環境が整っている	1.54	1.43	1.41
②買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい	1.62	1.41	1.49
③工業地と周辺環境とが調和している	1.04	0.91	0.43
④観光やレクリエーションを通じてまちが楽しい	0.85	0.84	0.86
⑤歴史資源が保全・活用されている	0.69	0.67	0.54
⑥田畑が適切に保全・活用されている	0.97	1.22	1.09
⑦バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い	1.39	1.52	1.54
⑧幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い	1.50	1.48	1.36
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている	1.60	1.40	1.51
⑩利用しやすい公園・緑地が整備されている	1.26	1.06	1.21
⑪安心して利用できる上下水道等が整っている	1.54	1.37	1.54
⑫教育施設等(保育園～高校)が充足している	1.31	1.17	1.13
⑬自然環境が適切に保全・活用されている	1.18	1.18	1.10
⑭ホテルが生息しやすい河川環境が整備されている	1.01	1.10	0.82
⑮周辺環境との調和がとれた街並みが形成されている	1.00	1.09	0.96
⑯市民ホール、図書館などの文化施設が充足している	1.12	1.15	1.03
⑰大雨、台風、地震などの災害への対策ができている	1.68	1.64	1.54
平 均	1.25	1.21	1.15

※加重平均：

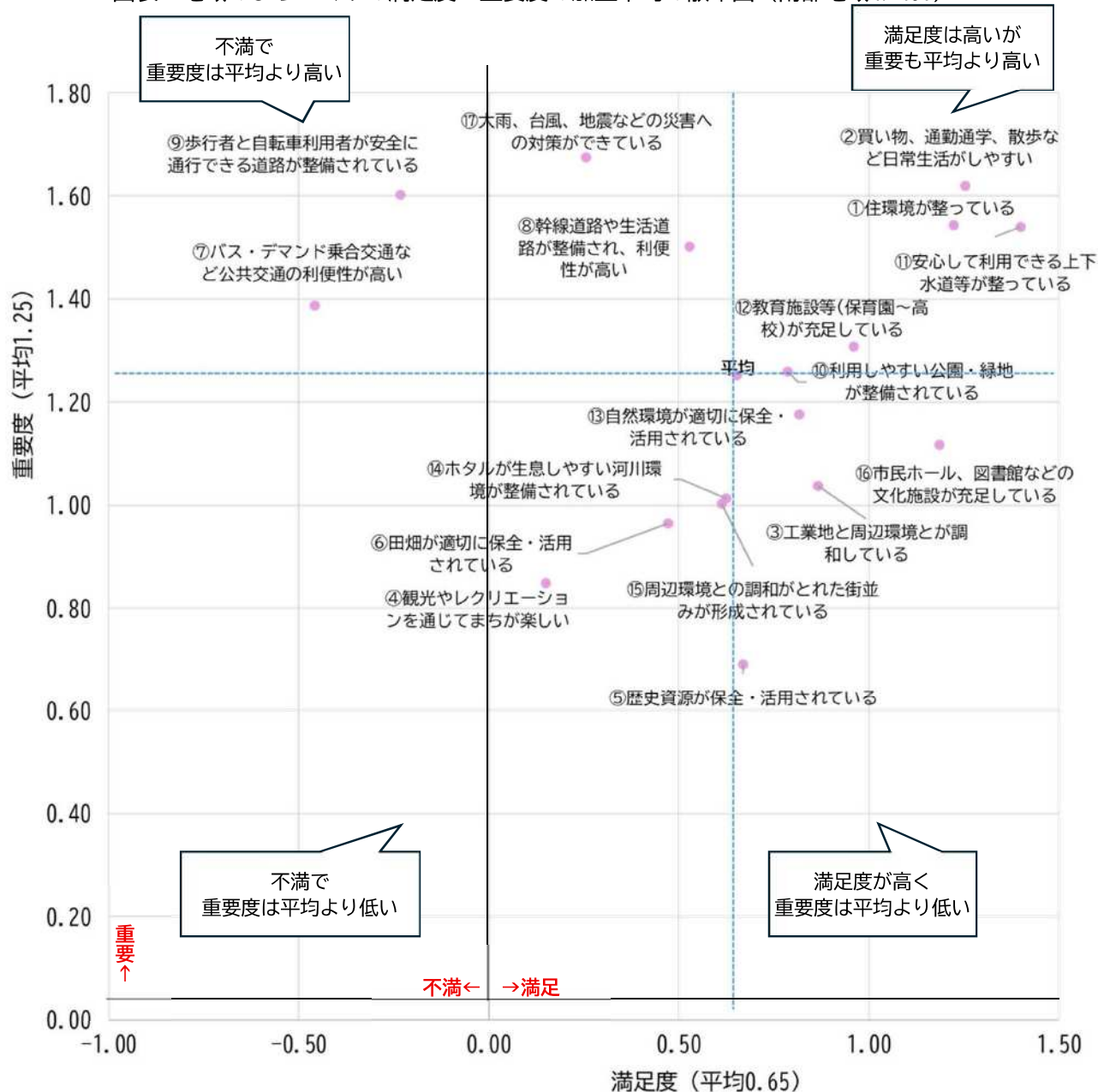
重要(2) やや重要(1) やや重要でない(-1) 重要でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

①南部地域の満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」、「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」は、満足度が平均以下で重要度も高いことから、南部地域のまちづくりにおいて優先度が比較的高いと言える。

図表 地域のまちづくりの満足度・重要度の加重平均の散布図（南部地域 n=457）

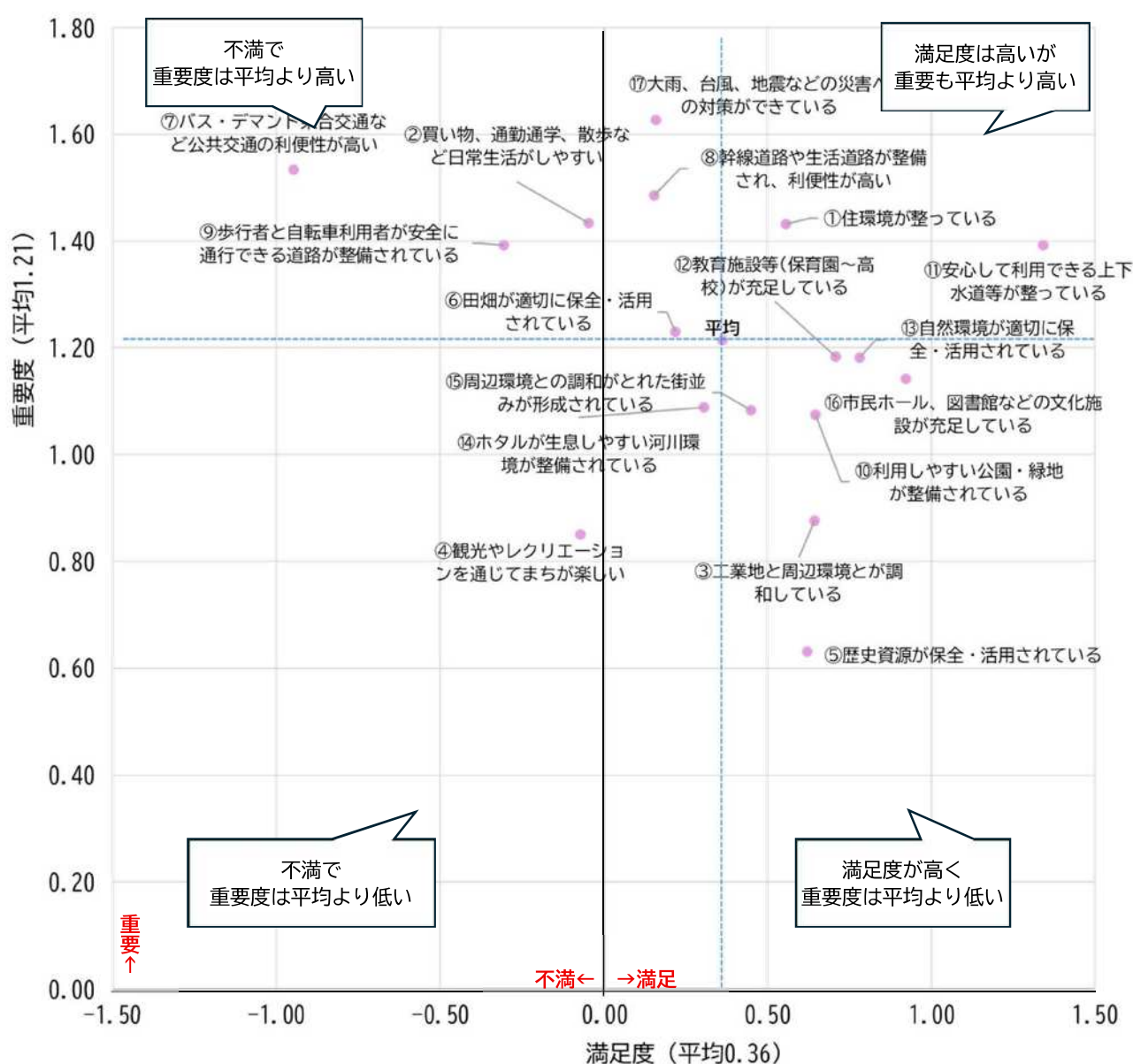


②中部地域の満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」、「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」、「田畑が適切に保全・活用されている」は、満足度が平均以下で重要度も高いことから、中部地域のまちづくりにおいて優先度が比較的高いと言える。

図表 地域のまちづくりの満足度・重要度の加重平均の散布図（中部地域 n=153）

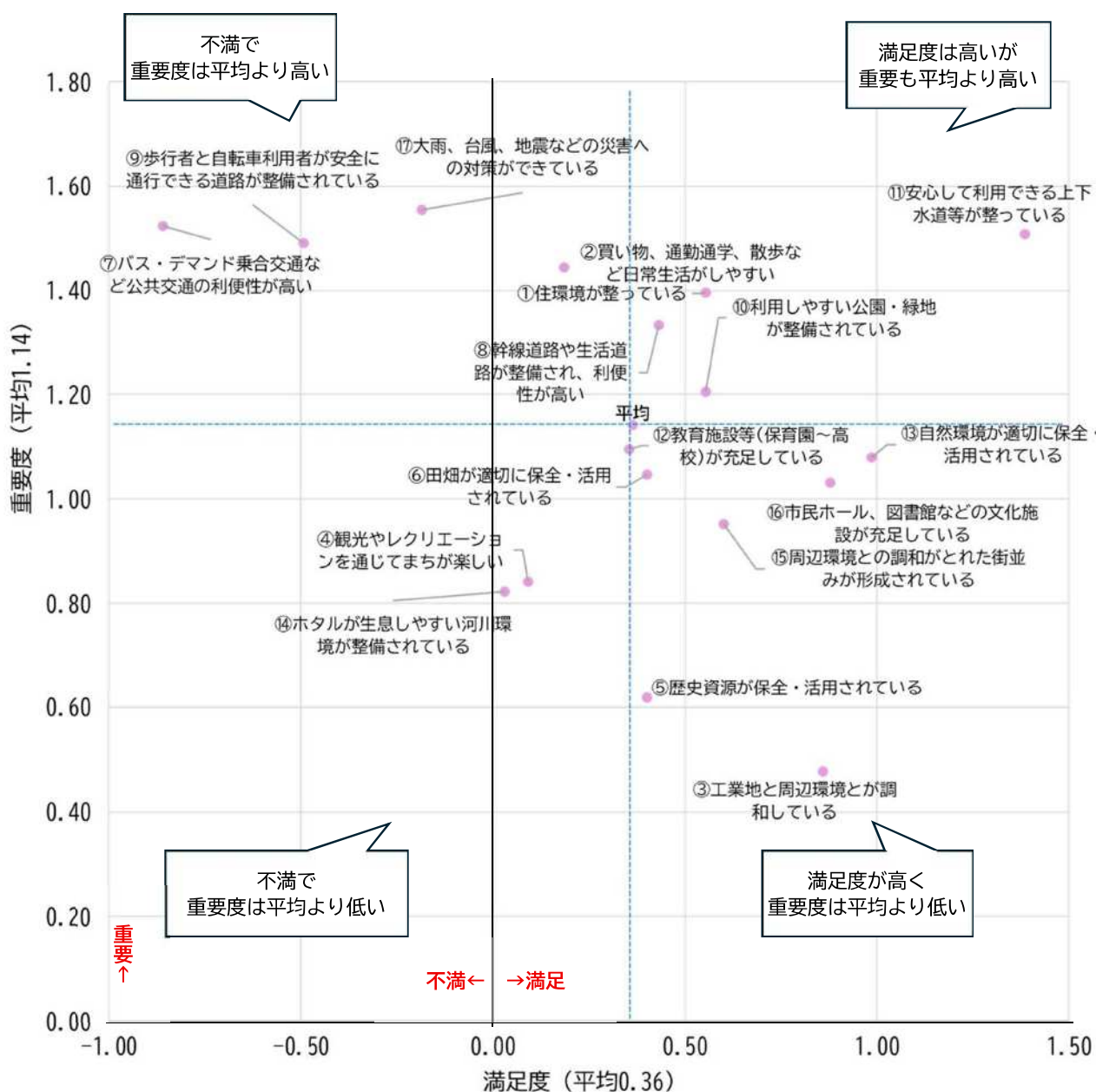


③北部地域の満足度・重要度 加重平均

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

「買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい」は、満足度が平均以下で重要度も高いことから、北部地域のまちづくりにおいて優先度が比較的高いと言える。

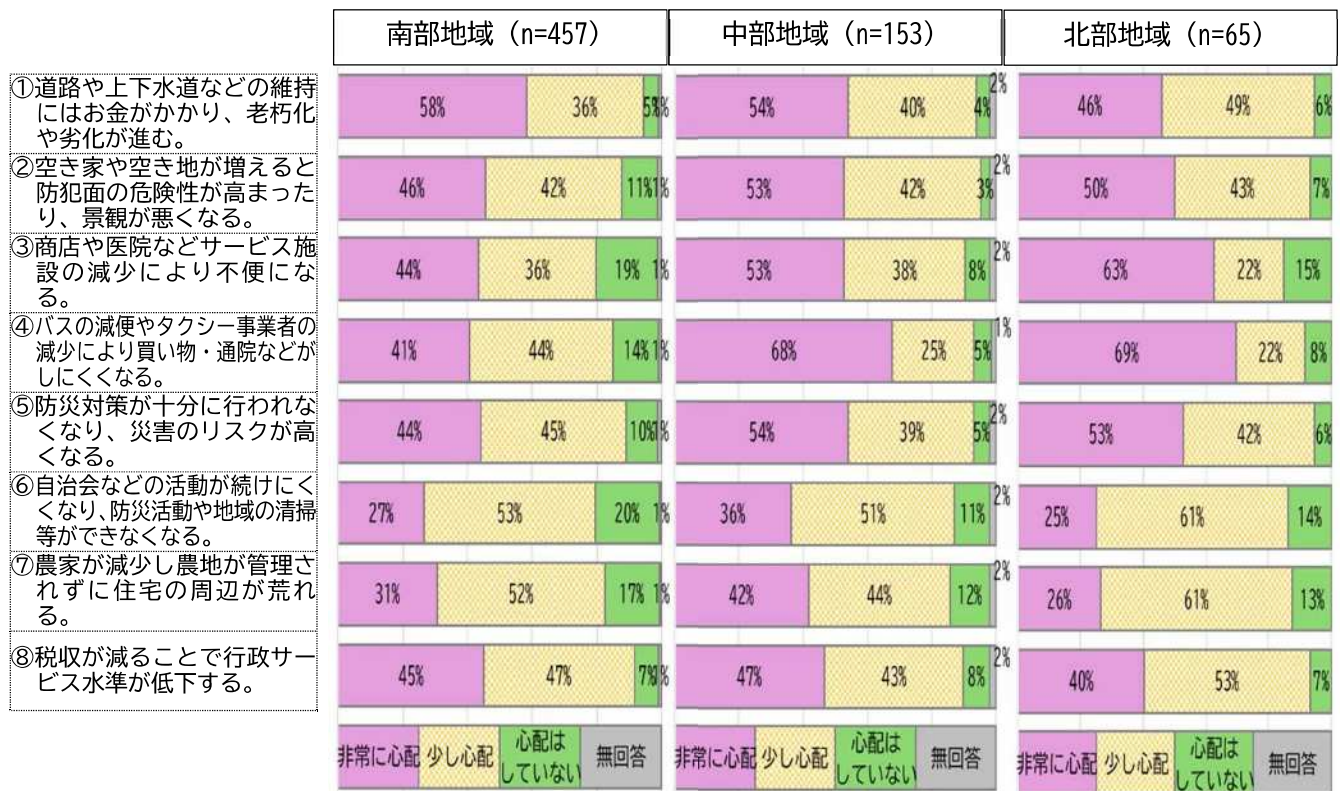
図表 地域のまちづくりの満足度・重要度の加重平均の散布図（北部地域 n=65）



(2) 地域の暮らしの心配事 (3地域別集計)

「バスの減便やタクシー事業者の減少により買い物・通院などがしにくくなる。」「商店や医院などサービス施設の減少により不便になる。」「防災対策が十分に行われなくなり、災害のリスクが高くなる。」は、中部地域、北部地域のいずれでも「非常に心配」されており、南部地域に比べると心配の程度が高い。

図表 暮らしの心配事 3地域別の比較



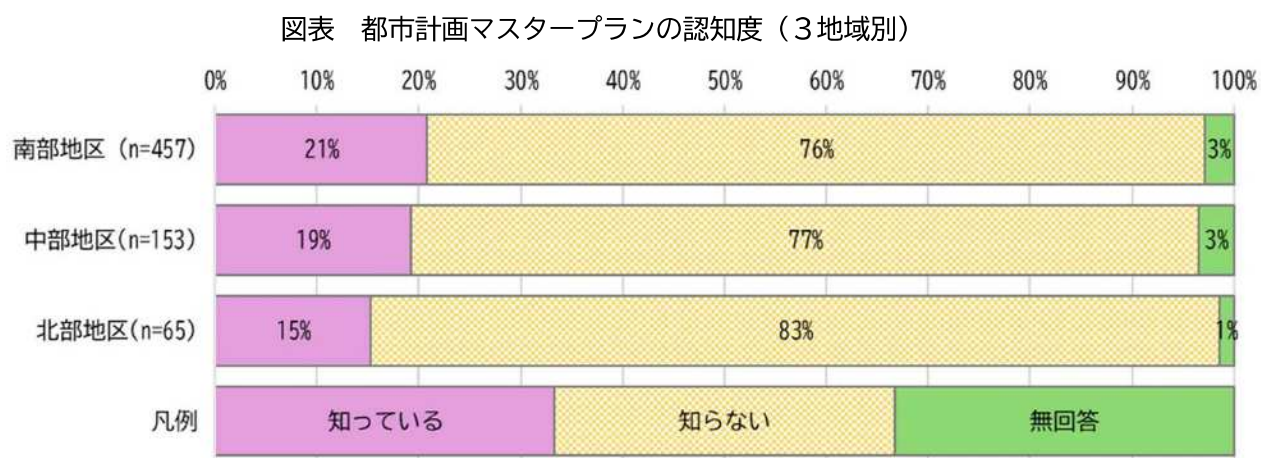
図表 暮らしの心配事 加重平均の地域別の比較

	南部地域 (n=457)	中部地域 (n=153)	北部地域 (n=65)
①道路や上下水道などの維持にはお金がかかり、老朽化や劣化が進む。	1.54	1.51	1.40
②空き家や空き地が増えると防犯面の危険性が高まったり、景観が悪くなる。	1.35	1.51	1.43
③商店や医院などサービス施設の減少により不便になる。	1.25	1.46	1.47
④バスの減便やタクシー事業者の減少により買い物・通院などがしにくくなる。	1.27	1.63	1.61
⑤防災対策が十分に行われなくなり、災害のリスクが高くなる。	1.35	1.50	1.47
⑥自治会などの活動が続けにくくなり、防災活動や地域の清掃等ができなくなる。	1.07	1.26	1.11
⑦農家が減少し農地が管理されずに住宅の周辺が荒れる。	1.14	1.30	1.14
⑧税収が減ることで行政サービス水準が低下する。	1.38	1.39	1.33
平均	1.29	1.45	1.37

加重平均：非常に心配(2)、少し心配(1)、心配はしていない(0)で加重 無回答を除く回答者の平均

(3) 都市計画マスタープランの認知度（3地域別集計）

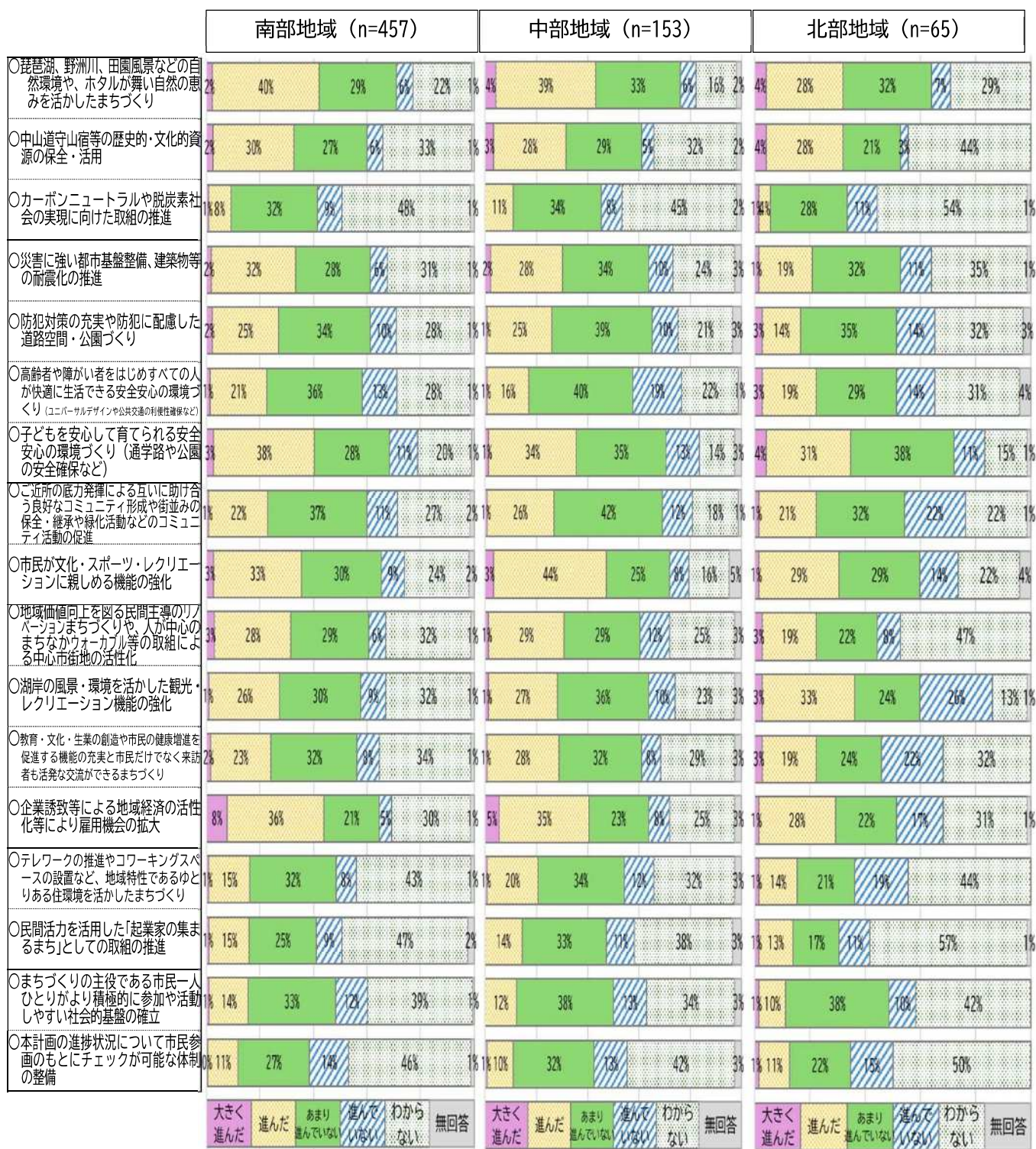
いずれの地域でも2割程度の認知で留まっており、大きな差は見られない。



(4) まちづくりの進捗状況(3地域別集計)

北部地域では、「災害に強い都市基盤整備、建築物等の耐震化の推進」、「企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大」、「市民が文化・スポーツ・レクリエーションに親しめる機能の強化」が、他の地域に比べると「進んでいない」が多くなっている。

図表 まちづくりの進捗状況の3地域別の比較



図表 まちづくりの進捗状況の加重平均の3地域別の比較

		南部地域 (n=457)	中部地域 (n=153)	北部地域 (n=65)
①自然の恵みと歴史・文化を活かしたまちづくり	○琵琶湖、野洲川、田園風景などの自然環境や、ホテルが舞い自然の恵みを活かしたまちづくり	1.49	1.50	1.41
	○中山道守山宿等の歴史的・文化的資源の保全・活用	1.44	1.46	1.60
	○カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現に向けた取組の推進	1.02	1.05	0.91
②安全で安心して住み続けられるまちづくり	○災害に強い都市基盤整備、建築物等の耐震化の推進	1.42	1.31	1.17
	○防犯対策の充実や防犯に配慮した道路空間・公園づくり	1.27	1.22	1.09
	○高齢者や障がい者をはじめすべての人が快適に生活できる安全安心の環境づくり (ユニバーサルデザインや公共交通の利便性確保など)	1.15	0.98	1.17
	○子どもを安心して育てられる安全安心の環境づくり (通学路や公園の安全確保など)	1.41	1.29	1.33
③すべての人がいきいきと暮らせるまちづくり	○ご近所の底力発揮による互いに助け合う良好なコミュニティ形成や街並みの保全・継承や緑化活動などのコミュニティ活動の促進	1.17	1.19	1.02
	○市民が文化・スポーツ・レクリエーションに親しめる機能の強化	1.40	1.54	1.25
④にぎわいと活力のある魅力的なまちづくり	○地域価値向上を図る民間主導のリノベーションまちづくりや、人が中心のまちなかウォークアブル等の取組による中心市街地の活性化	1.42	1.29	1.32
	○湖岸の風景・環境を活かした観光・レクリエーション機能の強化	1.28	1.26	1.15
	○教育・文化・生業の創造や市民の健康増進を促進する機能の充実と市民だけでなく来訪者も活発な交流ができるまちづくり	1.27	1.32	1.04
	○企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大	1.68	1.52	1.20
⑤「新たな日常」に対応したまちづくり	○テレワークの推進やコワーキングスペースの設置など、地域特性であるゆとりある住環境を活かしたまちづくり	1.17	1.15	0.95
	○民間活力を活用した「起業家の集まるまち」としての取組の推進	1.15	1.06	1.10
⑥市民と協働するまちづくり	○まちづくりの主役である市民一人ひとりがより積極的に参加や活動しやすい社会的基盤の確立	1.08	0.99	1.05
	○本計画の進捗状況について市民参画のもとにチェックが可能な体制の整備	0.96	0.98	0.97

※加重平均：

進んだ(3) やや進んだ(2) あまり進んでいない(1) 進んでいない(0) の加重を設定し、「わからない」と無回答を除く回答者の平均

(5) 優先したいまちづくりの方向（3地域別集計）

「道路や公共交通などの交通環境が整備され便利に暮らせるまち」は、中部地域と北部地域で特に高く、これに次いで北部地域では「災害に強いまち」も高くなっている。

図表 優先したいまちづくりの方向の3地域別の比較

	南部地域 (n=457)	中部地域 (n=153)	北部地域 (n=65)
自然の恵みと歴史・文化・景観を活かしたまち	24%	30%	22%
脱炭素社会や循環型社会を目指すまち	8%	9%	8%
災害に強いまち	46%	48%	58%
社会的に支援を必要とする人も安心して暮らせるバリアフリーのまち	35%	36%	38%
子どもの遊び場などが充実した子どもや子育て世代にやさしいまち	32%	32%	32%
コミュニティ活動や文化・スポーツ・レクリエーションに親しめすべての人がいきいきと暮らせるまち	23%	20%	20%
道路や公共交通などの交通環境が整備され便利に暮らせるまち	54%	71%	65%
JR 守山駅周辺を含む中心商業地において歩いて暮らせるコンパクトなまち	30%	7%	5%
産業の活性化・人口増加によるにぎわいと活力のあるまち	17%	17%	14%
市民だけでなく来訪者も活発な交流ができる魅力的なまち	7%	8%	5%
デジタル技術など先進的な技術が活用されるまち	6%	9%	12%
その他	2%	2%	2%
無回答	1%	1%	2%

(6) まちづくり活動の参加意向（3地域別集計）

地域別で大きな違いは見られない。

図表 まちづくり活動の参加意向の3地域別の比較

	南部地域 (n=457)	中部地域 (n=153)	北部地域 (n=65)
まちづくりの意見交換の場（市民懇談会・タウンミーティング等）への参加	11%	12%	15%
良好な住環境の形成や街並みの保全・継承、緑化や水辺の保全・活用などまちづくりのルールづくりへの参加・協力	23%	24%	22%
まちのにぎわいや活性化につながる地域イベントなどへの参加	40%	44%	38%
清掃や緑化活動など、まちを魅力的にする活動への参加	29%	29%	35%
まちづくりの意向に関するアンケートなどへの協力	33%	29%	34%
参加したいと思わない	15%	10%	15%
その他	2%	7%	2%
無回答	4%	5%	3%

(7) 属性 (3 地域別集計)

①年齢

地域別で大きな違いは見られない。

	南部地域 (n=457)	中部地域 (n=153)	北部地域 (n=65)
18～19 歳	2%	1%	0%
20～29 歳	5%	5%	6%
30～39 歳	13%	12%	11%
40～49 歳	17%	17%	18%
50～59 歳	19%	13%	15%
60～69 歳	13%	15%	19%
70～79 歳	22%	18%	26%
80 歳以上	9%	18%	4%
無回答	0%	1%	—

②中学生以下の子どもの有無

地域別で大きな違いは見られない。

	南部地域 (n=457)	中部地域 (n=153)	北部地域 (n=65)
いる	27%	23%	23%
いない	72%	75%	75%
無回答	1%	2%	2%

③居住年数

地域別で大きな違いは見られない。

	南部地域 (n=457)	中部地域 (n=153)	北部地域 (n=65)
3 年未満	6%	3%	4%
3 年以上 5 年未満	4%	5%	0%
5 年以上 10 年未満	9%	6%	10%
10 年以上 20 年未満	20%	15%	11%
20 年以上	61%	71%	75%
無回答	0%	1%	—

IV 年齢別集計

(1) 地域のまちづくりの満足度・重要度（年齢別集計）

【満足度回答の比較】

39歳以下は「安心して利用できる上下水道等が整っている」の「満足」が他より多い。

図表 地域のまちづくりの満足度（年齢別比較）



【重要度回答の比較】

39 歳以下は、「安心して利用できる上下水道等が整っている」と「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」「教育施設等(保育園～高校)が充足している」の「重要」が、他より多い。

図表 地域のまちづくりの重要度（3地域別比較）



【地域のまちづくり満足度 加重平均の比較】

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」と「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」の満足度は、いずれもマイナスであるが、40-69歳は特に低くなっている。

図表 地域のまちづくり加重平均の年齢別の比較

	39歳未満 (n=139)	40-69歳 (n=362)	70歳以上 (n=246)
①住環境が整っている	1.12	0.95	1.01
②買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい	0.91	0.77	0.98
③工業地と周辺環境とが調和している	0.89	0.78	0.77
④観光やレクリエーションを通じてまちが楽しい	0.10	-0.02	0.10
⑤歴史資源が保全・活用されている	0.70	0.59	0.52
⑥田畑が適切に保全・活用されている	0.62	0.37	0.34
⑦バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い	-0.42	-0.81	-0.41
⑧幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い	0.45	0.38	0.51
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている	-0.13	-0.35	-0.17
⑩利用しやすい公園・緑地が整備されている	0.73	0.75	0.64
⑪安心して利用できる上下水道等が整っている	1.51	1.33	1.36
⑫教育施設等(保育園～高校)が充足している	0.60	0.80	1.01
⑬自然環境が適切に保全・活用されている	1.04	0.76	0.80
⑭ホテルが生息しやすい河川環境が整備されている	0.65	0.51	0.40
⑮周辺環境との調和がとれた街並みが形成されている	0.92	0.51	0.47
⑯市民ホール、図書館などの文化施設が充足している	1.25	1.09	1.03
⑰大雨、台風、地震などの災害への対策ができている	0.37	0.16	0.12
平 均	0.67	0.50	0.56

※加重平均：

満足(2) やや満足(1) やや満足でない(-1) 満足でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

【重要度 加重平均の比較】

「教育施設等(保育園～高校)が充足している」は、39歳以下の重要度が他より高い。

図表 地域のまちづくりの重要度の年齢別の比較

	39歳未満 (n=139)	40-69歳 (n=362)	70歳以上 (n=246)
①住環境が整っている	1.55	1.50	1.48
②買い物、通勤通学、散歩など 日常生活がしやすい	1.68	1.54	1.53
③工業地と周辺環境とが調和し ている	0.96	0.88	1.05
④観光やレクリエーションを通 じてまちが楽しい	0.64	0.87	0.95
⑤歴史資源が保全・活用されて いる	0.30	0.60	0.93
⑥田畑が適切に保全・活用され ている	0.98	0.94	1.15
⑦バス・デマンド乗合交通など 公共交通の利便性が高い	1.34	1.43	1.49
⑧幹線道路や生活道路が整備さ れ、利便性が高い	1.50	1.50	1.47
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通 行できる道路が整備されている	1.68	1.50	1.55
⑩利用しやすい公園・緑地が整 備されている	1.42	1.10	1.22
⑪安心して利用できる上下水道 等が整っている	1.63	1.43	1.51
⑫教育施設等(保育園～高校)が 充足している	1.54	1.10	1.30
⑬自然環境が適切に保全・活用 されている	1.21	1.12	1.22
⑭ホテルが生息しやすい河川環 境が整備されている	0.93	0.94	1.13
⑮周辺環境との調和がとれた街 並みが形成されている	1.03	0.97	1.12
⑯市民ホール、図書館などの文 化施設が充足している	1.20	1.02	1.19
⑰大雨、台風、地震などの災害 への対策ができています	1.64	1.66	1.63
平 均	1.25	1.18	1.29

※加重平均：

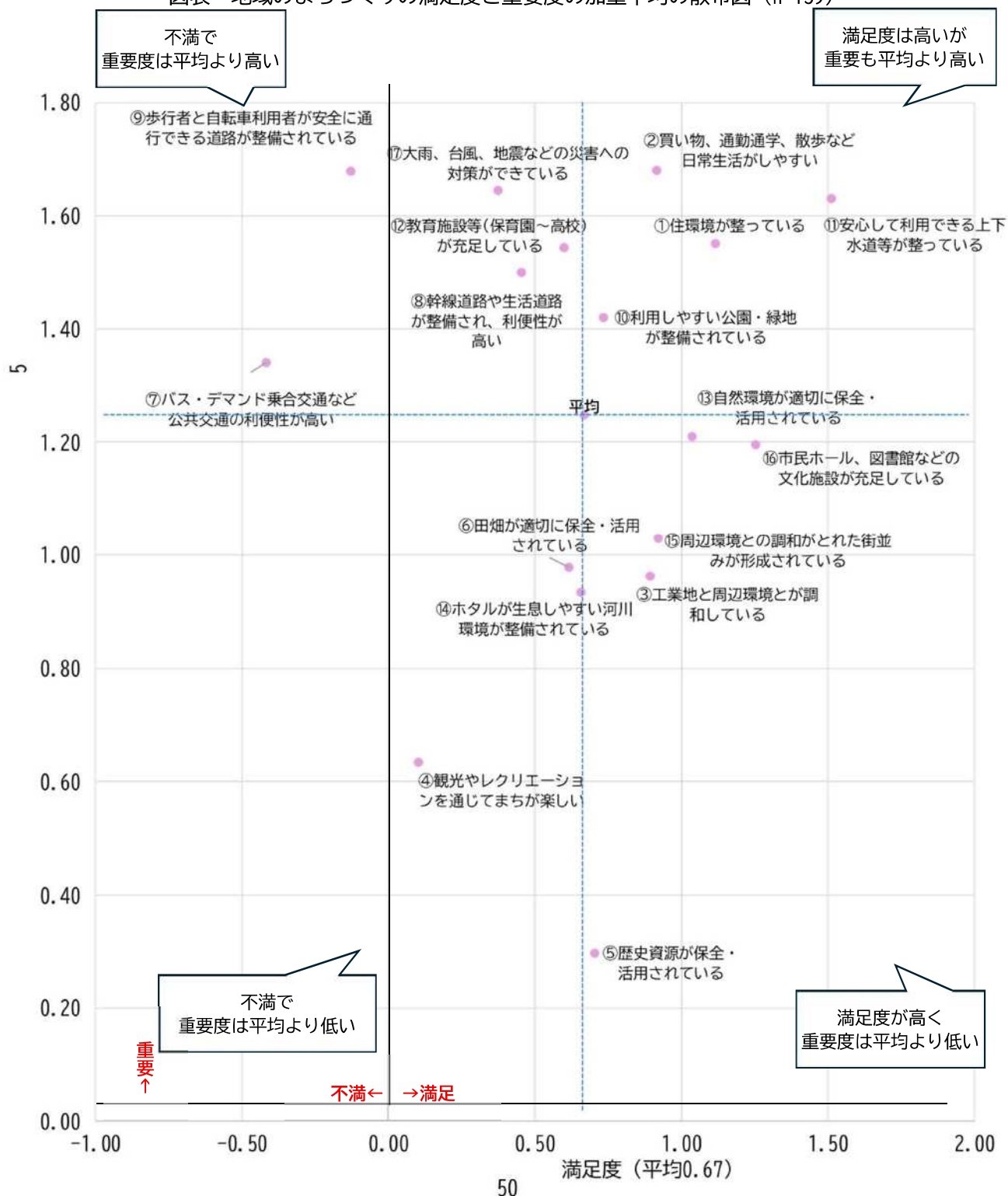
重要(2) やや重要(1) やや重要でない(-1) 重要でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

【39 歳未満の満足度・重要度 加重平均 】

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

また、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができています」、「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」「教育施設等(保育園～高校)が充足している」は、満足度が平均以下で重要度も高いことから、若い世代が求めるまちづくりにおいて、優先度が比較的高いと言える。

図表 地域のまちづくりの満足度と重要度の加重平均の散布図 (n=139)



(2) 地域の暮らしの心配事（年齢別集計）

70 歳以上は、他の年代に比べて「心配」の程度が少ない傾向がある。

「バスの減便やタクシー事業者の減少により買い物・通院などがしにくくなる」は、40-69 歳が他の年代よりも「非常に心配」が多い。「商店や医院などサービス施設の減少により不便になる。」は 39 歳以下が他の年代よりも「非常に心配」が多い。

図表 地域の暮らしの心配事の年齢別の比較



図 地域の暮らしの心配事の年齢別の加重平均の比較

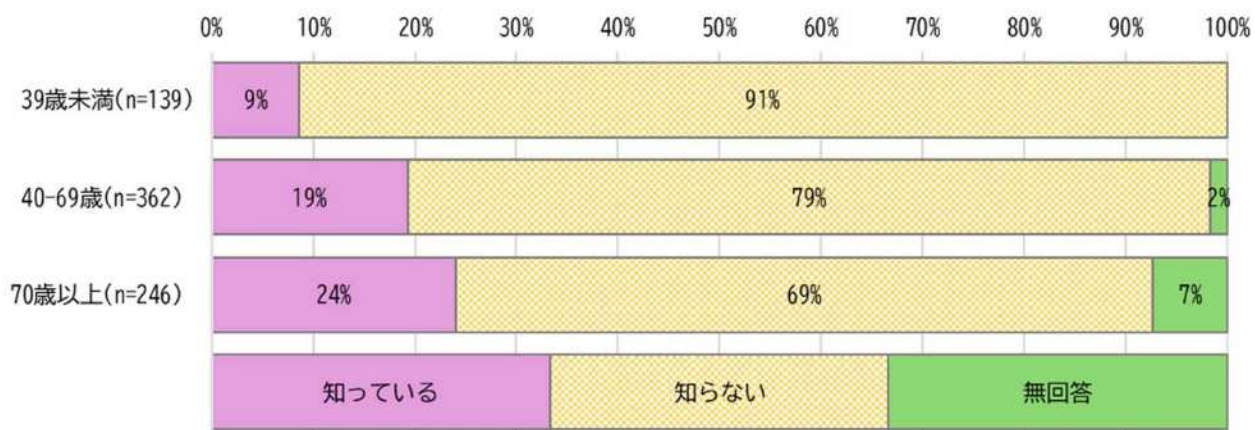
	39歳未満 (n=139)	40-69歳 (n=362)	70歳以上 (n=246)
①道路や上下水道などの維持にはお金がかかり、老朽化や劣化が進む。	1.55	1.59	1.42
②空き家や空き地が増えると防犯面の危険性が高まったり、景観が悪くなる。	1.36	1.42	1.35
③商店や医院などサービス施設の減少により不便になる。	1.41	1.41	1.10
④バスの減便やタクシー事業者の減少により買い物・通院などがしにくくなる。	1.23	1.48	1.36
⑤防災対策が十分に行われなくなり、災害のリスクが高くなる。	1.40	1.43	1.29
⑥自治会などの活動が続けにくくなり、防災活動や地域の清掃等ができなくなる。	1.02	1.07	1.19
⑦農家が減少し農地が管理されずに住宅の周辺が荒れる。	1.21	1.18	1.13
⑧税収が減ることで行政サービス水準が低下する。	1.37	1.45	1.28
平 均	1.32	1.38	1.26

加重平均：非常に心配(2)、少し心配(1)、心配はしていない(0)で加重 無回答を除く回答者の平均

(3) 都市計画マスタープランの認知度（年齢別集計）

年齢が高いほど認知度が高いが、一番多い70歳代以上でも2割強となっている。
39歳以下は1割に満たない。

図表 都市計画マスタープランの認知度の年齢別の比較

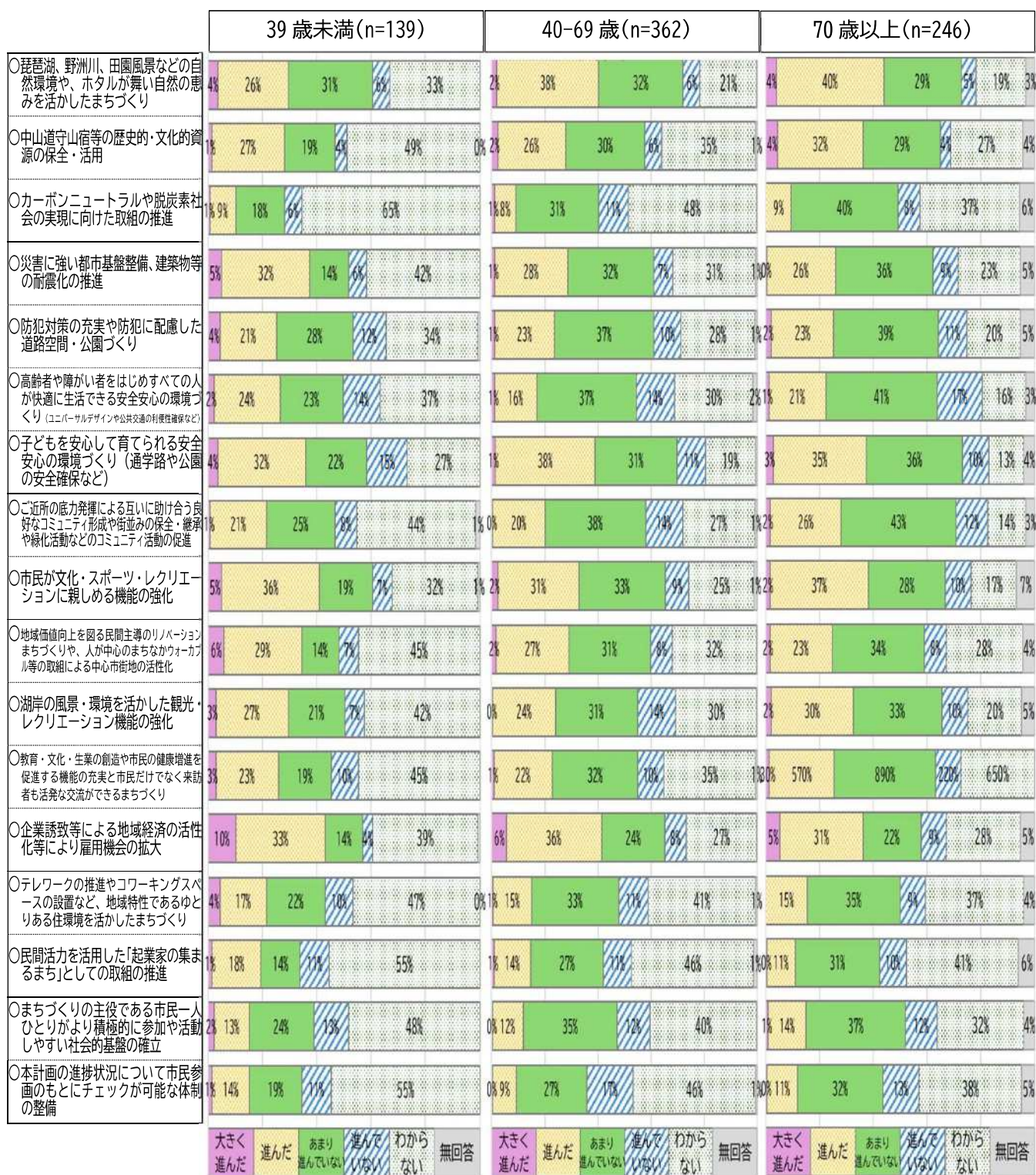


(4) まちづくりの進捗状況（年齢数別集計）

39 歳以下は、他の年代よりも「わからない」が多い傾向がある。

わかる回答者のみで算出した加重平均では、いずれの年代も「企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大」は高いが、特に 39 歳以下が高くなっており、進んだと評価している。

図表 まちづくりの進捗状況の年齢別の比較



図表 まちづくりの進捗状況の加重平均の年齢別の比較

		39歳未満 (n=139)	40-69歳 (n=362)	70歳以上 (n=246)
まちづくり ①自然の恵みと歴史・文化を活かしたまちづくり	○琵琶湖、野洲川、田園風景などの自然環境や、ホテルが舞い自然の恵みを活かしたまちづくり	1.40	1.46	1.55
	○中山道守山宿等の歴史的・文化的資源の保全・活用	1.49	1.37	1.54
	○カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現に向けた取組の推進	1.13	0.98	1.02
まちづくり ②安全で安心して住み続けられるまちづくり	○災害に強い都市基盤整備、建築物等の耐震化の推進	1.62	1.33	1.24
	○防犯対策の充実や防犯に配慮した道路空間・公園づくり	1.26	1.21	1.22
	○高齢者や障がい者をはじめすべての人が快適に生活できる安全安心の環境づくり (ユニバーサルデザインや公共交通の利便性確保など)	1.24	1.06	1.09
	○子どもを安心して育てられる安全安心の環境づくり (通学路や公園の安全確保など)	1.33	1.37	1.37
まちづくり ③すべての人がいきいきと暮らせるまちづくり	○近所の底力発揮による互いに助け合う良好なコミュニティ形成や街並みの保全・継承や緑化活動などのコミュニティ活動の促進	1.26	1.09	1.22
	○市民が文化・スポーツ・レクリエーションに親しめる機能の強化	1.57	1.35	1.39
まちづくり ④にぎわいと活力のある魅力的なまちづくり	○地域価値向上を図る民間主導のリノベーションまちづくりや、人が中心のまちなかウォークアブル等の取組による中心市街地の活性化	1.60	1.33	1.27
	○湖岸の風景・環境を活かした観光・レクリエーション機能の強化	1.44	1.14	1.33
	○教育・文化・生業の創造や市民の健康増進を促進する機能の充実と市民だけでなく来訪者も活発な交流ができるまちづくり	1.34	1.21	1.17
	○企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大	1.82	1.53	1.48
まちづくり ⑤「新たな日常」に対応したまちづくり	○テレワークの推進やコワーキングスペースの設置など、地域特性であるゆとりある住環境を活かしたまちづくり	1.30	1.08	1.10
	○民間活力を活用した「起業家の集まるまち」としての取組の推進	1.23	1.09	1.02
まちづくり ⑥市民協働のまちづくり	○まちづくりの主役である市民一人ひとりがより積極的に参加や活動しやすい社会的基盤の確立	1.08	1.00	1.06
	○本計画の進捗状況について市民参画のもとにチェックが可能な体制の整備	1.13	0.85	0.98

※加重平均：

進んだ(3) やや進んだ(2) あまり進んでいない(1) 進んでいない(0) の加重を設定し、
「わからない」と無回答を除く回答者の平均

(5) 優先したいまちづくりの方向（年齢別集計）

39歳以下は、「子どもの遊び場などが充実した子どもや子育て世代にやさしいまち」が他の年代より多くなっている。「社会的に支援を必要とする人も安心して暮らせるバリアフリーのまち」は70歳以上が他の年代よりも多くなっている。

図表 優先したいまちづくりの方向の年齢別比較

	39歳未満 (n=139)	40-69歳 (n=362)	70歳以上 (n=246)
自然の恵みと歴史・文化・景観を活かしたまち	22%	23%	28%
脱炭素社会や循環型社会を目指すまち	8%	7%	9%
災害に強いまち	45%	50%	46%
社会的に支援を必要とする人も安心して暮らせるバリアフリーのまち	25%	35%	42%
子どもの遊び場などが充実した子どもや子育て世代にやさしいまち	61%	30%	19%
コミュニティ活動や文化・スポーツ・レクリエーションに親しめすべての人がいきいきと暮らせるまち	14%	24%	23%
道路や公共交通などの交通環境が整備され便利に暮らせるまち	58%	62%	57%
JR 守山駅周辺を含む中心商業地において歩いて暮らせるコンパクトなまち	24%	23%	23%
産業の活性化・人口増加によるにぎわいと活力のあるまち	11%	17%	18%
市民だけでなく来訪者も活発な交流ができる魅力的なまち	5%	7%	7%
デジタル技術など先進的な技術が活用されるまち	9%	9%	5%
その他	1%	2%	2%
無回答	3%	1%	2%

(6) まちづくり活動の参加意向（年齢別集計）

「良好な住環境の形成や街並みの保全・継承、緑化や水辺の保全・活用などまちづくりのルールづくりへの参加・協力」、「清掃や緑化活動など、まちを魅力的にする活動への参加」は、年代が上がるにつれて多くなる傾向がある。

39歳以下は、「まちのにぎわいや活性化につながる地域イベントなどへの参加」が最も多い。

図 まちづくり活動の参加意向の年齢別比較

	39歳未満 (n=139)	40-69歳 (n=362)	70歳以上 (n=246)
まちづくりの意見交換の場（市民懇談会・タウンミーティング等）への参加	11%	9%	12%
良好な住環境の形成や街並みの保全・継承、緑化や水辺の保全・活用などまちづくりのルールづくりへの参加・協力	9%	20%	30%
まちのにぎわいや活性化につながる地域イベントなどへの参加	45%	42%	33%
清掃や緑化活動など、まちを魅力的にする活動への参加	19%	27%	36%
まちづくりの意向に関するアンケートなどへの協力	37%	33%	27%
参加したいと思わない	16%	15%	11%
その他	1%	3%	4%
無回答	3%	2%	9%

(7) 属性（年齢別集計）

①中学生以下の子どもの有無

39 歳以下では5割に中学生以下の子どもがいる。

	39 歳未満 (n=139)	40-69 歳 (n=362)	70 歳以上 (n=246)
いる	54%	30%	2%
いない	46%	70%	98%
無回答	0%	1%	1%

②居住年数

39 歳以下は、10 年未満が約5割となっている。

	39 歳未満 (n=139)	40-69 歳 (n=362)	70 歳以上 (n=246)
3 年未満	19%	2%	2%
3 年以上 5 年未満	9%	3%	1%
5 年以上 10 年未満	20%	7%	2%
10 年以上 20 年未満	17%	25%	7%
20 年以上	35%	61%	89%
無回答	0%	0%	0%

③居住学区

39 歳以下は、守山学区が他の年代よりも多くなっている。

	39 歳未満 (n=139)	40-69 歳 (n=362)	70 歳以上 (n=246)
守山学区	39%	33%	26%
吉身学区	15%	20%	15%
河西学区	15%	17%	20%
小津学区	9%	6%	8%
玉津学区	5%	4%	7%
中洲学区	3%	3%	2%
速野学区	12%	14%	14%
無回答	3%	3%	7%

V 中学生以下の子どもの有無別集計

(1) 地域のまちづくりの満足度・重要度（子どもの有無別集計）

【満足度の比較】

中学生以下の子どもの有無による満足度に大きな違いは見られない。

図表 地域のまちづくりの満足度の子どもの有無別の比較



【重要度の比較】

子ども有の方が「利用しやすい公園・緑地が整備されている」、「教育施設等(保育園～高校)が充足している」の重要度が高くなっている。

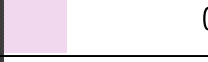
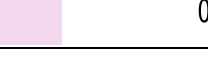
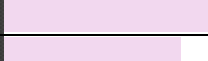
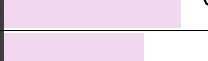
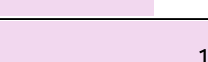
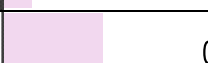
図表 地域のまちづくりの重要度の子どもの有無別の比較



【満足度 加重平均の比較】

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」の不満は、子ども有の方が高くなっている。

図表 地域のまちづくりの満足度の加重平均の子どもの有無別の比較

	中学生以下の子有 (n=186)		中学生以下の子無 (n=557)	
①住環境が整っている		1.11		0.97
②買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい		0.85		0.88
③工業地と周辺環境とが調和している		0.94		0.76
④観光やレクリエーションを通じてまちが楽しい		0.25		-0.02
⑤歴史資源が保全・活用されている		0.72		0.56
⑥田畑が適切に保全・活用されている		0.61		0.34
⑦バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い		-0.77		-0.54
⑧幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い		0.34		0.48
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている		-0.38		-0.20
⑩利用しやすい公園・緑地が整備されている		0.97		0.63
⑪安心して利用できる上下水道等が整っている		1.33		1.38
⑫教育施設等(保育園～高校)が充足している		0.47		0.96
⑬自然環境が適切に保全・活用されている		1.04		0.76
⑭ホテルが生息しやすい河川環境が整備されている		0.64		0.46
⑮周辺環境との調和がとれた街並みが形成されている		0.83		0.49
⑯市民ホール、図書館などの文化施設が充足している		1.15		1.09
⑰大雨、台風、地震などの災害への対策ができている		0.29		0.16
平 均		0.61		0.54

※加重平均：

満足(2) やや満足(1) やや満足でない(-1) 満足でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

【重要度 加重平均の比較】

重要度については、子ども有は「利用しやすい公園・緑地が整備されている」、「教育施設等(保育園～高校)が充足している」が高くなっている。

図表 地域のまちづくりの重要度の加重平均の子どもの有無別の比較

	中学生以下の子有 (n=186)	中学生以下の子無 (n=557)
①住環境が整っている	1.55	1.49
②買い物、通勤通学、散歩など 日常生活がしやすい	1.61	1.54
③工業地と周辺環境とが調和し ている	0.95	0.95
④観光やレクリエーションを通 じてまちが楽しい	0.95	0.81
⑤歴史資源が保全・活用されて いる	0.56	0.66
⑥田畑が適切に保全・活用され ている	0.89	1.05
⑦バス・デマンド乗合交通など 公共交通の利便性が高い	1.33	1.47
⑧幹線道路や生活道路が整備さ れ、利便性が高い	1.52	1.48
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通 行できる道路が整備されている	1.65	1.51
⑩利用しやすい公園・緑地が整 備されている	1.38	1.14
⑪安心して利用できる上下水道 等が整っている	1.49	1.49
⑫教育施設等(保育園～高校)が 充足している	1.48	1.16
⑬自然環境が適切に保全・活用 されている	1.21	1.15
⑭ホタルが生息しやすい河川環 境が整備されている	0.96	1.01
⑮周辺環境との調和がとれた街 並みが形成されている	1.03	1.02
⑯市民ホール、図書館などの文 化施設が充足している	1.18	1.08
⑰大雨、台風、地震などの災害 への対策ができています	1.70	1.63
平 均	1.26	1.21

※加重平均：

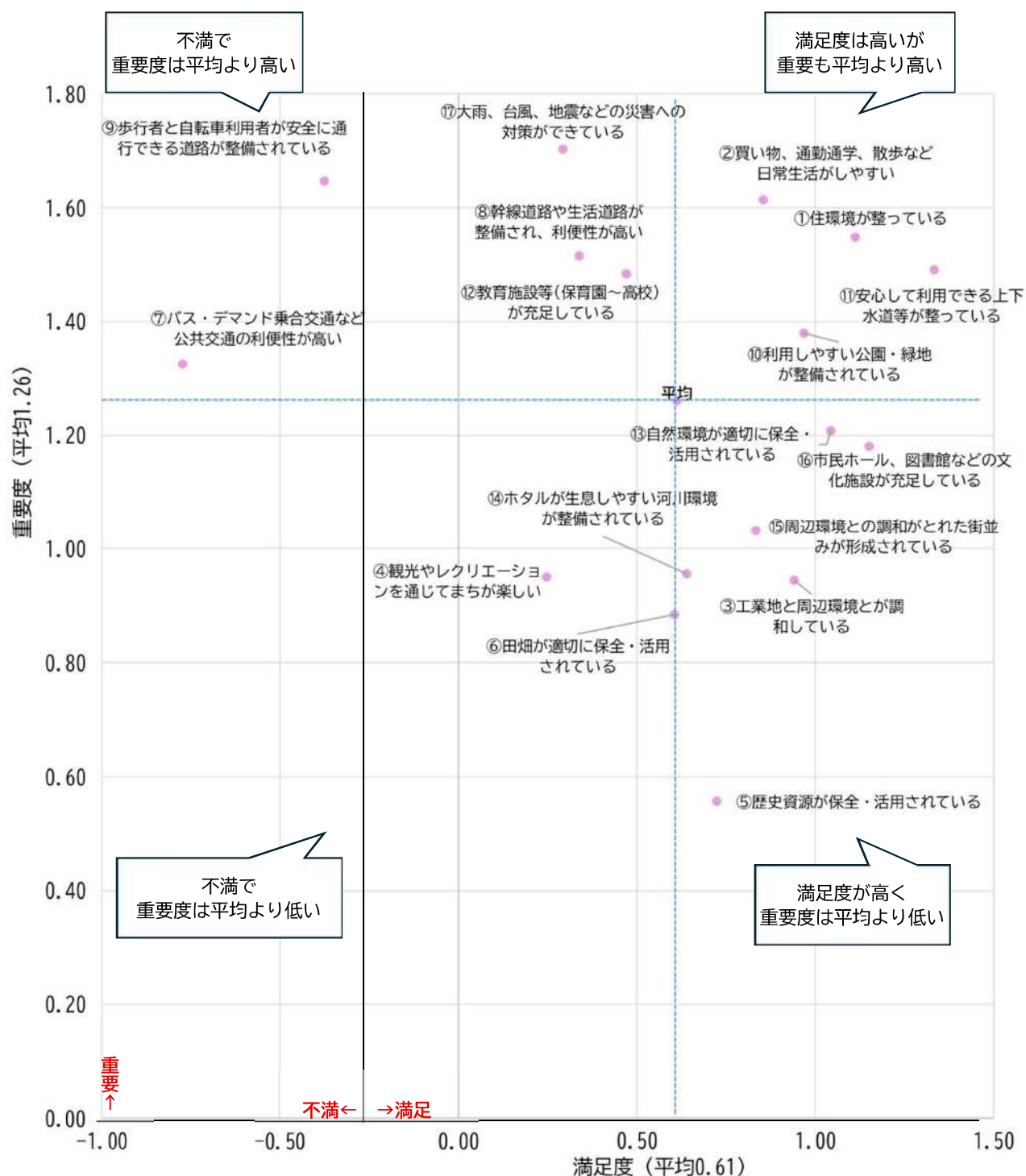
重要(2) やや重要(1) やや重要でない(-1) 重要でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

【中学生以下の子有の満足度・重要度 加重平均】

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

また、平均よりは満足度が低く重要度が高い「大雨、台風、地震などの災害への対策ができている」「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」「教育施設等(保育園～高校)が充足している」についても、子育て環境充実ににおいて、優先が期待される。

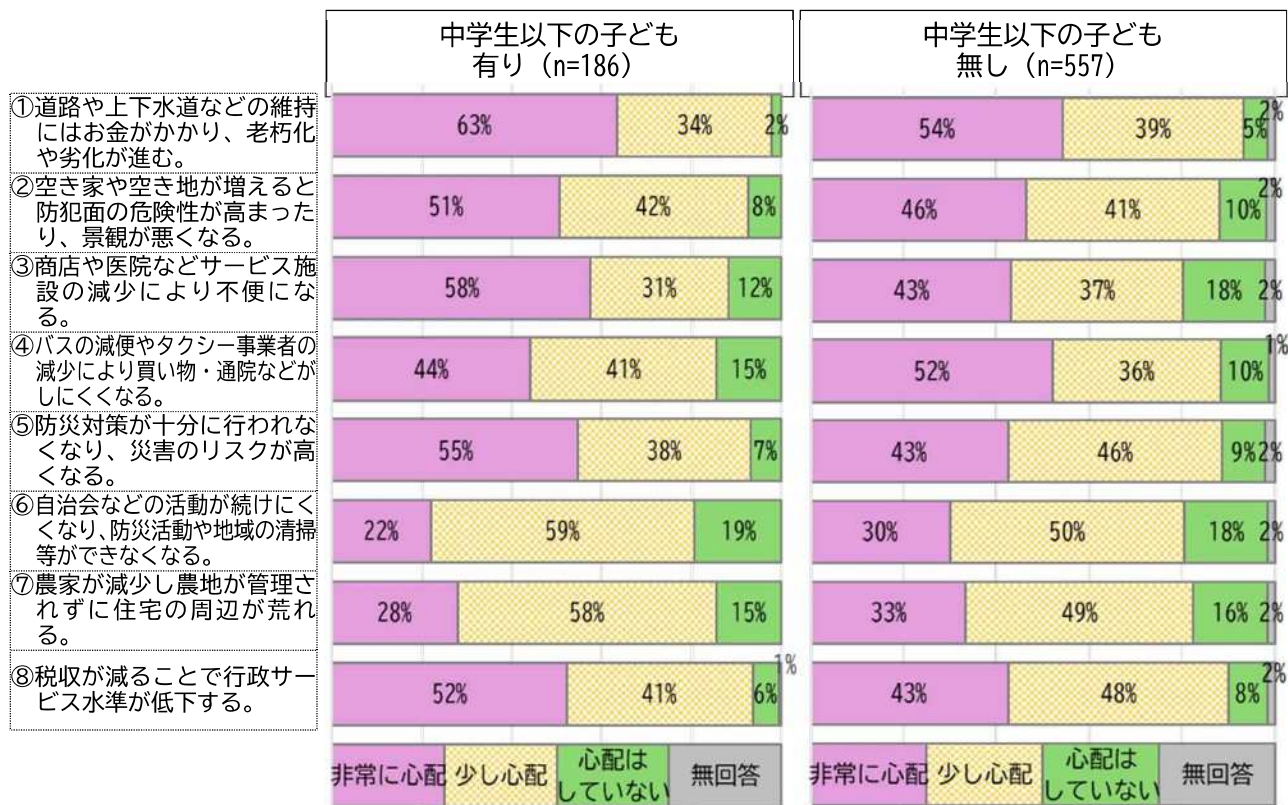
図表 子ども有の方の地域のまちづくりの満足度と重要度の加重平均の散布図 (n=186)



(2) 地域の暮らしの心配事（子どもの有無別集計）

「道路や上下水道などの維持にはお金がかかり、老朽化や劣化が進む。」「商店や医院などサービス施設の減少により不便になる。」「防災対策が十分に行われなくなり、災害のリスクが高くなる。」「税金が減ることで行政サービス水準が低下する。」は、子ども有の方が「非常に心配」が10ポイント程度高くなっている。

図表 地域の暮らしの心配事の子どもの有無別の比較



図表 地域の暮らしの心配事子どもの有無別の加重平均の比較

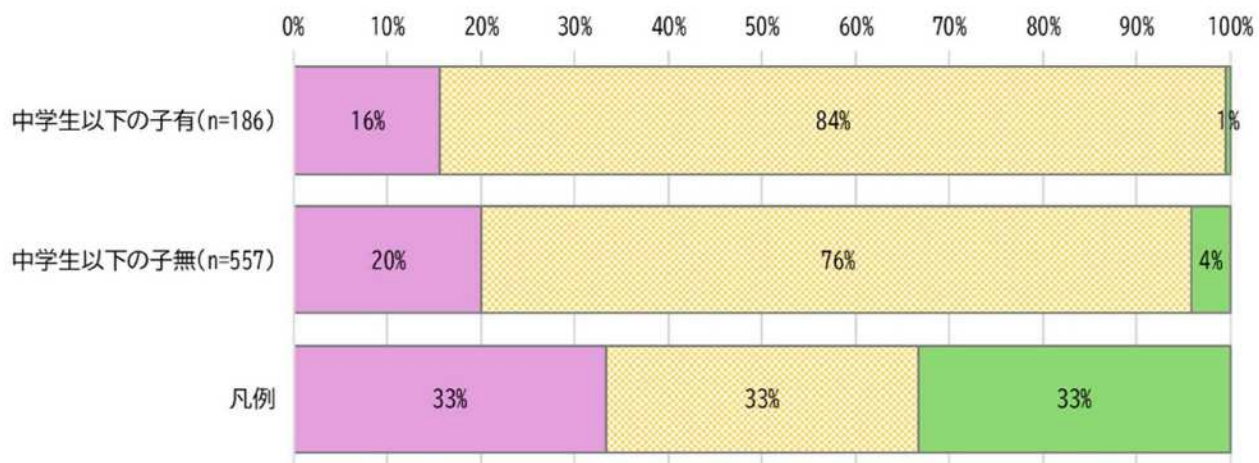
	学生以下の子有 (n=186)	中学生以下の子無 (n=557)
①道路や上下水道などの維持にはお金がかかり、老朽化や劣化が進む。	1.61	1.50
②空き家や空き地が増えると防犯面の危険性が高まったり、景観が悪くなる。	1.43	1.37
③商店や医院などサービス施設の減少により不便になる。	1.46	1.26
④バスの減便やタクシー事業者の減少により買い物・通院などがしにくくなる。	1.30	1.42
⑤防災対策が十分に行われなくなり、災害のリスクが高くなる。	1.48	1.34
⑥自治会などの活動が続けにくくなり、防災活動や地域の清掃等ができなくなる。	1.03	1.12
⑦農家が減少し農地が管理されずに住宅の周辺が荒れる。	1.13	1.18
⑧税金が減ることで行政サービス水準が低下する。	1.46	1.35
平均	1.36	1.32

加重平均：非常に心配(2)、少し心配(1)、心配はしていない(0)で加重 無回答を除く回答者の平均

(3) 都市計画マスタープランの認知度（子どもの有無別集計）

子どもの有無に関わらず、認知度は2割に留まる。

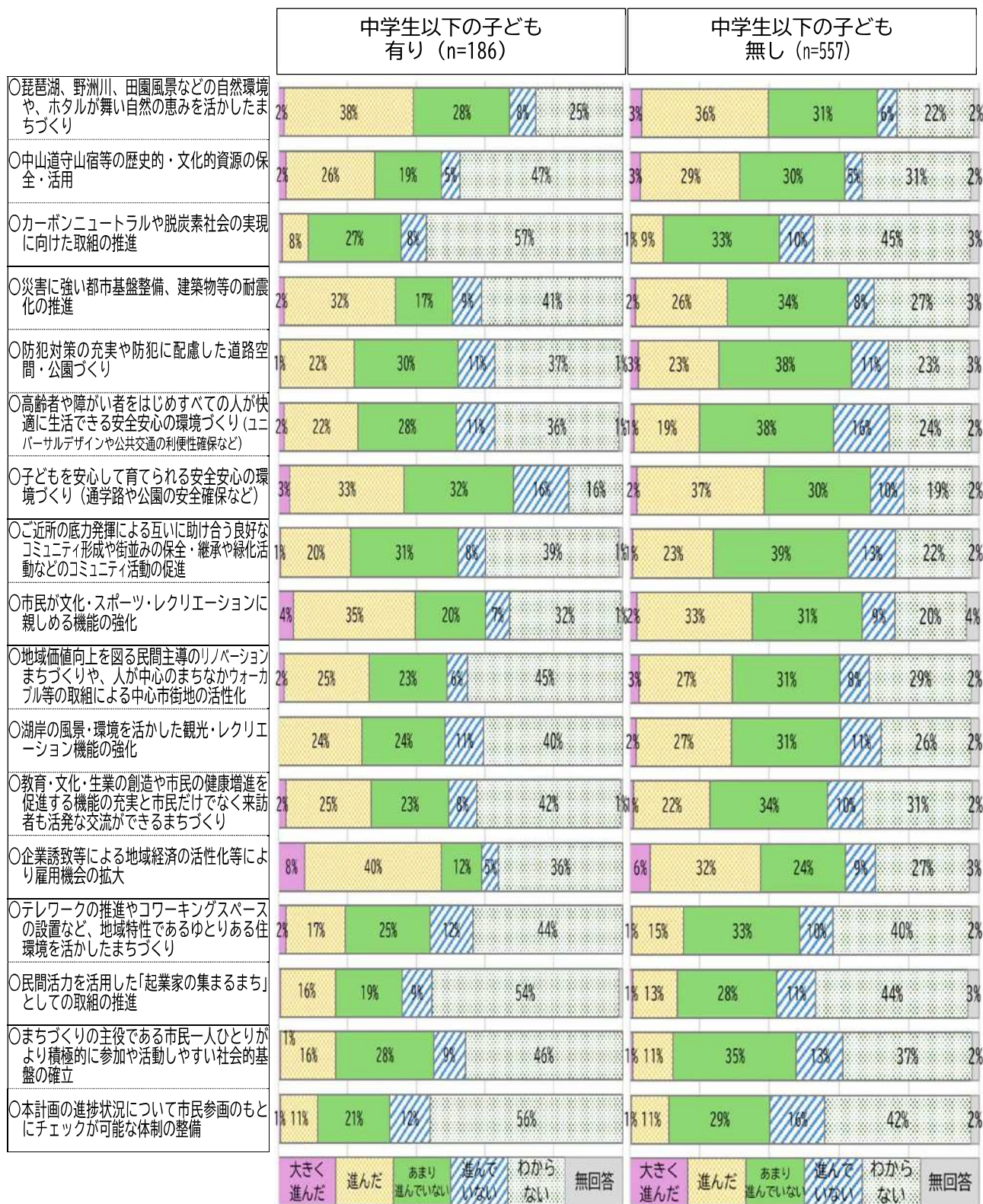
図表 都市計画マスタープランの認知度（子どもの有無別の比較）



(4) まちづくりの進捗状況（子どもの有無別集計）

「子どもを安心して育てられる安全安心の環境づくり（通学路や公園の安全確保など）」は、子ども有は無より評価が低い。「企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大」「市民が文化・スポーツ・レクリエーションに親しめる機能の強化」については子ども有の方が「進んだ」が多くなっている。

図表 まちづくりの進捗状況子どもの有無別の比較



図表 まちづくりの進捗状況の加重平均の子どもの有無別の比較

		中学生以下の子有 (n=186)	中学生以下の子無 (n=557)
①自然の恵みと歴史・文化を活かしたまちづくり	○琵琶湖、野洲川、田園風景などの自然環境や、ホテルが舞い自然の恵みを活かしたまちづくり	1.45	1.49
	○中山道守山宿等の歴史的・文化的資源の保全・活用	1.47	1.44
	○カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現に向けた取組の推進	1.05	1.01
	○防災に強い都市基盤整備、建築物等の耐震化の推進	1.45	1.32
②安全で安心して住み続けられるまちづくり	○防犯対策の充実や防犯に配慮した道路空間・公園づくり	1.19	1.23
	○高齢者や障がい者をはじめすべての人が快適に生活できる安全安心の環境づくり（ユニバーサルデザインや公共交通の利便性確保など）	1.21	1.07
	○子どもを安心して育てられる安全安心の環境づくり（通学路や公園の安全確保など）	1.28	1.39
	○近所の底力発揮による互いに助け合う良好なコミュニティ形成や街並みの保全・継承や緑化活動などのコミュニティ活動の促進	1.22	1.15
③すべての人がいきいきと暮らせるまちづくり	○市民が文化・スポーツ・レクリエーションに親しめる機能の強化	1.55	1.37
	○地域価値向上を図る民間主導のリノベーションまちづくりや、人が中心のまちなかウォークアブル等の取組による中心市街地の活性化	1.40	1.35
	○湖岸の風景・環境を活かした観光・レクリエーション機能の強化	1.22	1.27
	○教育・文化・生業の創造や市民の健康増進を促進する機能の充実と市民だけでなく来訪者も活発な交流ができるまちづくり	1.36	1.21
④にぎわいと活力のある魅力的なまちづくり	○企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大	1.78	1.49
	○テレワークの推進やコワーキングスペースの設置など、地域特性であるゆとりある住環境を活かしたまちづくり	1.16	1.11
	○民間活力を活用した「起業家の集まるまち」としての取組の推進	1.19	1.06
	○まちづくりの主役である市民一人ひとりがより積極的に参加や活動しやすい社会的基盤の確立	1.15	1.00
⑤新たな日常を踏まえた協働のまちづくり	○本計画の進捗状況について市民参画のもとにチェックが可能な体制の整備	1.00	0.93

※加重平均：

進んだ(3) やや進んだ(2) あまり進んでいない(1) 進んでいない(0) の加重を設定し、「わからない」と無回答を除く回答者の平均

(5) 優先したいまちづくりの方向（子どもの有無別集計）

子ども有は、「子どもの遊び場などが充実した子どもや子育て世代にやさしいまち」が、子ども無に比べて 30 ポイント以上多くなっている。

図表 優先したいまちづくりの方向の子どもの有無別の比較

	中学生以下の子 有(n=186)	中学生以下の子 無(n=557)
自然の恵みと歴史・文化・景観を活かしたまち	19%	25%
脱炭素社会や循環型社会を目指すまち	4%	9%
災害に強いまち	48%	48%
社会的に支援を必要とする人も安心して暮らせるバリアフリーのまち	29%	38%
子どもの遊び場などが充実した子どもや子育て世代にやさしいまち	59%	23%
コミュニティ活動や文化・スポーツ・レクリエーションに親しめすべての人がいきいきと暮らせるまち	22%	22%
道路や公共交通などの交通環境が整備され便利に暮らせるまち	63%	59%
JR 守山駅周辺を含む中心商業地において歩いて暮らせるコンパクトなまち	18%	25%
産業の活性化・人口増加によるにぎわいと活力のあるまち	12%	18%
市民だけでなく来訪者も活発な交流ができる魅力的なまち	4%	7%
デジタル技術など先進的な技術が活用されるまち	11%	6%
その他	2%	2%
無回答	0%	1%

(6) まちづくり活動の参加意向（子どもの有無別集計）

「まちのにぎわいや活性化につながる地域イベントなどへの参加」が、子ども有は無しよりも多くなっている。

図表 まちづくり活動の参加意向の子どもの有無別の比較

	中学生以下の子 有(n=186)	中学生以下の子 無(n=557)
まちづくりの意見交換の場（市民懇談会・タウンミーティング等）への参加	11%	11%
良好な住環境の形成や街並みの保全・継承、緑化や水辺の保全・活用などまちづくりのルールづくりへの参加・協力	16%	25%
まちのにぎわいや活性化につながる地域イベントなどへの参加	55%	36%
清掃や緑化活動など、まちを魅力的にする活動への参加	23%	31%
まちづくりの意向に関するアンケートなどへの協力	35%	30%
参加したいと思わない	13%	15%
その他	2%	3%
無回答	2%	5%

(7) 属性（子どもの有無別集計）

①年齢

子ども有は、30 歳代、40 歳代が占めている。

	中学生以下の子 有(n=186)	中学生以下の子 無(n=557)
18～19 歳	1%	1%
20～29 歳	2%	6%
30～39 歳	38%	4%
40～49 歳	46%	7%
50～59 歳	11%	20%
60～69 歳	1%	18%
70～79 歳	2%	28%
80 歳以上	1%	15%
無回答	0%	0%

②居住年数

居住年数が 20 年以上の子ども有も多くみられる。

	中学生以下の子 有(n=186)	中学生以下の子 無(n=557)
3 年未満	9%	4%
3 年以上 5 年未満	10%	2%
5 年以上 10 年未満	21%	4%
10 年以上 20 年未満	30%	14%
20 年以上	31%	77%
無回答	0%	0%

③学区

子どもの有無による大きな違いは見られない。

	中学生以下の子 有(n=186)	中学生以下の子 無(n=557)
守山学区	33%	31%
吉身学区	18%	17%
河西学区	16%	18%
小津学区	8%	7%
玉津学区	4%	6%
中洲学区	4%	3%
速野学区	15%	13%
無回答	3%	5%

VI 居住年数別集計

(1) 地域のまちづくりの満足度・重要度（居住年数別集計）

【満足度の比較】

10年未満は、「利用しやすい公園・緑地が整備されている」を「満足」している割合が他よりも多く、「大雨、台風、地震などの災害への対策ができていない」の「やや満足」も多い。

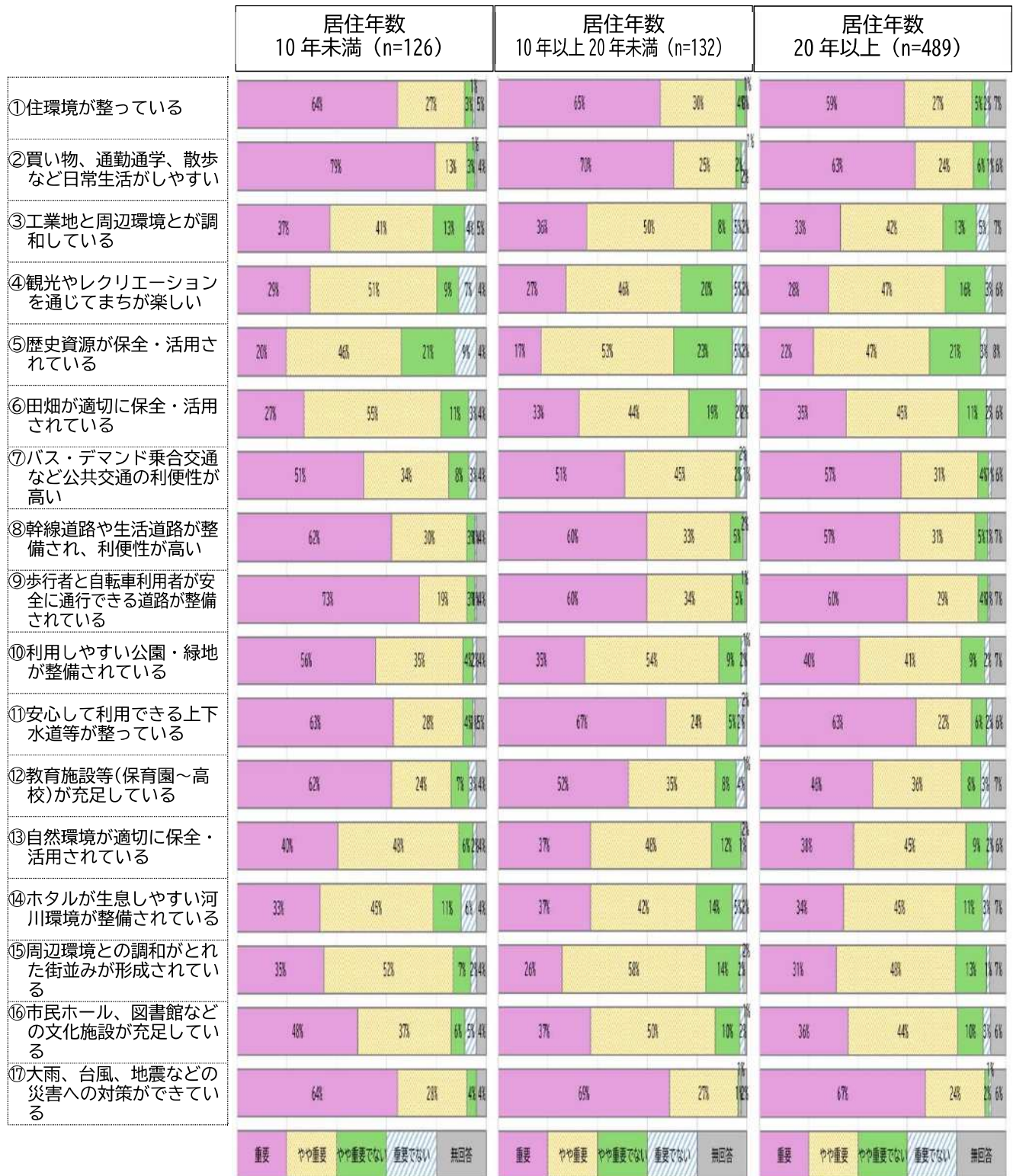
図表 地域のまちづくりの満足度の居住年数別比較



【重要度の比較】

10年未満は「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」「利用しやすい公園・緑地が整備されている」を「重要」とする割合が他に比べ多い。

図表 地域のまちづくりの重要度の居住年数別比較



【満足度 加重平均の比較】

「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、10年以上で大きくマイナス評価になっている。

図表 地域のまちづくりの加重平均の居住年数別比較

	10年未満 (n=126)	10年以上20年未満 (n=132)	20年以上 (n=489)
①住環境が整っている	1.07	1.10	0.96
②買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい	0.87	0.86	0.86
③工業地と周辺環境とが調和している	0.94	0.83	0.75
④観光やレクリエーションを通じてまちが楽しい	0.13	0.04	0.02
⑤歴史資源が保全・活用されている	0.56	0.62	0.59
⑥田畑が適切に保全・活用されている	0.74	0.50	0.29
⑦バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い	-0.50	-0.75	-0.59
⑧幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い	0.33	0.39	0.48
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている	-0.04	-0.46	-0.24
⑩利用しやすい公園・緑地が整備されている	0.78	0.86	0.65
⑪安心して利用できる上下水道等が整っている	1.28	1.40	1.37
⑫教育施設等(保育園～高校)が充足している	0.58	0.84	0.89
⑬自然環境が適切に保全・活用されている	0.98	0.95	0.75
⑭ホタルが生息しやすい河川環境が整備されている	0.69	0.76	0.38
⑮周辺環境との調和がとれた街並みが形成されている	0.88	0.56	0.50
⑯市民ホール、図書館などの文化施設が充足している	1.16	1.14	1.07
⑰大雨、台風、地震などの災害への対策ができている	0.41	0.15	0.14
平 均	0.64	0.58	0.52

※加重平均：

満足(2) やや満足(1) やや満足でない(-1) 満足でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

【重要度 加重平均の比較】

10年未満は、「利用しやすい公園・緑地が整備されている」「教育施設等(保育園～高校)が充足している」の優先度が高くなっている。

図表 地域のまちづくりの重要度の加重平均の居住年数別比較

	10年未満 (n=126)	10年以上20年未満 (n=132)	20年以上 (n=489)
①住環境が整っている	1.58	1.58	1.46
②買い物、通勤通学、散歩など日常生活がしやすい	1.74	1.62	1.50
③工業地と周辺環境とが調和している	1.00	1.05	0.90
④観光やレクリエーションを通じてまちが楽しい	0.90	0.72	0.87
⑤歴史資源が保全・活用されている	0.49	0.56	0.70
⑥田畑が適切に保全・活用されている	0.95	0.88	1.07
⑦バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い	1.26	1.41	1.48
⑧幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い	1.55	1.50	1.47
⑨歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている	1.67	1.50	1.53
⑩利用しやすい公園・緑地が整備されている	1.45	1.12	1.16
⑪安心して利用できる上下水道等が整っている	1.55	1.52	1.47
⑫教育施設等(保育園～高校)が充足している	1.40	1.24	1.21
⑬自然環境が適切に保全・活用されている	1.26	1.11	1.16
⑭ホタルが生息しやすい河川環境が整備されている	0.92	0.95	1.03
⑮周辺環境との調和がとれた街並みが形成されている	1.14	0.94	1.02
⑯市民ホール、図書館などの文化施設が充足している	1.24	1.11	1.07
⑰大雨、台風、地震などの災害への対策ができている	1.59	1.67	1.66
平 均	1.28	1.20	1.22

※加重平均：

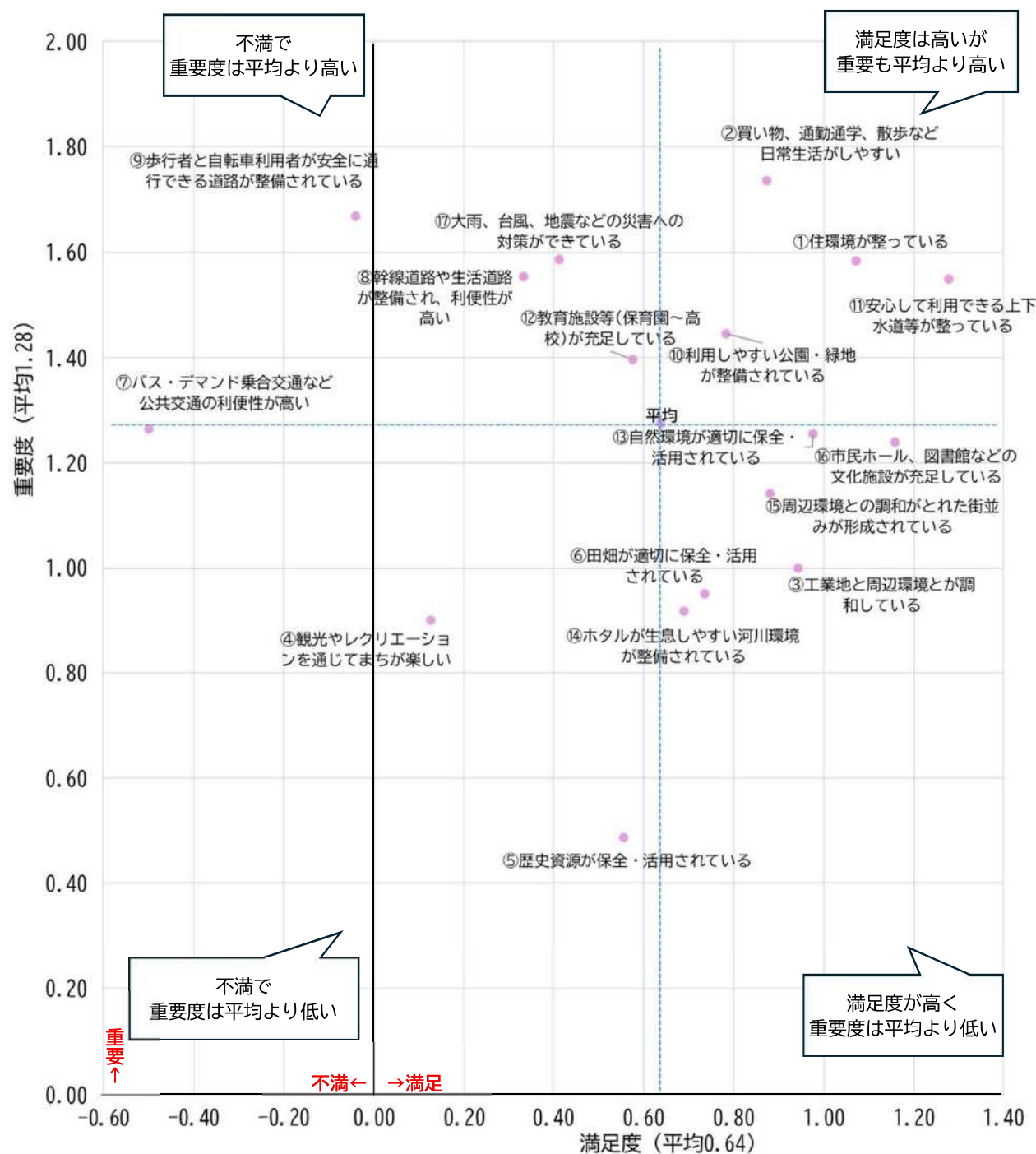
重要(2) やや重要(1) やや重要でない(-1) 重要でない(-2) の加重を設定し、無回答を除く回答者の平均

【居住年数 10 年未満の満足度・重要度 加重平均】

「バス・デマンド乗合交通など公共交通の利便性が高い」、「歩行者と自転車利用者が安全に通行できる道路が整備されている」は、満足度が低く重要度が高いことから、優先した取組が望まれる。

また、平均よりは満足度が低く重要度が高い「大雨、台風、地震などの災害への対策ができている」「幹線道路や生活道路が整備され、利便性が高い」「教育施設等(保育園～高校)が充足している」についても、居住年数の少ない市民の、今後の定住のためにも優先度が高いと言える。

図表 居住年数 10 年未満の満足度・重要度 加重平均の散布図(n=126)



(2) 地域の暮らしの心配事（居住年数別集計）

居住年数 10 年未満は、「商店や医院などサービス施設の減少により不便になる。」「防災対策が十分に行われなくなり、災害のリスクが高くなる。」「税収が減ること行政サービス水準が低下する」を「非常に心配」とする割合が、他よりも多い。

図表 地域の暮らしの心配事の地域別の比較



図表 地域の暮らしの心配事の加重平均の居住年数別の比較

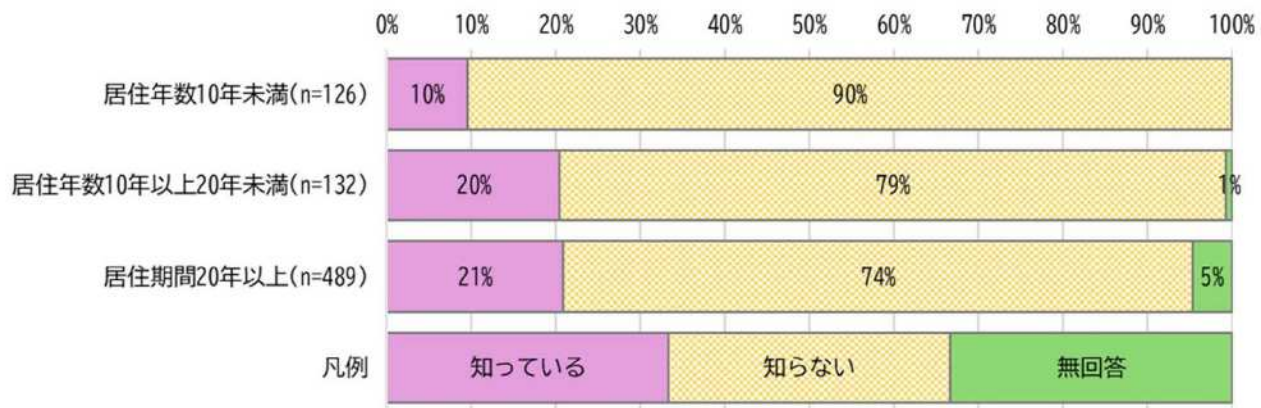
	10年未満 (n=126)	10年以上20年未満 (n=132)	20年以上 (n=489)
①道路や上下水道などの維持にはお金がかかり、老朽化や劣化が進む。	1.56	1.56	1.51
②空き家や空き地が増えると防犯面の危険性が高まったり、景観が悪くなる。	1.34	1.34	1.41
③商店や医院などサービス施設の減少により不便になる。	1.49	1.38	1.24
④バスの減便やタクシー事業者の減少により買い物・通院などがしにくくなる。	1.32	1.41	1.41
⑤防災対策が十分に行われなくなり、災害のリスクが高くなる。	1.39	1.40	1.37
⑥自治会などの活動が続けにくくなり、防災活動や地域の清掃等ができなくなる。	0.94	0.98	1.17
⑦農家が減少し農地が管理されずに住宅の周辺が荒れる。	1.10	1.12	1.20
⑧税収が減ること行政サービス水準が低下する。	1.42	1.41	1.36
平 均	1.32	1.33	1.33

加重平均：非常に心配(2)、少し心配(1)、心配はしていない(0)で加重 無回答を除く回答者の平均

(3) 都市計画マスタープランの認知度（居住年数別集計）

居住年数にかかわらず認知度は、2割程度に留まる。

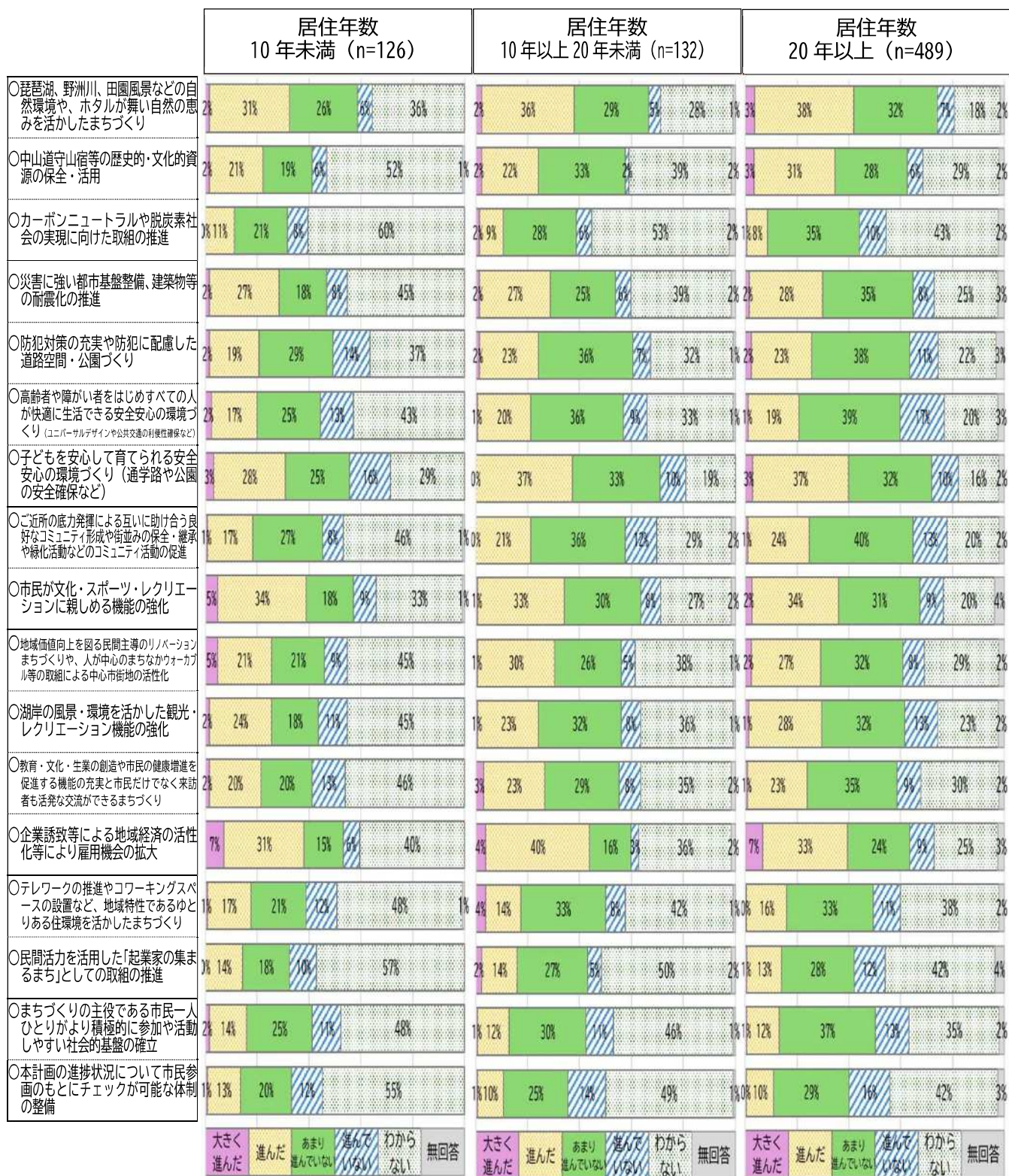
図表 都市計画マスタープランの認知度の居住年数別の比較



(4) まちづくりの進捗状況（居住年数別集計）

10年未満は、「子どもを安心して育てられる安全安心の環境づくり（通学路や公園の安全確保など）」が「進んだ」が他より少なく、「市民が文化・スポーツ・レクリエーションに親しめる機能の強化」が「進んだ」が他より多い。居住年数にかかわらず「企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大」が「進んだ」とする評価が多くなっている。

図表 まちづくりの進捗状況の居住年数別の比較



図表 まちづくりの進捗状況の加重平均の居住年数別の比較

		居住年数10年未満 (n=126)	居住年数10年以上 20年未満 (n=132)	居住期間20年以上 (n=489)
まちづくり①自然の恵みと歴史・文化を 活かしたまちづくり	○琵琶湖、野洲川、田園風景などの自然環境や、ホテルが舞い自然の恵みを活かしたまちづくり	1.44	1.50	1.48
	○中山道守山宿等の歴史的・文化的資源の保全・活用	1.39	1.42	1.47
	○カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現に向けた取組の推進	1.08	1.14	0.98
まちづくり②安全で安心して住み続けられるまちづくり	○災害に強い都市基盤整備、建築物等の耐震化の推進	1.41	1.41	1.32
	○防犯対策の充実や防犯に配慮した道路空間・公園づくり	1.13	1.28	1.23
	○高齢者や障がい者をはじめすべての人が快適に生活できる安全安心の環境づくり (ユニバーサルデザインや公共交通の利便性確保など)	1.17	1.20	1.06
	○子どもを安心して育てられる安全安心の環境づくり (通学路や公園の安全確保など)	1.26	1.33	1.39
まちづくり③すべての人がいきいきと暮らせるまちづくり	○ご近所の底力発揮による互いに助け合う良好なコミュニティ形成や街並みの保全・継承や緑化活動などのコミュニティ活動の促進	1.21	1.13	1.16
	○市民が文化・スポーツ・レクリエーションに親しめる機能の強化	1.53	1.38	1.38
まちづくり④にぎわいと活力のある魅力的なまちづくり	○地域価値向上を図る民間主導のリノベーションまちづくりや、人が中心のまちなかウォーカブル等の取組による中心市街地の活性化	1.39	1.42	1.33
	○湖岸の風景・環境を活かした観光・レクリエーション機能の強化	1.29	1.27	1.25
	○教育・文化・生業の創造や市民の健康増進を促進する機能の充実と市民だけでなく来訪者も活発な交流ができるまちづくり	1.19	1.33	1.23
	○企業誘致等による地域経済の活性化等により雇用機会の拡大	1.65	1.71	1.51
まちづくり⑤「新たな日常」に対応したまちづくり	○テレワークの推進やコワーキングスペースの設置など、地域特性であるゆとりある住環境を活かしたまちづくり	1.13	1.24	1.10
	○民間活力を活用した「起業家の集まるまち」としての取組の推進	1.09	1.27	1.05
まちづくり⑥協働のまちづくり	○まちづくりの主役である市民一人ひとりがより積極的に参加や活動しやすい社会的基盤の確立	1.12	1.06	1.01
	○本計画の進捗状況について市民参画のもとにチェックが可能な体制の整備	1.05	0.94	0.92

※加重平均：

進んだ(3) やや進んだ(2) あまり進んでいない(1) 進んでいない(0) の加重を設定し、
「わからない」と無回答を除く回答者の平均

(5) 優先したいまちづくりの方向（居住年数別集計）

10年未満は、「子どもの遊び場などが充実した子どもや子育て世代にやさしいまち」が他よりも多い。

図表 優先したいまちづくりの方向の居住年数別の比較

	10年未満 (n=126)	10年以上 20年未満 (n=163)	20年以上 (n=489)
自然の恵みと歴史・文化・景観を活かしたまち	21%	26%	25%
脱炭素社会や循環型社会を目指すまち	6%	10%	8%
災害に強いまち	45%	48%	49%
社会的に支援を必要とする人も安心して暮らせるバリアフリーのまち	33%	27%	38%
子どもの遊び場などが充実した子どもや子育て世代にやさしいまち	52%	35%	26%
コミュニティ活動や文化・スポーツ・レクリエーションに親しめすべての人がいきいきと暮らせるまち	13%	24%	24%
道路や公共交通などの交通環境が整備され便利に暮らせるまち	58%	55%	61%
JR守山駅周辺を含む中心商業地において歩いて暮らせるコンパクトなまち	29%	25%	22%
産業の活性化・人口増加によるにぎわいと活力のあるまち	14%	15%	17%
市民だけでなく来訪者も活発な交流ができる魅力的なまち	6%	10%	6%
デジタル技術など先進的な技術が活用されるまち	10%	10%	7%
その他	1%	2%	3%
無回答	0%	1%	1%

(6) まちづくり活動の参加意向（居住年数別集計）

10年未満は、「まちのにぎわいや活性化につながる地域イベントなどへの参加」、「まちづくりの意向に関するアンケートなどへの協力」が他よりも多い。

図表 まちづくり活動の参加意向の居住年数別の比較

	10年未満 (n=126)	10年以上 20年未満 (n=163)	20年以上 (n=489)
まちづくりの意見交換の場（市民懇談会・タウンミーティング等）への参加	12%	11%	11%
良好な住環境の形成や街並みの保全・継承、緑化や水辺の保全・活用などまちづくりのルールづくりへの参加・協力	10%	27%	25%
まちのにぎわいや活性化につながる地域イベントなどへの参加	50%	40%	38%
清掃や緑化活動など、まちを魅力的にする活動への参加	21%	24%	33%
まちづくりの意向に関するアンケートなどへの協力	40%	33%	28%
参加したいと思わない	17%	15%	14%
その他	1%	5%	3%
無回答	3%	4%	5%

(7) 属性（居住年数別集計）

①年齢

10 年未満は 30 代が多く、10 年以上 20 年未満は 40 歳代が多くなっている。

	10 年未満 (n=126)	10 年以上 20 年未満 (n=163)	20 年以上 (n=489)
18～19 歳	1%	6%	0%
20～29 歳	10%	3%	4%
30～39 歳	42%	9%	6%
40～49 歳	23%	33%	10%
50～59 歳	10%	25%	18%
60～69 歳	5%	12%	17%
70～79 歳	5%	9%	29%
80 歳以上	4%	3%	16%
無回答	0%	0%	0%

②中学生以下の子どもの有無

10 年未満は、子どもがいるが 6 割を占め、10 年以上 20 年未満は 4 割となっている。

	10 年未満 (n=126)	10 年以上 20 年未満 (n=163)	20 年以上 (n=489)
いる	59%	42%	12%
いない	40%	58%	88%
無回答	1%	1%	0%

③居住学区

いずれも守山学区が多いが、全ての学区に 10 年未満が見られる。

	10 年未満 (n=126)	10 年以上 20 年未満 (n=163)	20 年以上 (n=489)
守山学区	37%	40%	28%
吉身学区	17%	21%	17%
河西学区	20%	13%	18%
小津学区	6%	6%	8%
玉津学区	4%	4%	6%
中洲学区	2%	3%	3%
速野学区	11%	10%	15%
無回答	2%	3%	6%